

(受住 7 - 3 )

# 大久保旦椋市営住宅受水槽ほか改修工事

図面番号	図面名称	縮尺
	表紙・図面リスト	——
M-00	共通特記仕様書	——
M-01	機械設備工事 特記仕様書-1	——
M-02	機械設備工事 特記仕様書-2	——
M-03	機械設備工事 特記仕様書-3	——
M-04	付近見取図・配置図	1/2500・1/300
M-05	機器表(改修・撤去)系統図	——
M-06	給排水設備 平面図-1 <改修図>	1/100
M-07	給排水設備 平面図-2 <改修図>	1/100
M-08	給排水設備 平面図-1 <撤去図>	1/100
M-09	給排水設備 平面図-2 <撤去図>	1/100
M-10	雨水貯留槽平面図、断面図 仮設給水平面図	1/50・1/100
M-11	受水槽ポンプ室 詳細図 <改修図>	1/50
M-12	受水槽ポンプ室 詳細図 <撤去図>	1/30
M-13	受水槽ポンプ室 参考図 <衛生設備>	1/40
M-14	受水槽ポンプ室 参考図 <電気設備>	——
M-15	施工標準図-1	——
M-16	施工標準図-2	——
M-17	施工標準図-3	——

図面番号	図面名称	縮尺
A-01	建築改修工事特記仕様書 1	——
A-02	建築改修工事特記仕様書 2	——
A-03	建築改修工事特記仕様書 3	——
A-04	建築改修工事特記仕様書 4	——
A-05	建築改修工事特記仕様書 5	——
A-06	建築改修工事特記仕様書 6	——
A-07	建築改修工事特記仕様書 7	——
A-08	建築改修工事特記仕様書 8	——
A-09	建築改修工事特記仕様書 9	——
A-10	建築改修工事特記仕様書 10	——
A-11	建築改修工事特記仕様書 11	——
A-12	アスベスト対策工事特記仕様書	——
A-13	外構平面図 <改修図>	1/200
A-14	外構平面図 <撤去図>	1/200
A-15	立面図 <改修図>	1/100
A-16	受水槽周辺図 <改修図>	1/50
A-17	部分詳細図	1/5～1/25
A-18	受水槽基礎構造図	1/20～1/50
A-19	仮設計画図	1/200

図面番号	図面名称	縮尺
E-01	電気設備工事特記仕様書-1	——
E-02	電気設備工事特記仕様書-2	——
E-03	分電盤 結線図(現況)	——
E-04	幹線系統図(現況・撤去)	——
E-05	電気設備 1階平面図(現況・撤去)	——
E-06	電気設備 2～4階平面図(現況・撤去)	1/200
E-07	分電盤 結線図	——
E-08	電気設備 1階平面図(改修)	1/200
E-09	電気設備 2階平面図(改修)	1/200
E-10	電気設備 3階平面図(改修)	1/200
E-11	電気設備 4階平面図(改修)	1/200
E-12	電気設備 東立面図(改修)	1/150
E-13	受水槽 平面図(現況・改修)	1/50
E-14	電灯設備 配置図(現況・改修)	1/300
E-15	電気設備 1階平面図(仮設)	1/200

<p>A 工事概要</p> <p>1 工事名称 (受住7-3) 大久保旦椋市営住宅受水槽ほか改修工事</p> <p>2 工事場所 宇治市大久保町山ノ内3番地の1</p> <p>3 工事期間 入札通知書による。</p> <p>4 規模構造 R C造4階建て</p> <p>5 建築面積 755.34㎡</p> <p>6 延床面積 2,368.42㎡</p> <p>7 工事範囲</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>受水槽改修工事に伴う機械設備工事 一式</li> <li>受水槽設置工事、給水管設置工事、雨水排水ポンプ設置工事</li> <li>上記に伴う建築工事 一式</li> <li>受水槽基礎設置工事、外構工事(フェンス、駐車場、植栽)</li> <li>上記に伴う電気設備工事 一式</li> <li>受水槽設置に伴う電源工事、雨水排水ポンプ設置に伴う電源工事</li> <li>電気幹線工事</li> <li>上記に伴う撤去・処分 一式</li> </ul> <p>B 特記仕様書</p> <p>1 共通事項</p> <p>a 施工基準</p> <p>b 監理基準</p> <p>c 提出書類等</p> <p>d 建設業退職金共済制度</p> <p>e 工事実績情報</p> <p>f 建設工事保険等</p> <p>g 労災補償に必要な法定外の保険契約について</p> <p>h 工事写真・完成写真</p> <p>i 不正軽油使用防止の徹底</p> <p>j 一般事項</p>	<p>本工事は契約書及び 質疑回答書 現場説明書 特記仕様書 設計図 公共建築改修工事標準仕様書(建築工事編・機械設備工事編・電気設備工事編)及び公共建築工事標準仕様書(建築工事編機械設備工事編・電気設備工事編)(国土交通省大臣官房官庁営繕部監修 令和4年版)により施工する。なお、設計図書間に相違がある場合の優先順位は上記記載の順とする。</p> <p>本工事は建築改修工事監理指針及び建築・機械設備・電気設備・各工事監理指針(国土交通省大臣官房官庁営繕部監修令和4年版)により監理する。</p> <p>契約書及び設計図書に定められた提出書類等を監督職員の指示により、定められた期日までに提出する。受注者は、下請契約を締結する場合には、下請金額に関わらず、施工体制台帳を提出する。また、施工体系図においては、すべての下請負人及び警備業者を記載する。</p> <p>なお、施工体制台帳には監督職員が指示する書類を添付して提出する。</p> <p>受注者は建設業退職金共済制度(建退共)に加入の上、掛金収納書を提出する。工事現場には「建設業退職金共済制度適用事業主工事現場標識」を掲示し、工事完成時には「建退共通営業実績報告書」、「労働者の就労日報」及び「共済証紙受払簿」を提出する。また、下請負人に対しても同共済制度加入を奨励する。</p> <p>受注者は受注時、変更時及び完成時の各時点において、あらかじめ登録内容について監督職員の確認を受けた上で、それぞれ10日以内に(一財)日本建築情報総合センターへ工事実績情報サービス入カシステム(CORINS)の登録申請を行う。</p> <p>また、登録後、直ちに登録されたことを証明する資料を監督職員に提出する(作成、登録等に伴う費用は受注者の負担とする)。</p> <p>受注者は、工事目的物・工事材料等を建設工事保険等(第三者保険を含み、火災による損害が見込まれる場合は火災保険を含む)に付し、その保険証書の写し又はこれに代わるものを提出する。なお、その保険の加入期間は、工事着工の時から、工事完成期日後14日迄とする。</p> <p>受注者は、「公共工事の品質確保の促進に関する法律の一部を改正する法律」(令和元年法律第35号)に基づき、公共工事等に従事する者の業務上の負傷等に対する補償に必要な金額を担保するための保険(法定外の労災保険)に付する。</p> <p>工事写真撮影ガイドブック(国土交通省大臣官房官庁営繕部監修 令和5年版)を参考に、着工前・工事中の各段階の工程の内容が充分把握できるよう撮影する。工事完成時には、完成写真を撮影し、着工前・工事中と共に工事用アルバムに整理の上1部提出する(データ共)。</p> <p>なお、着工前・完成写真は、着工前・完成を一对(左右または前後)として整理すること。</p> <p>受注者は建設機械等の燃料としての軽油はJIS規格軽油以外のものを使用してはならない。</p> <p>また、下請負人等に対しても不正軽油使用防止の指導・監視を徹底する。受注者は、京都府税務調査員による燃料検査に協力しなければならない。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>軽微な変更については、請負金額の増減は行わない。</li> <li>工事現場には、仮囲いを行い同現場の安全に十分配慮する。特に、工事車両の出入り及び時間等については、当該施設運営管理者等と十分打合せを行い交通安全管理に配慮する。</li> <li>騒音・臭気等が発生する工事については、作業時間・日時について当該施設運営管理者と協議し、施設の運営管理等に支障をきたさぬよう配慮する。</li> <li>既存部分については、受注者において汚染・損傷の無いよう十分な養生を行う。万一損傷等が生じた場合は、監督職員に報告の上受注者の責任において、現状復旧する。</li> <li>使用材料は、設計図書に記載されたもの又は同等品とする。同等品とする場合は、事前に監督職員にカタログ等資料を提出し、承認を受ける。</li> <li>工事完成時には、社内検査を実施する。</li> <li>本工事は市の行う完成検査に合格し、工事目的物引渡書の提出をもって完了とする。</li> <li>使用機器については、環境負荷の軽減に努めるものとし、排出ガス対策型機器・低騒音型機器・低振動型機器・低燃費型機器の使用を促進する。また、電動工具類は、整備された工具を使用し、安全性に責任を持ち管理する。</li> </ul>	<p>k その他</p> <p>l 過積載防止</p> <p>m 官公庁その他への手続き</p> <p>n 技術者及び現場代理人</p> <p>o 工事完了時の整地</p> <p>p 建設発生土の処分</p> <p>q 解体等工事の事前調査</p> <p>産業廃棄物税</p> <p>3 仮設工事</p> <p>工事電力・工用水</p> <p>工用水電力設備の保安責任者</p> <p>設置・維持管理</p> <p>仮囲い</p> <p>内外足場・養生等</p> <p>墜落制止用器具の使用について</p> <p>4 その他</p> <p>電気・機械設備工事</p> <p>5 完成図書</p> <p>完成に際しては以下の図書を提出する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>交通誘導警備員は、現場説明書による。</li> <li>公共工事の入札及び契約の適正化の促進に関する法律の定めに従って、各下請負人の施工の分担関係を表示した施工体系図を作成し、工事関係者が見やすい場所及び公衆が見やすい場所に掲げ、所定の様式により監督職員に提出する。</li> <li>受注者は、宇治市が指名停止処置を行っている第三者に対して宇治市の契約についての全て、若しくは一部を下請、受託させてはならない。</li> </ul> <p>受注者は本工事における材料等の搬出入に伴う、工事車両の過積載防止について、十分注意を払うと共に、下請負人への指導を徹底する。</p> <p>工事の施工に必要な官公庁その他への手続きは、受注者の責任において速やかに行うものとする。</p> <p>なお、これに要する費用は受注者の負担とする。</p> <p>受注者は、主任技術者及び監理技術者並びに現場代理人について、受注者と直接的かつ恒常的な雇用関係にある者から選任し、配置しなければならない。</p> <p>受注者は工事完了時に、工事敷地内及び車両通行部分は、必要に応じ砂を搬入し、整地を行う。既設コンクリート舗装、アスファルト舗装等の損傷箇所については、原状復旧する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>建設発生土を搬出する場合は「残土処理計画書(報告書)」を提出する。同計画書には処理場所の位置図及び経路図、受入承諾書を添付する。同報告書には処分したことが判明する資料(受入証明書)及び写真等を添付する。</li> <li>その他の建設発生土の取扱いについては、現場説明書による。</li> </ul> <ul style="list-style-type: none"> <li>受注者は、改正大気汚染防止法第18条の15第1項・第4項に基づき、改修工事対象となる全ての部材について、特定建築材料の使用の有無について調査し、その結果を発注者に説明する。</li> <li>また、第18条の15第3項・第4項に基づき、事前調査結果の記録を作成し、保存しなければならない。</li> <li>調査方法は、分析による調査、目視、設計図書等による。</li> <li>受注者は、改正大気汚染防止法第18条の15第5項に基づき、事前調査結果を公衆の見やすい場所に掲示する。</li> </ul> <ul style="list-style-type: none"> <li>撤去材・発生材は、場外搬出し関係法令を遵守し処理するものとし、「廃棄物処理計画書(報告書)」を随時提出する。同計画書には、当該廃棄物の処分業の許可証の写し、受注者と処分業者の契約書の写しに加えて、処分地の位置図及び経路図を添付する。また廃棄物を委託して運搬する場合は、該当する収集運搬業の許可証(搬出地と搬入地)の写しと受注者と運搬業者との契約書の写しを添付する。同報告書には処分したことが判明する資料として、運搬管理表(又はマニフェストの写し)及び写真等を添付する。</li> <li>本工事の施工により発生するアスファルト塊、コンクリート塊及び木材は再資源化施設に搬出する。</li> <li>その他の建築副産物の取扱いについては、現場説明書による。</li> <li>「廃棄物の処理及び清掃に関する法律」による産業廃棄物の収集運搬車に係る表示及び書面添付を行う。</li> <li>工事完了時に産業廃棄物の収集運搬車両への表示状況を確認できる写真を提出する。</li> </ul> <p>「京都府産業廃棄物税条例」に基づき導入される産業廃棄物税(以下「産廃税」という)は京都府内の最終処分施設に搬入される産業廃棄物について課税されるものである。また、中間処理施設に搬入された産業廃棄物においてもリサイクル後の処理残滓(ザンサイ)等が最終処分場に搬入される場合は、最終処分場に搬入される量に対して課税される。</p> <p>なお、本工事においても、産廃税相当額を見込んでいる。(産廃税も本工事に含む)</p> <p>現場説明書による。</p> <p>工用水電力設備の保安責任者を定め報告する。当該施設に電気主任技術者が専任されている場合はその指示を仰ぐ。持込電動機器は整備された機器以外は持込させてはならない。また、仮設分電盤内に漏電遮断器を取り付け事故の防止に努める。</p> <p>現場説明書による。</p> <p>施工範囲・資材置場等に対しての侵入防止策を講じる。(フェンスバリアード(シート貼り共)等)</p> <p>詳細については仮設計画図による。</p> <p>足場等は、労働安全衛生法・建築基準法・建設工事公衆災害防止対策要綱その他関係法令に従い適切な材料および構造のものとし、適切な保守管理を行う。高所作業車使用時含む。また、仮設計画を作成し監督職員と協議を行う。</p> <p>近接する他の部材や工作物の部分を損傷しないようにメッシュシート又は工用水シート等で養生を行う。外部足場については、手摺先行型枠本足場(W=900以上)とする。足場の設置に関しては、「手すり先行工法に関するガイドライン(厚生労働省 平成15年4月制定・平成21年6月1日改正)」に基づく働きやすい安心感のある足場とし、二段手すりと幅木の機能を有する部材があらかじめ備えられた手すり先行専用足場型とするか、または改善措置機材を用いて手すり先行専用足場型と同等の機能を確保する。また、外部足場には昇降足場を設置する。</p> <p>受注者は、労働安全衛生法施行令、労働安全衛生規則等の改正(平成31年2月)に伴い、高所作業を行う場合には、「墜落制止用器具の安全な使用に関するガイドライン」に基づき、墜落、転落による労働災害の防止に努める。</p> <p>工事着工に際し、事前に必要な機器(照明機器・放送設備・空調機器・受信設備等)器具の機能確認を行い、その結果を書面にて監督職員に報告する。</p>																				
備考		<p>吉村建築事務所</p> <p>1級建築士登録第248236号 吉村 薫</p>	<table border="1"> <thead> <tr> <th>名称</th> <th>内容</th> <th>サイズ</th> <th>部数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>完成図(背張り製本)</td> <td>特記仕様書・完成図・施工図</td> <td>A2版</td> <td>2部</td> </tr> <tr> <td>完成図書</td> <td>機器完成図・機器保証書・取扱説明書・各種試験成績書・諸官庁提出書類(写)</td> <td>A4版</td> <td>2部</td> </tr> <tr> <td>諸官庁提出書類</td> <td>副本</td> <td></td> <td>一式</td> </tr> <tr> <td>完成図データ</td> <td>CADデータ(ファイル形式は任意とするが、JWW形式で出力したものを添付する)、PDF</td> <td>C D - R</td> <td>1部</td> </tr> </tbody> </table> <p>工事名 大久保旦椋市営住宅受水槽ほか改修工事</p> <p>設計年月日 2024. 11 .</p> <p>図面番号 M— 00</p> <p>図面名 共通特記仕様書</p> <p>縮尺 _____</p>	名称	内容	サイズ	部数	完成図(背張り製本)	特記仕様書・完成図・施工図	A2版	2部	完成図書	機器完成図・機器保証書・取扱説明書・各種試験成績書・諸官庁提出書類(写)	A4版	2部	諸官庁提出書類	副本		一式	完成図データ	CADデータ(ファイル形式は任意とするが、JWW形式で出力したものを添付する)、PDF	C D - R	1部
名称	内容	サイズ	部数																				
完成図(背張り製本)	特記仕様書・完成図・施工図	A2版	2部																				
完成図書	機器完成図・機器保証書・取扱説明書・各種試験成績書・諸官庁提出書類(写)	A4版	2部																				
諸官庁提出書類	副本		一式																				
完成図データ	CADデータ(ファイル形式は任意とするが、JWW形式で出力したものを添付する)、PDF	C D - R	1部																				

機械設備工事特記仕様書 1

【工事概要】
1 工事場所 宇治市大久保町山ノ内3番地の1
2 建物概要
建物名 構造 階数 延床面積(㎡) 消防法令別表第一 耐震安全性の分類 備考
共同住宅 RC 4
3 工事項目
工事項目 建物名称 共同住宅
空調設備
換気設備
排煙設備
自動制御設備
衛生器具設備
給水設備
排水設備
給湯設備
消火設備
ガス設備
厨房機器設備
浄化槽設備
医療ガス設備
撤去工事

【特記事項】
1 一般事項
1) 特記仕様書及び図面に記載されていない事項は、国土交通省大臣官房官庁営繕部の「公共建築工事標準仕様書(機械設備工事編)令和4年版(以下、「標準仕様書」という。)、公共建築設備工事標準図(機械設備工事編)令和4年版(以下「標準図」という。)、及び「公共建築改修工事標準仕様書(機械設備工事編)令和4年版」による。
2) 工事項目に電気設備工事及び建築工事を含む場合、その仕様は当該図面及び標準仕様書による。
項目及び特記事項は、印をついたものを本工事に適用する。ただし、印のない場合は、印を適用する。印と印の付いた場合は、共に適用する。印が抹消された場合は、印のみ適用する。

表形式の特記事項。項目: 設備機材等, 機材の承諾, 機材の品質・性能証明, 現場代理人, 電気保安技術者, 技能士(一級), 工事用電力・水その他, 官公署への手続き, 工事用仮設物, 足場・作業構台, 監督職員事務所, 監督職員事務所に備え付ける図書, 建設副産物の処理及び建設発生土の処理, 再生資源利用(促進)計画・実施書の提出, 建設発生土処理計画書, 関係法令等に従い、適切に廃棄物等を処理し、「建設発生土処理報告書」及び「建設副産物処理報告書」により監督職員に報告する, 冷媒については関係法令に従い適切に破壊処分を行う(家電リサイクル法対象機器を除く。)(積込: 本工事 別途、処分費: 本工事 別途、運搬費: 本工事 別途), アスベストの処理等, 1) 次の資機材のアスベスト含有の有無は以下による, アスベスト含有率調査は以下のとおりとする

表形式の特記事項。項目: 工事関係書類, 履行報告, 工事写真, 完成図書, 著作権等, 付属品及び予備品, 耐震施工, 一般用弁, フレキシブルジョイント, 伸縮管継手(鋼管用), 溶接接合, 地中埋設機材及び埋設表示用テープ, 防食処理, 保温, 塗装, 吹出口及び吸込口ボックス, ステンレス製ダクトの板厚, ボックス, ボックスの表示, 誘導電動機, 開放形膨張タンク等, 電線及び電線管

表形式の特記事項。項目: はつり, インサート及びアンカー(壁面等), 防煙ダンパー及び防火防煙ダンパー, 消音内貼, ドレン抜き, 取付枠, 機器の基礎, 防火区画, 掲示板, 天井仕上区分, 給油設備, 建物導入部配管(排気及び通気を除く), 鋼材, 制御及び操作盤, 主要熱源機器, 設計時の温湿度条件, 長方形ダクトの工法, ダクトの分岐方法, 配管材料(図面特記部分は除く), 空調用排水管, 補給水管, 膨張管, エア抜き管, 冷媒管, 冷媒管接続方法, 温度計, 定風量ユニット, 変風量ユニット, ファンコイルユニット, パナソニック製冷凍機, エアコン制御方式, 電動機, 高圧再生器の構造, コージェネレーション装置, 集約リモコン

吉村建築事務所
1級建築士登録第248236号 吉村薫

工事名 大久保旦栢市営住宅受水槽ほか改修工事
設計年月日 2024. 11.
図面番号 M-01
図面名 機械設備工事 特記仕様書-1
備考

機械設備工事特記仕様書 2

章	項目	特記事項
空気調和設備	鋼板製煙道	厚さ 3.2mm 4.5mm
	ばい煙濃度計	ばい煙濃度計の取付座 ばいじん量測定口 伸縮継手 掃除口
	瞬間流量計	ファン付 ファンなし (電源は熱源機器付属制御盤より取出し、配管配線共本工事に含む)
	保温 (図面特記部分は除く)	1) 冷媒管の保温外装は下記による。 ・屋内 隠ぺい部 不要 必要 露出部 保温化粧ケース (塩化ビニル樹脂製) カラー亜鉛鉄板 ビニル化粧テープ巻き ・屋外 ステンレス鋼板 保温化粧ケース (樹脂製 アルミ合金製) ・保温化粧ケースの下部カバー 必要 不要 2) ファンコイルユニット等のドレン管の保温は、給排水設備工事の排水管による。 3) 加湿用給水水槽の保温は膨張タンクに準ずる。 4) トラフ内の油管はプラスチックテープ1/2重ね1回巻きとする。
換気設備	ダクトの工法	アングルフランジ工法 コーナーボルト工法 ( 共板フランジ工法 スライドオンフランジ工法 ) スパイラルダクト アルミフレキシブルダクト
	ダクトの分岐方法	給気ダクト 割込み方式 直付け方式 排気ダクト 割込み方式 直付け方式
	厨房排気ダクトの板厚	厨房排気ダクトは亜鉛鉄板製とし、板厚は下記による。
排煙設備	ダクトの材料	亜鉛鉄板製 普通鋼板製
	排煙口	1) 形状 スリットフェース形 パネル形 ダンパー形 2) 排煙口の開放 手動 ( 機械式 電気式 ) 煙感知器連動 3) 復帰装置 手元復帰式 ( 手動式 電気式 ) 遠方復帰式 4) ダンパー本体及び操作箱との渡り配線は本工事とし、それ以降の制御配管配線は別途工事とする。
	保温	床下及び暗渠内の保温 不要 必要 ( 図示 )
衛生器具設備	小便器用節水装置	電気供給方式 A C 電源 乾電池 水流発電充電電池
	自動水栓	電気供給方式 A C 電源 乾電池 水流発電充電電池 手動スイッチ 無し 有り
給水設備	給水方式	公共水道直結 受水タンク及び高置タンク 受水タンク及び加圧ポンプ
	配管材料 ( 図面特記部分は除く )	一般配管 ステンレス鋼管 ( SUS304 ) ( 呼び径 60Su 以下は拡管式、呼び径 75Su 以上は溶接接合 ) 保温付き ( 保護材 ) ポリブデン管 ポリ粉体ライニング鋼管 ( SGP - PB、SGP - FPB ) 塩ビライニング鋼管 ( SGP - VA、SGP - FVA ) ビニル管 ( HIVP ) 地中配管 [ 屋内 ] ステンレス鋼管 ( SUS316 ) ( 呼び径 60Su 以下は拡管式、呼び径 75Su 以上は溶接接合 ) 水道用ポリエチレン二層管 ( 50 以下 ) ( 2種 1種 ) ( ポリエチレン管の接合方法は 電気融着 メカニカル ) ポリ粉体ライニング鋼管 ( SGP - PD、SGP - FPD ) 塩ビライニング鋼管 ( SGP - VD、SGP - FVD ) 地中配管 [ 屋外 ] ビニル管 ( HIVP ) 水道配水用ポリエチレン管 ( 50 以上 ) ( PE ) ( 日本水道協会規格品 ) ポリ粉体ライニング鋼管 ( SGP - PD、SGP - FPD )
緊急遮断弁装置	要 不要	要 不要
	駆動方式	電気式 機械式
量水器	現地表示式 ( 直読式 )	
	遠隔表示式	

章	項目	特記事項
給水設備	水栓柱	合成樹脂製 ( 70 x 70 x 1300H ) ステンレス製 ( ) アルミニウム合金製 ( ) 特記なき場合、水栓取付け高さは約 600 とする。
	管の埋設深さ	1) 一般敷地 600mm 2) 構内車両通路 600mm 3) 寒冷地では凍結深度以上とする。
排水方式	汚水と雑排水 [ 屋内 ]	分流式 合流式
	汚水・雑排水と雨水 [ 屋外 ]	分流式 合流式 有り ( 雑排水 汚水 雨水 湧水 浄化槽 2 次側 ) なし
放流式	汚水	直放流下水管 浄化槽
	雑排水	直放流下水管 浄化槽 別途樹・側溝
配管材料 ( 図面特記部分は除く )	雨水ポンプアップ	直放流下水管 雨水側溝 雨水樹
	湧水ポンプアップ	直放流下水管 雨水側溝 雨水樹
屋内雑排水管	排水用塩ビライニング鋼管 ( D - VA )	鋼管 ( SGPW ) ( ねじ接合 MDジョイントによる接合 ) ビニル管 ( VP ) 耐火二層管
	排水用塩ビライニング鋼管 ( D - VA )	鋼管 ( SGPW ) ( ねじ接合 MDジョイントによる接合 ) ビニル管 ( VP ) 耐火二層管
通気管	リサイクル硬質ポリ塩化ビニル発泡三層管 ( RF - VP )	鋼管 ( SGPW ) ( ねじ接合 MDジョイントによる接合 ) ビニル管 ( VP ) 耐火二層管
	リサイクル硬質ポリ塩化ビニル三層管 ( RS - VU )	鋼管 ( SGPW ) ( ねじ接合 MDジョイントによる接合 ) ビニル管 ( VP ) 耐火二層管
地中配管 [ 屋内 ]	リサイクル硬質ポリ塩化ビニル管 ( REP - VU )	リサイクル硬質ポリ塩化ビニル三層管 ( RS - VU ) リサイクル硬質ポリ塩化ビニル発泡三層管 ( RF - VP ) ビニル管 ( VP )
	リサイクル硬質ポリ塩化ビニル管 ( REP - VU )	リサイクル硬質ポリ塩化ビニル三層管 ( RS - VU ) ビニル管 ( VP )
地中配管 [ 屋外 ]	リサイクル硬質ポリ塩化ビニル管 ( REP - VU )	リサイクル硬質ポリ塩化ビニル三層管 ( RS - VU ) ビニル管 ( VP )
	リサイクル硬質ポリ塩化ビニル管 ( REP - VU )	リサイクル硬質ポリ塩化ビニル三層管 ( RS - VU ) コンクリート管
満水試験継手	必要 ( 図示箇所に取付ける ) 不要	
負担金	不要 必要 ( 別途 本工事 )	
本管接続工事	本工事 別途工事	
給湯設備	給湯方式	中央式 局部式
保温	配管材料	鋼管 ( 壁又は床埋設をする場合は、保温付被覆鋼管を使用してもよい。 ) ステンレス鋼管 圧縮・プレス接合 耐熱性塩ビライニング鋼管 保温付き ( 保護材 ) ポリブデン管 架橋ポリエチレン管
	保温	ガス湯沸器の排気筒の隠蔽箇所の保温は、標準仕様書第 2 編 3.1.5 の表 2、3、5 による。
消火設備	消火設備の種類	屋内消火栓 スプリンクラー 泡消火 不活性ガス消火 ( ) 連結送水管
	表示灯	屋内消火栓箱には、消火ポンプ運転表示灯取付用口を設ける。
配管材料 ( 図面特記部分は除く )	一般配管	配管用炭素鋼管 ( 白 ) 圧力配管用炭素鋼管 ( 白 ) 消火用ポリエチレン管 ( PE )
	地中配管	消火用ポリエチレン管 ( PE ) 外面被覆鋼管 ( SGP - VS ) 消火用ポリエチレン管
保温	屋内外地中配管	消火用充水タンクの保温を 施工する ( 膨張タンクによる ) 施工しない 消火用呼水タンクの保温を 施工しない 施工する ( 膨張タンクによる ) 屋外露出管の保温を 施工しない 施工する ( 給水管の保温仕様準ずる ) 屋内露出管の保温を 施工しない 施工する ( 給水管の保温仕様準ずる ) トレンチ内の保温を 施工しない 施工する ( 給水管の保温仕様準ずる )
	ガス	都市ガス ( 発熱量 45,000 kJ/N m³ ) 液化石油ガス ( 50 kg 本立 20 kg 本立 )
ガス	ガスメーター	既設メーター 貸与品 購入
	配管材料 ( 図面特記部分は除く )	一般配管 配管用炭素鋼管 ( 白 ) 屋内外地中配管 ポリエチレン被覆鋼管 ガス用ポリエチレン管
備	都市ガスの場合は、供給者仕様による。大阪ガスネットワーク(株) 075-315-8920 塚本様 設備技術チーム 設備業務グループ 豊田様 075-315-8865	
	地中埋設管の接合法	SGM工法 ネジ工法 PE工法
ビット内施工法	溶接工法	
	負担金	不要 必要 ( 別途 本工事 )
本管接続工事	本工事 大阪ガス(株)工事	
掘削工法	掘削工法	バーカッション式 ロータリー式 ダウンザホールハンマー式
	掘削工法	掘削工法
掘削工法	掘削工法	掘削工法
	掘削工法	掘削工法

その他	コア抜き ( グイドリル穴明け )	鉄筋探査機により探査し鉄筋、配管類の位置に墨出しを行う。 参考メーカー 日本無機機 ハンディサーチ R C レーダー N J J - 1 0 5 型同等品
	校正記録	試験機器類の校正記録を提出する。
	交通誘導員	機器類搬入時、撤去材搬出時、外部掘削時に配置する。
	保安器材	カラーコーン、コーンウエイト、コーンバーにて囲いながら掘削する。
	鉄板敷き	1.5 2.4 x 6.0 9.6 x 厚 2.2 mm
アンカーボルト		

別表 付属品・予備品

鉄筋探査機により探査し鉄筋、配管類の位置に墨出しを行う。

工具箱 ( ドライバー、モンキーレンチ、組スバナー、ハンマー )	
マンホールフック	パイプレンチ ポンプブライヤー ラバーカップ ( 大、小 )
イーゼルキャビネット	箱 キーボックス
盤類予備品 ( ランプ及びヒューズの 1 0 0 % )	

試験・検査

水圧試験	排水満水試験	排水通水試験	風量測定	吹出口温度測定
気密試験	点火試験	機器類動作試験	絶縁試験	
騒音測定	振動測定	絶縁試験		
消防設備試験	水質検査	水槽水張り試験	アンカー引張試験 ( 建物外壁等 )	

凡 例

記 号	名 称	SGP	HIVP	VP	FDPD	PE	SGP-(白)	VS	PE	備 考
		-FPB			-VP					
—— - ——	給水管 (地中埋設、土間下部分)		(散水栓系統)						(75, 50)	
—— - ——	給水管 (一般部分、PS立管部分)		(PS内系統)							PS内改修系統)
—— - ——	給水管 (ポンプ室 露出部分)									
—— W ——	給水管(直圧) (地中埋設、土間下部分)									
—— W ——	給水管(直圧) (ポンプ室 露出部分)									JWWA
—— - - - ——	屋外汚水管 (地中埋設、土間下部分)									
—— - - - ——	雑排水管 (地中埋設、土間下部分)									
-----	雨水排水管 (地中埋設、土間下部分)									
-X-X-X-X-	撤去給水管									
⊕	散水栓									
⊙	排水金具									
⊘	給水栓									
⊗	埋設弁									
⊠	雑排水樹 雨水樹									
⊙ FE	埋設表示ピン(鋼製)									
⊠ PC	埋設表示杭(コンクリート製)									
⊙	PS内既設給水管に接続									
⊠	タ'イメント'カッター穴明け (PS内75 × 200L)									
	(雨水貯留施設100 × 200L)									
	( " 125 × 200L)									
-----	既設配管の接続箇所を示す。									
-----	既設配管の切断・閉塞箇所を示す。									

製造業者指定

NO	品 目	製 造 者 名 簿
1	排水金具 (排水トラップ・掃除口等)	ダイドレ(株) (株)小島製作所 福西鑄物(株)
2	ポンプ(自動給水、排水ポンプ)	(株)川本製作所 (株)荏原製作所 (株)テラル
3	銅板製一体型受水槽	(株)NYK西日本 (株)小堀製作所 三協機工(株)
4		
5		
6		
7		

- 1) 上表中 印を適用する
- 2) 管材は下記の通りとする
  - SGP-FPB 水道用ポリエチレン粉体ライニング鋼管
  - SGP(白) 配管用炭素鋼鋼管
  - VP 硬質塩化ビニル管
  - FDPD-VP 耐火二層管(VP)
  - HIVP 水道用耐衝撃性硬質塩化ビニル管
  - PE 水道配水用ポリエチレン管(PE)(日本水道協会規格品)

保温・塗装の種別

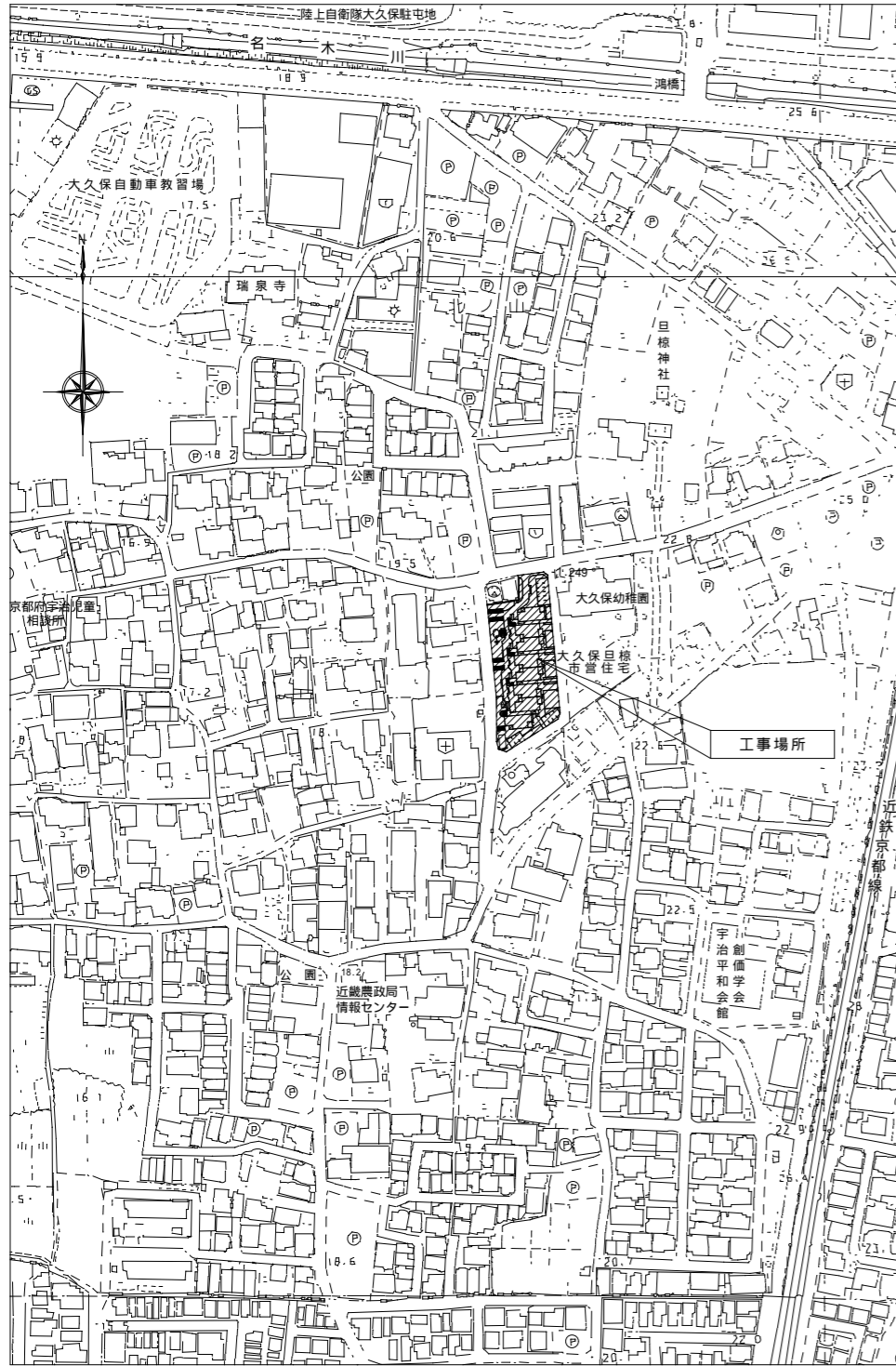
名 称	管 材	受水槽	屋 内 隠 蔽			コンクリート埋込	屋外露出
		ポンプ室	屋内露出	木造壁内	PS		
給水管	水道用耐衝撃性硬質ビニル管 HIVP	D	C	——	——	無	——
給水管	水道用ポリエチレン粉体ライニング鋼管 PB	D	C	——	B	J	C
排水管	雨水管(SGP)	——	——	——	——	J	I
排水管	雨水管(VP)	——	水中	——	——	——	——

保温材料及び施工順序

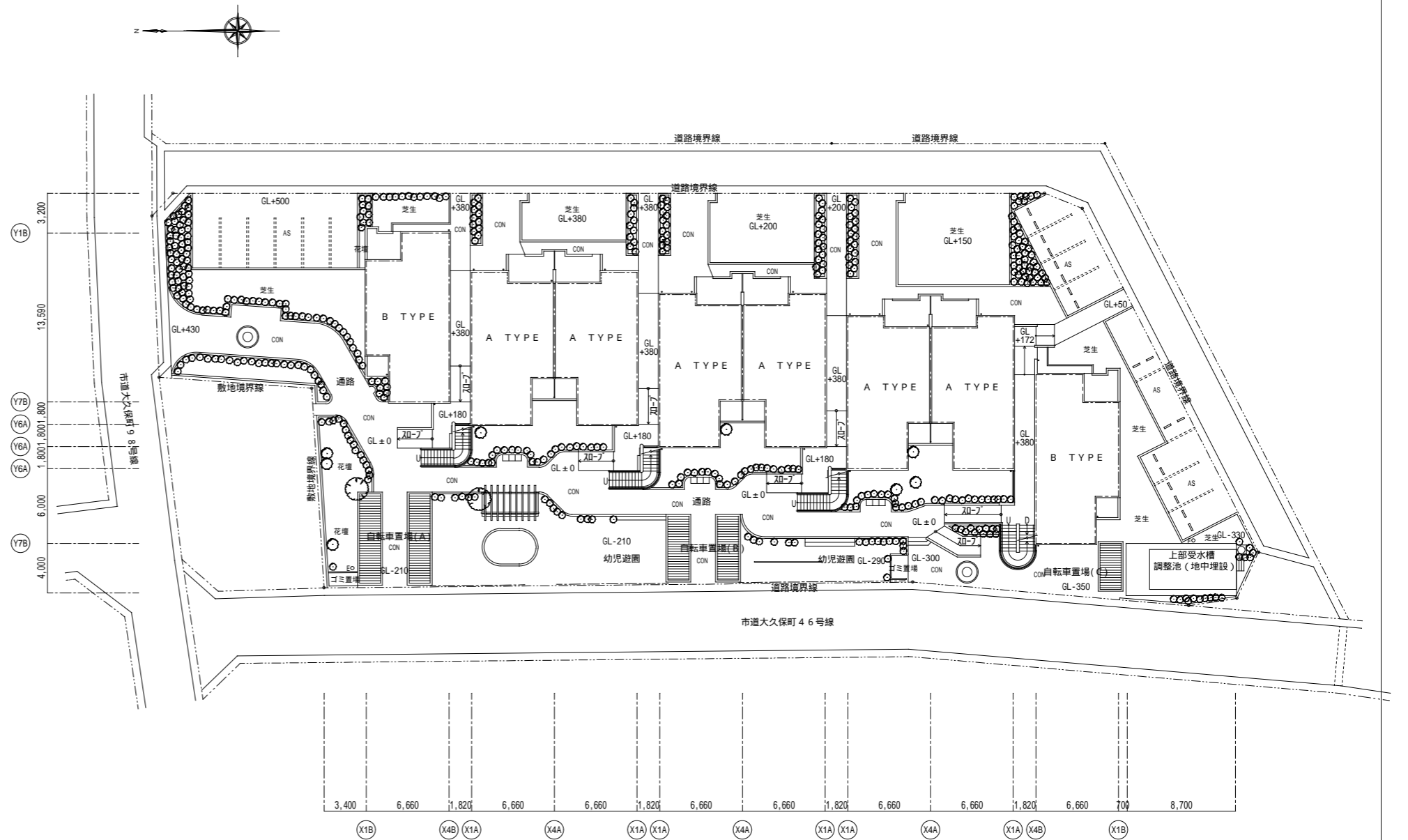
記号	保 温 材	施 工 順 序
B	ポリスチレンフォーム保温筒 (20mm)	粘着テープ+アルミガラスクロステープ
C	ポリスチレンフォーム保温筒 (20mm)	粘着テープ+ポリエチレンフィルム+ステンレス鋼板(SUS304, 0.2mm)つや消し
D	ポリスチレンフォーム保温筒 (20mm)	粘着テープ+ポリエチレンフィルム+着色アルミガラスクロス

塗装及び防食施工順序

記号	施 工 順 序
I	錆止め2回(亜鉛鍍金部のみ下地処理としてエッチングプライマー1回+錆止め1回)
J	防食テープ巻き(ハ-フラップ2回巻き)



付近見取図 S=1/2500



配置図 S=1/300

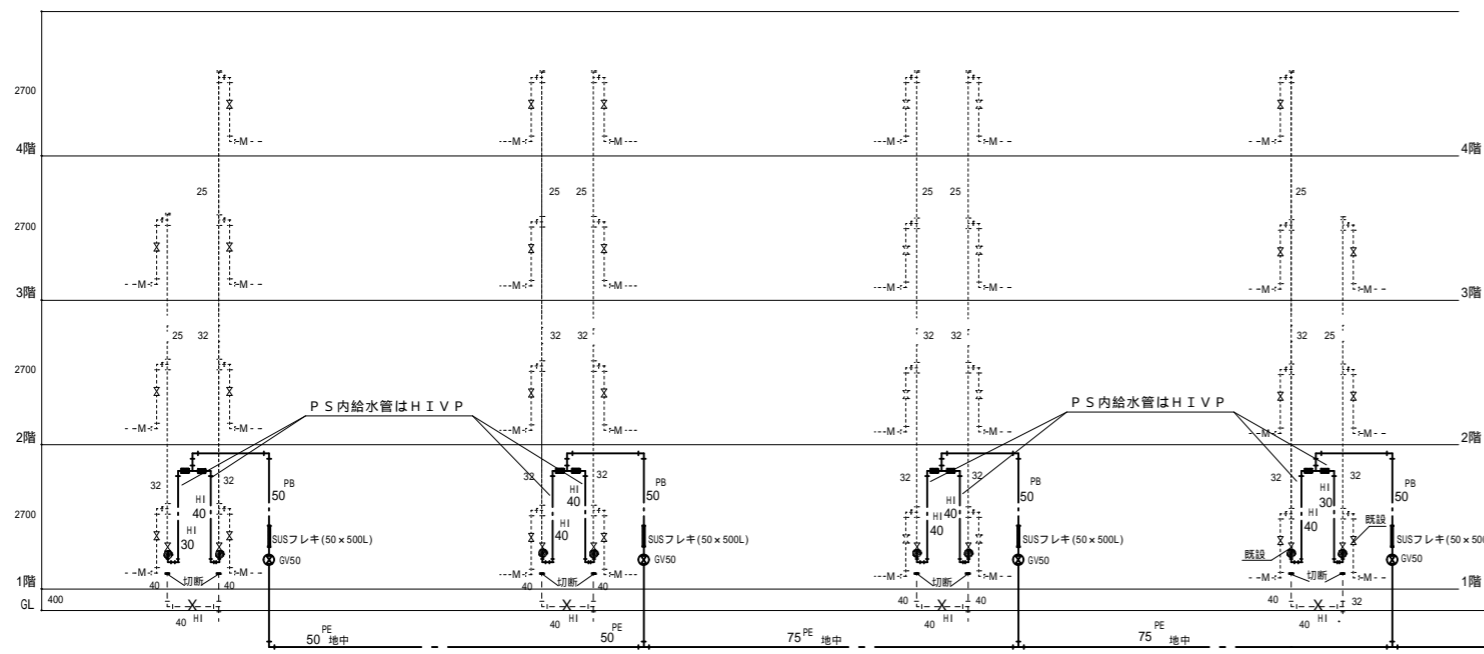
備考	吉村建築事務所 1級建築士登録第248236号 吉村 薫	工事名	大久保旦椋市営住宅受水槽ほか改修工事	設計年月日	2024. 11 .	図面番号	M-04
		図面名	付近見取図・配置図	縮尺	1/2500 1/300		

機器表 (改修)

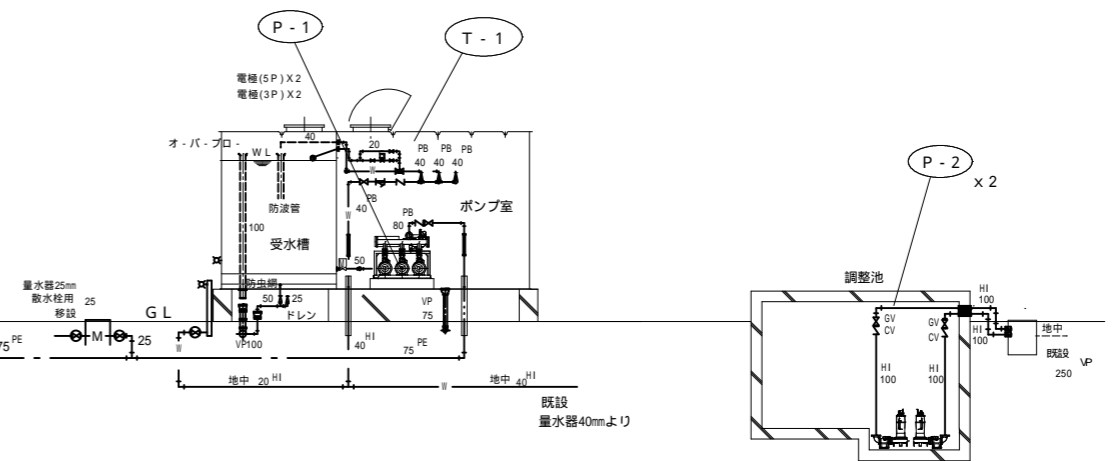
記号	機器名	仕様 電気容量 x v w	台数	参考品番、備考
T-1	受水槽	鋼板一体型 ポンプ室付 飲用水量 容量 11.2m <sup>3</sup> 耐震 1.5G 受水槽 2.5m x (1.5+1.5)m x 2.5mH ポンプ室 2.8m x 3.0m x 2.5mH マンホールX3 内外ハシゴ 通気口X2 電極取付座X4 水槽内 VP防波管100、VPオ-ル-ブ-配管100 電動緊急遮断弁 50A x 2個 遮断弁用制御盤共 ポンプ室(防火扉 (800W X 1800H)) ポンプ室内タラップ、共 水槽内 VP防波管100、VPオ-ル-ブ-配管100 通気口 電極取付座	1	屋外 3分割搬入、現地組立 コンクリート基礎(建築工事)
P-1	自動給水装置 (ユニット型)	推定末端圧力一定方式 (インバーター制御) ステンレス製 3台ロータリー 2台並列運転 附属品一式共 ポンプ制御盤(二槽式受水槽、電磁弁回路、緊急遮断弁回路)付 80A X 40A X 185L/min X 3.2mH X 3 X 200V X 1.5kw x 2 異常表示、外部信号、運転表示、少量停止機能、 仕切弁、逆止弁、圧力計、ベ-ス、相フランジ	1	ポンプ室 KF2-40R3E1.5型 コンクリート基礎(本工事) 1300 X 900 X 200H
P-2	雨水排水ポンプ	汚水汚物水中ポンプ 水中ケーブル10m 相フランジ 共 自立屋外制御盤 自動交互並列運転 フロートスイッチ付 80A X 500L/min X 10.0mH X 3 X 200V X 2.2kw 着脱装置付、ガイドレールチェーン SUS製、標準附属品一式共	2	調整池 BU4-806-2.2 ECDD3-P2.2-03 EHF5-4X10S

機器表 (撤去)

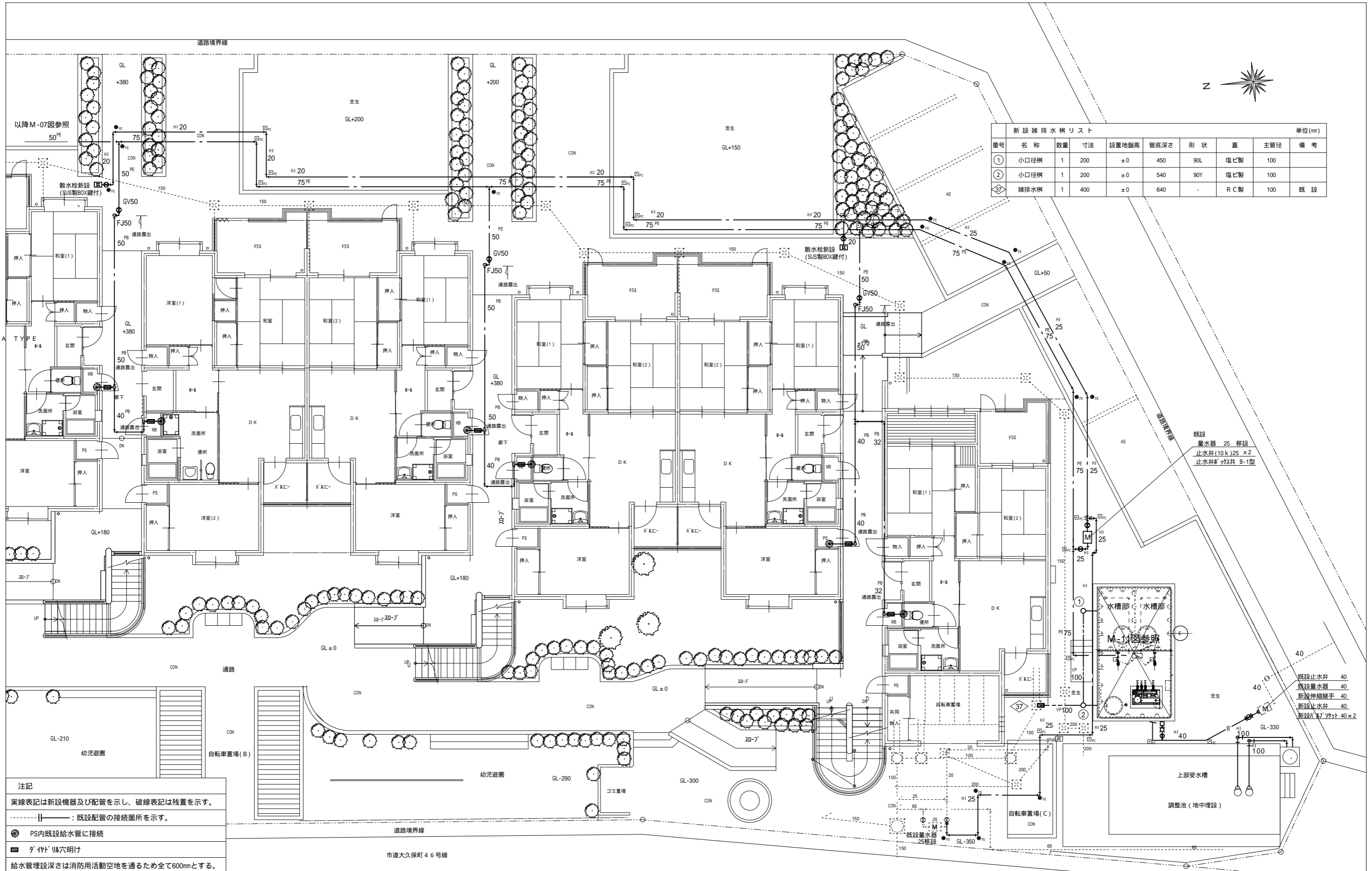
記号	機器名	仕様 電気容量 x v w	台数	参考品番、備考
T-2	既設 受水槽 ポンプ室	FRP製パネル水槽(複合板) 2槽式 鋼製平架台共 (2.0m+2.0m) X 3.0m X 2.0mH 容量 24.0m <sup>3</sup> ポンプ室 4.0m X 3.0m X 2.0mH 内外ハシゴ、マンホール 配管付属品一式撤去共	1	屋外
P-3	自動給水装置	圧力一定方式 ステンレス製 交互運転 国土交通省仕様 40A X 185L/min X 3.2mH X 3 X 200V X 1.5kw x 2 ポンプ制御盤(二槽式受水槽、電磁弁回路)付 仕切弁、逆止弁、圧力計、ベ-ス、相フランジ 附属品一式共	1	ポンプ室
P-4	雨水排水ポンプ	自吸ポンプ 100A X 1000L/min X 13.0mH X 3 X 200V X 5.5kw 仕切弁、逆止弁、圧力計、ベ-ス、相フランジ	2	ポンプ室



給水系統図



注記  
 実線表記は新設機器及び配管を示し、破線表記は残置を示す。  
 ● PS内既設給水管に接続  
 ■ ゲイト' 埋穴明け



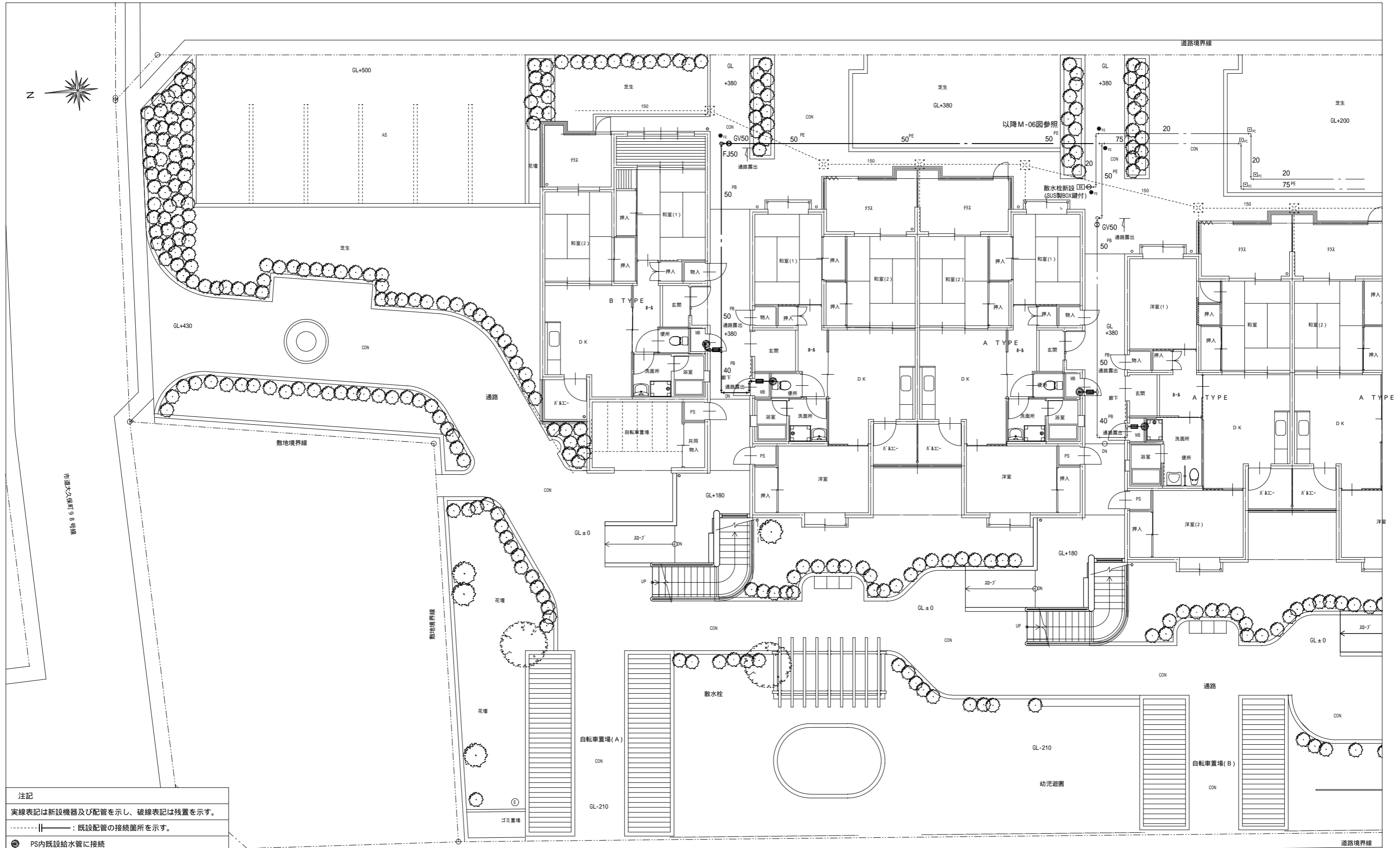
番号	名称	数量	寸法	設置地盤高	管底深さ	形状	蓋	主管径	備考
①	小口径樹	1	200	±0	450	90L	塩ビ製	100	
②	小口径樹	1	200	±0	540	90Y	塩ビ製	100	
③	雑排水樹	1	400	±0	640	-	R C製	100	既設

既設  
量水器 25 移設  
止水弁(10k)25 x 2  
止水弁 75共 B-1型

既設止水弁 40  
既設量水器 40  
新設伸縮継手 40  
新設止水弁 40  
新設1寸口径 40 x 2

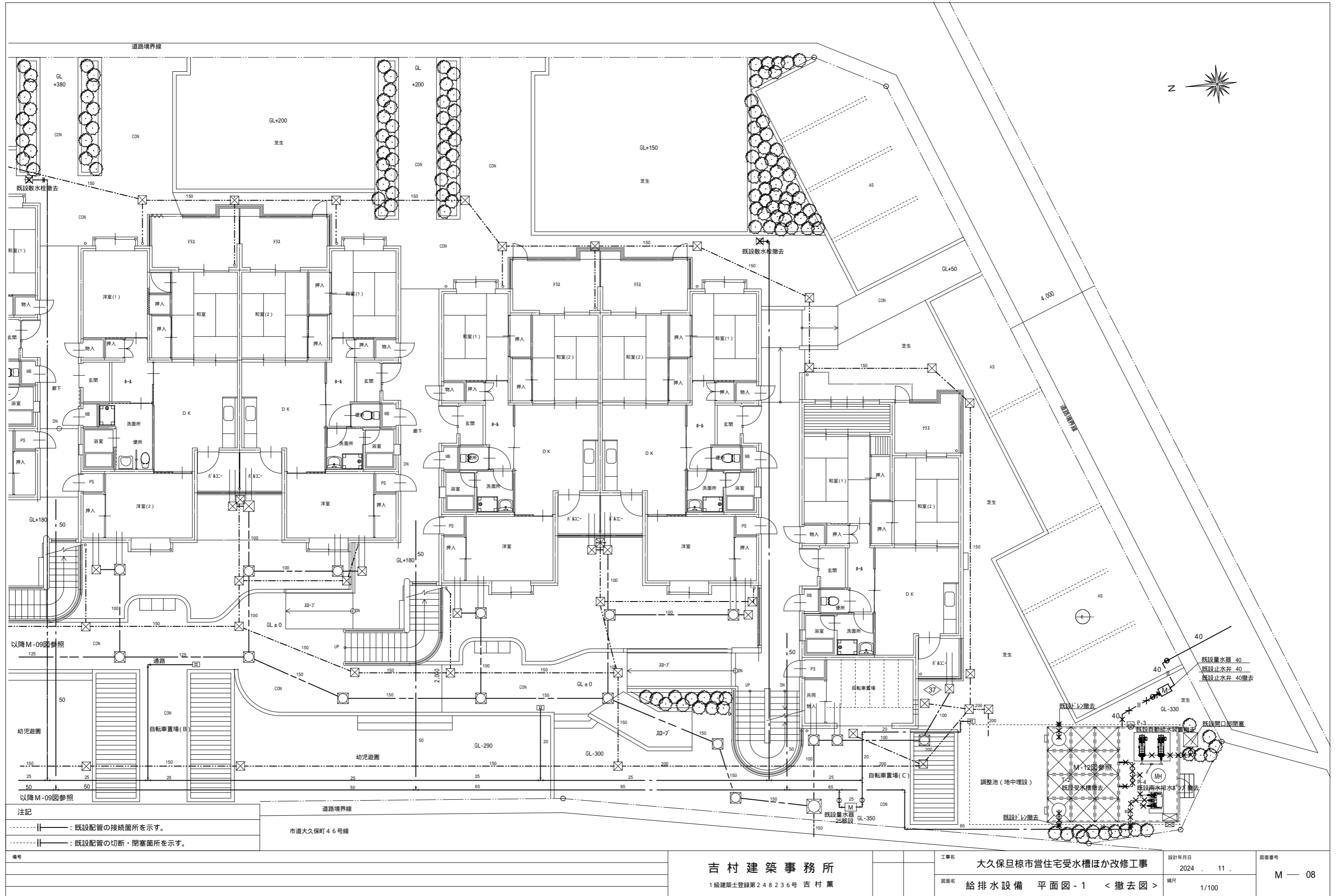
注記  
 実線表記は新設機器及び配管を示し、破線表記は残置を示す。  
 -----||-----: 既設配管の接続箇所を示す。  
 ● PS内既設給水管に接続  
 ■ ダイヤル穴明け  
 給水管埋設深さは消防用活動空地を通るため全て600mmとする。





注記  
 実線表記は新設機器及び配管を示し、破線表記は残置を示す。  
 -----||-----: 既設配管の接続箇所を示す。  
 ● PS内既設給水管に接続  
 ■ ゲイト' 扉穴明け  
 給水管埋設深さは消防用活動空地を通るため全て600mmとする。

備考	吉村建築事務所 1級建築士登録第248236号 吉村 薫	工事名 大久保旦根市営住宅受水槽ほか改修工事	設計年月日 2024 . 11 .	図面番号 M-07
		図面名 給排水設備 平面図-2 <改修図>	縮尺 1/100	



注記  
 - - - - - : 既設配管の接続箇所を示す。  
 - - - - - : 既設配管の切断・閉塞箇所を示す。

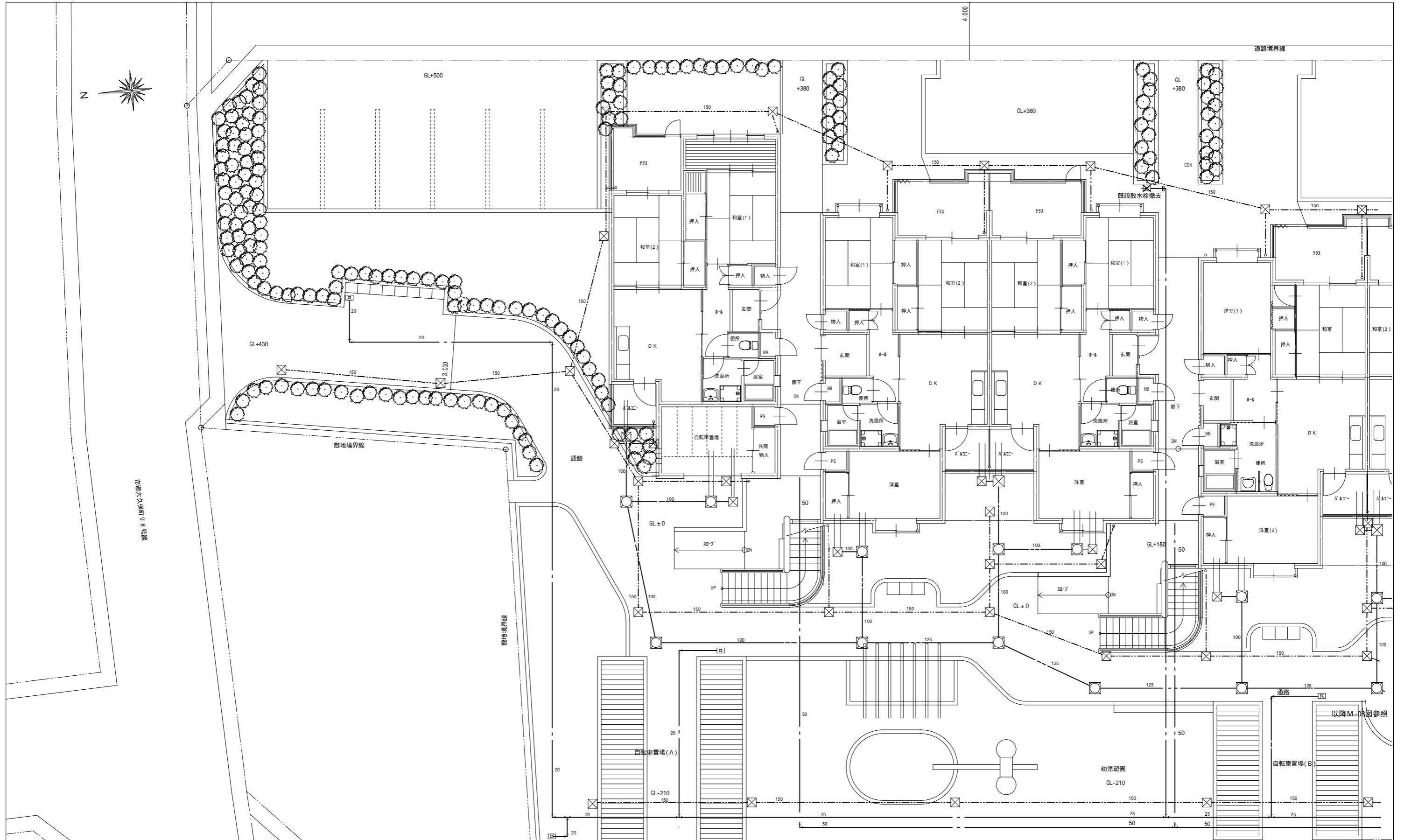
道路境界線  
 市道大久保町46号線

吉村建築事務所  
 1級建築士登録第248236号 吉村 薫

工事名 大久保旦栢市営住宅受水槽ほか改修工事  
 図面名 給排水設備 平面図-1 <撤去図>

設計年月日 2024. 11.  
 縮尺 1/100

図面番号 M-08



注記  
 .....||..... : 既設配管の接続箇所を示す。  
 .....||..... : 既設配管の切断・閉塞箇所を示す。

備考

吉村建築事務所  
 1級建築士登録第248236号 吉村 薫

工事名	大久保旦根市営住宅受水槽ほか改修工事	設計年月日	2024 . 11 .	図面番号	M-09
図面名	給排水設備 平面図-2 <撤去図>	縮尺	1/100		

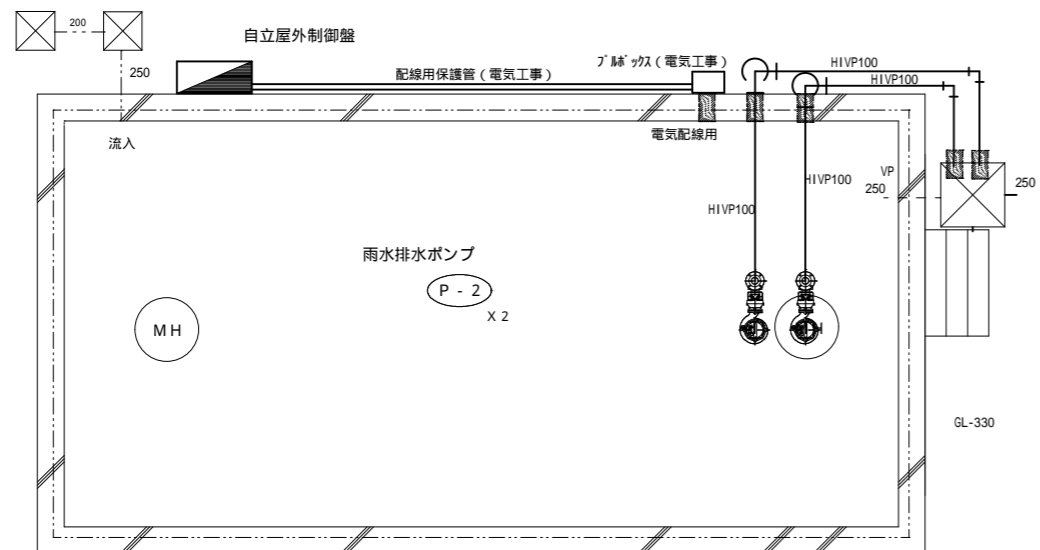
以降M-08図参照



P-2

雨水排水ポンプ

汚水汚物用水中ポンプ 水中ケーブル10m 相フランジ 共  
 自立屋外制御盤 自動交互並列運転 フロートスイッチ付  
 80A X 500L/min X 10.0mh X 3 X 200V X 2.2kw  
 着脱装置付、ガイドレールチェーンSUS製、標準附属品一式共



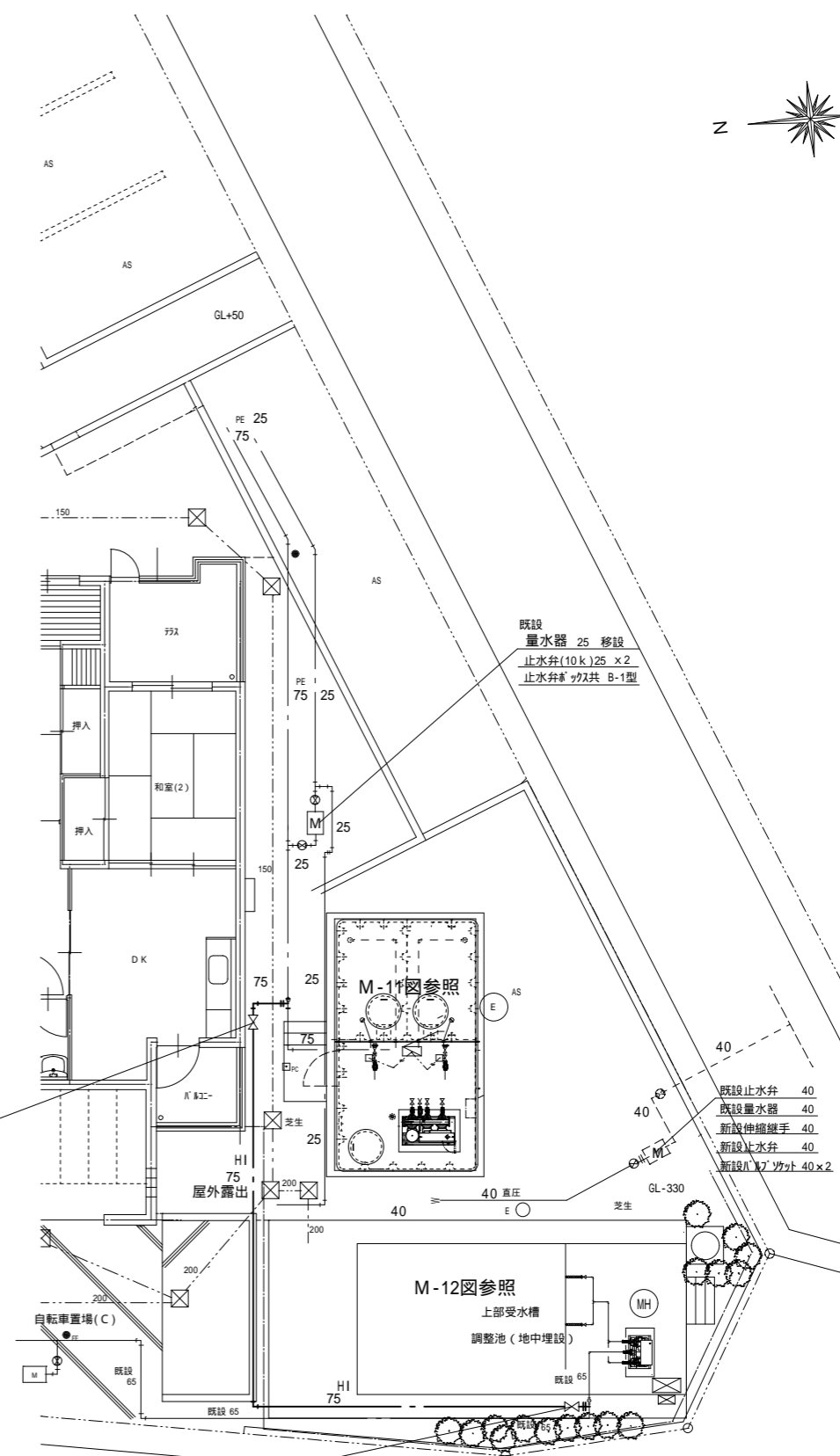
雨水貯留槽 平面図、断面図 1/50

注記  
 実線表記は新設機器及び配管を示し、破線表記は残置を示す。  
 -----||-----: 既設配管の接続箇所を示す。  
 ■ ゲイト 扉穴明け、復旧



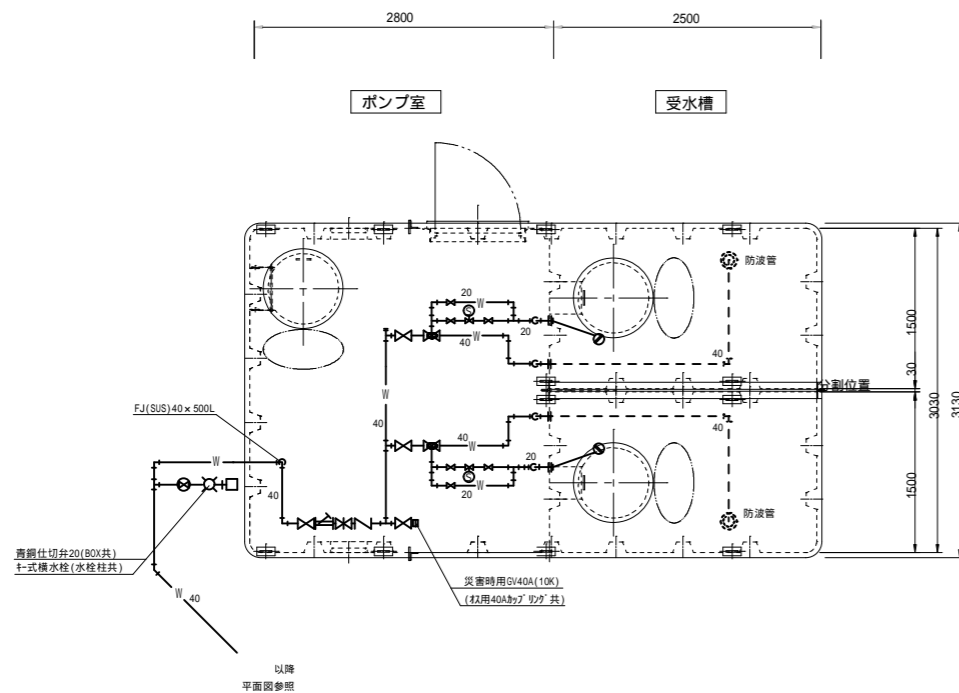
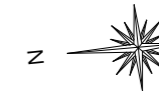
仮設給水配管工事  
 GV (10K) 80 管種75HI 屋外露出

仮設給水配管工事  
 GV (10K) 80 管種75HI 屋外露出

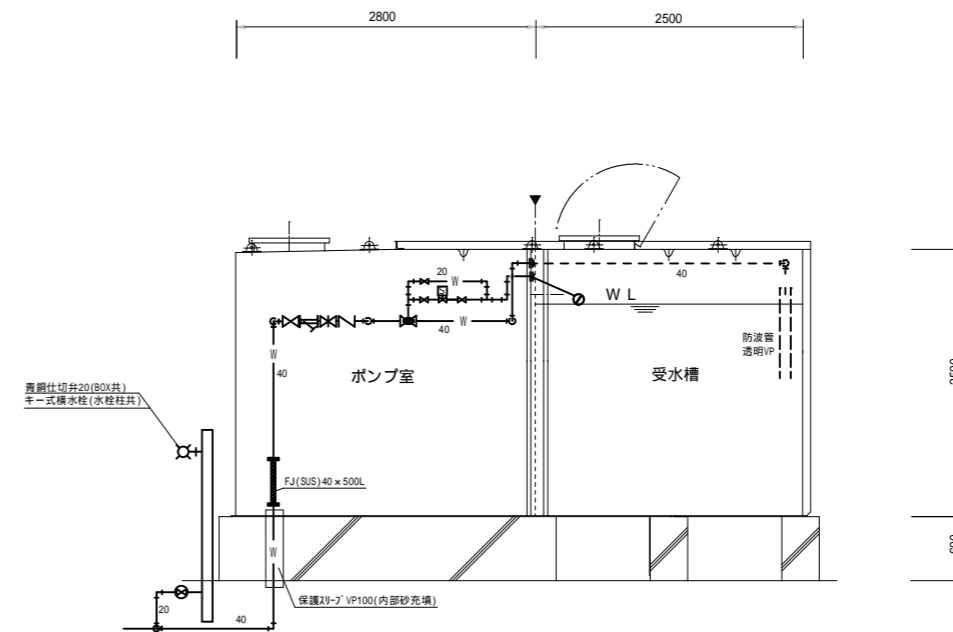


仮設給水平面図 1/100

備考	吉村建築事務所 1級建築士登録第248236号 吉村 薫	工事名 大久保旦椋市菅住宅受水槽ほか改修工事	設計年月日 2024 . 11 .	図面番号 M-10
		図面名 雨水貯留槽平面図、断面図 仮設給水平面図	縮尺 1/50 1/100	

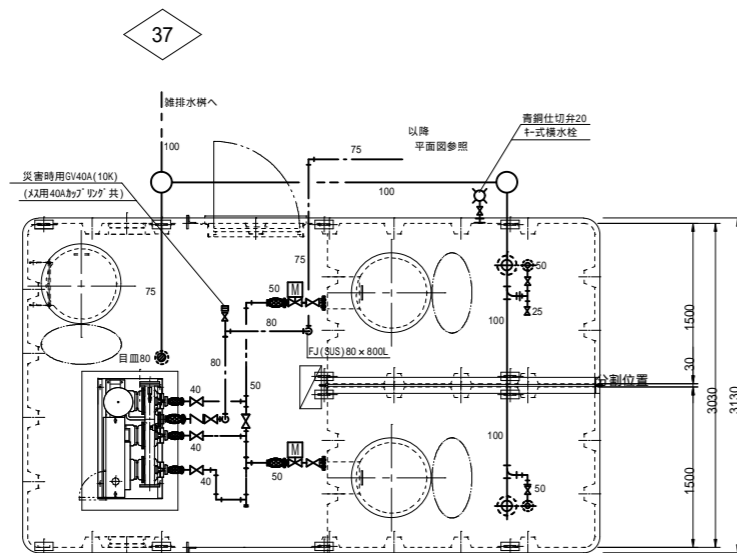


ポンプ室受水槽（直圧系統）平面詳細図 1/50

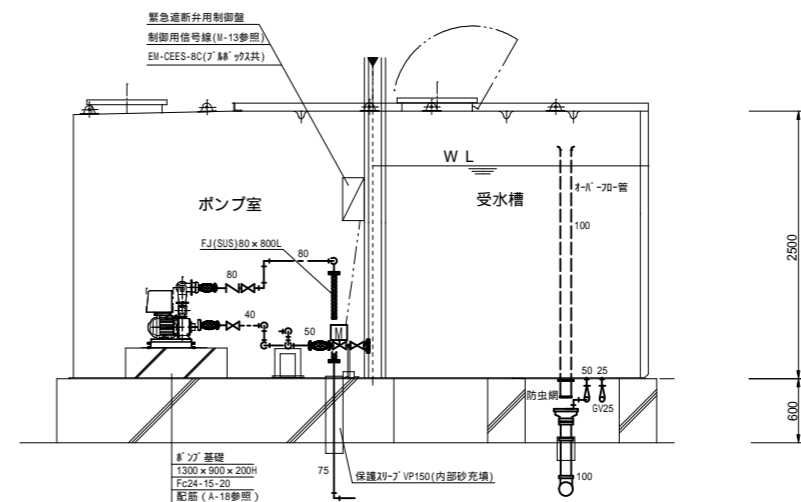


ポンプ室受水槽（直圧系統）断面詳細図 1/50

直圧系統	寸法	個数	仕様
ルネゲルジョイント(SUS)	40 x 500L	1	フッ素付
仕切弁(10K)(ライニング用)	40	4	フッ素付
Y型スルーサー(10K)(ライニング用)	40	1	フッ素付
定流量弁(10K)(ライニング用)	40	1	フッ素付
逆止弁(10K)(ライニング用)	40	1	フッ素付
定水位弁	40	2	フッ素付
仕切弁(10K)(ライニング用)	20	6	フッ素付
電磁弁(10K)	20	2	フッ素付
ダイヤフラム	20	2	
電極(保持器共)3P		2	
電極(保持器共)5P		2	
災害時用付属品			
給水用加圧リング(10K)	40	1	
給水用加圧リング(10K)	40	1	
給水用8-27m(両端双)	40	1	

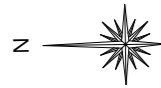


ポンプ室受水槽（加圧系統）平面詳細図 1/50



ポンプ室受水槽（加圧系統）断面詳細図 1/50

加圧ポンプ系統	寸法	個数	仕様
緊急遮断弁(T-1付属)	50	2	フッ素付
緊急遮断弁用制御盤( # )		1	
仕切弁(10K)(ライニング用)	50	3	フッ素付
仕切弁(10K)(ライニング用)	40	4	フッ素付
逆止弁(10K)(ライニング用)	80	1	フッ素付
仕切弁(10K)(ライニング用)	80	1	フッ素付
ルネゲルジョイント(球形)Δ	50	2	フッ素付
ルネゲルジョイント(球形)Δ	40	3	フッ素付
ルネゲルジョイント(球形)Δ	80	1	フッ素付
ルネゲルジョイント(SUS)	80 x 800L	1	フッ素付
排水ドレン系統			
仕切弁(5K)(ライニング用)	50	2	
仕切弁(5K)(ライニング用)	25	1	
防虫網(SUS)	100	2	



T-2

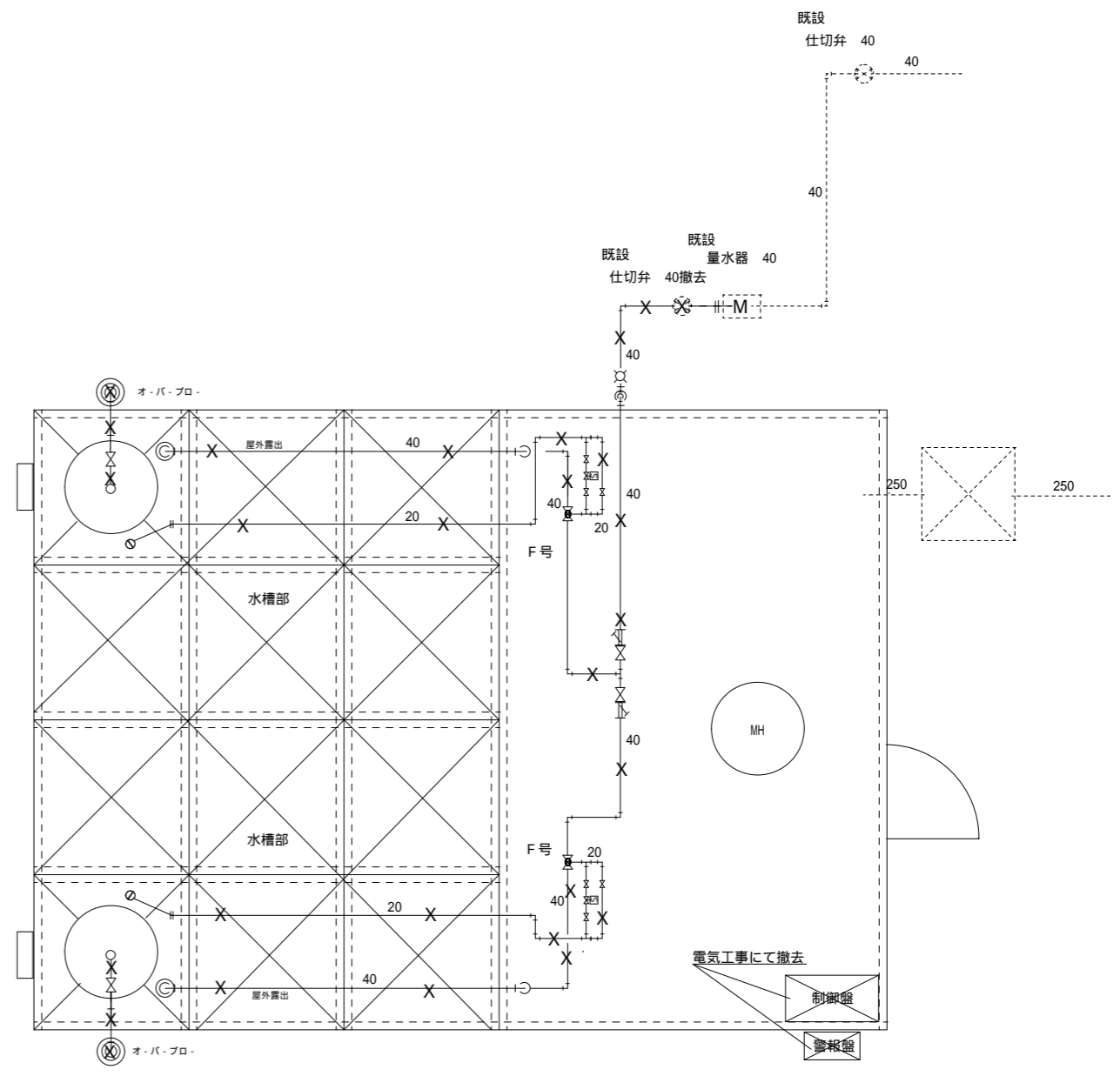
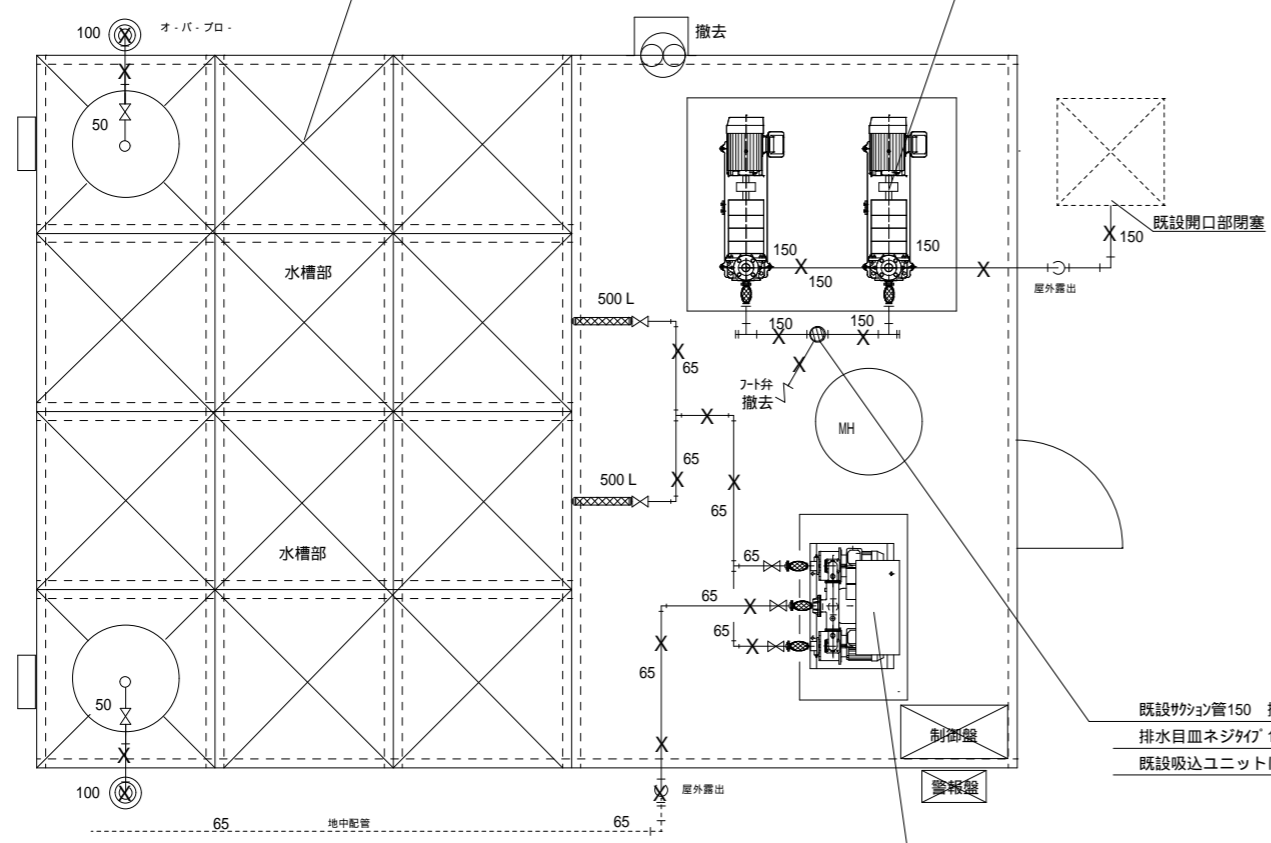
既設 受水槽 FRPパネル水槽 撤去  
 3.0mX(2.0+2.0)mX2.0mH  
 内外ハシゴ、マンホール、鋼製平架台  
 配管付属品一式撤去共  
 既設アカ切断コキング処理

P-4

既設 排水ポンプ 撤去  
 100AX1000L/minX13mh  
 3 X 200VX5.5kw 2台  
 仕切弁、逆止弁、付属品一式  
 (自吸ポンプ)

P-3

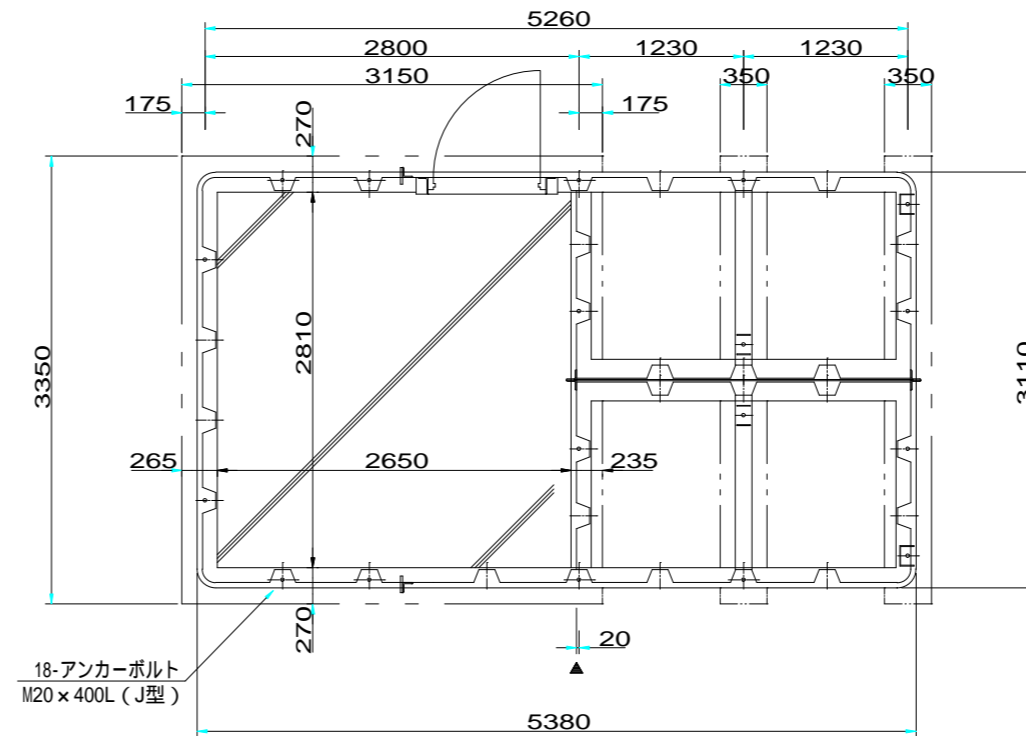
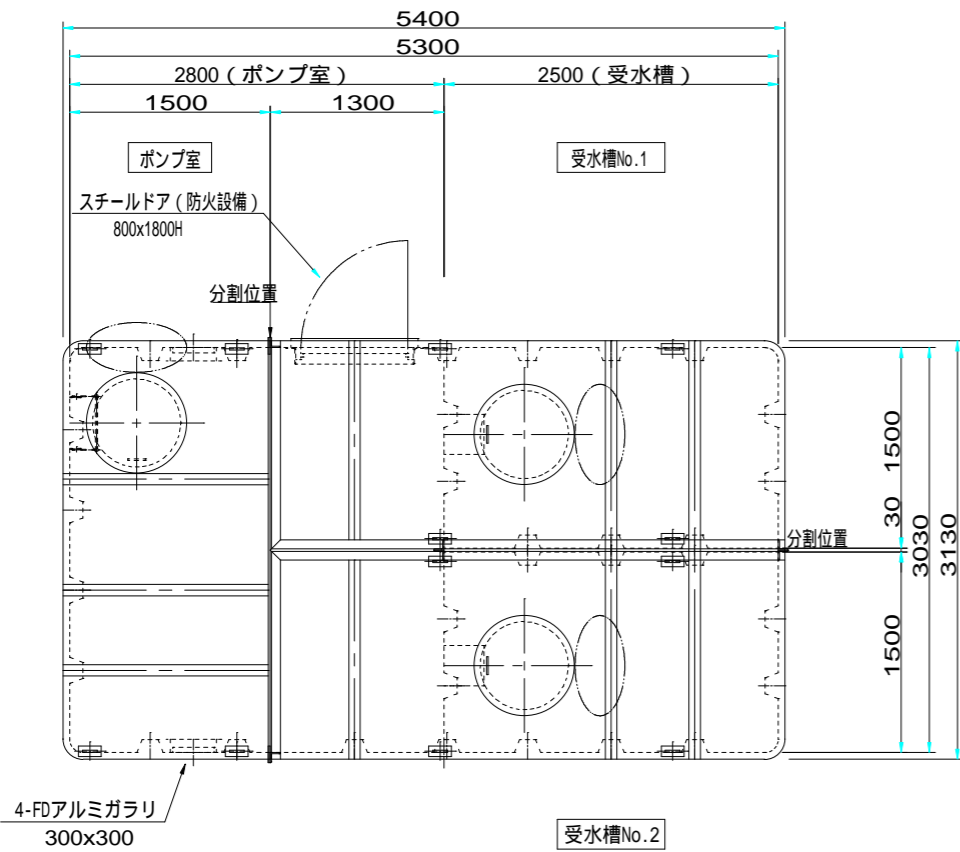
既設 自動給水装置 制御盤付 撤去  
 40AX185L/minX32mh  
 3 X 200VX1.5kw 2台  
 仕切弁、逆止弁、付属品一式



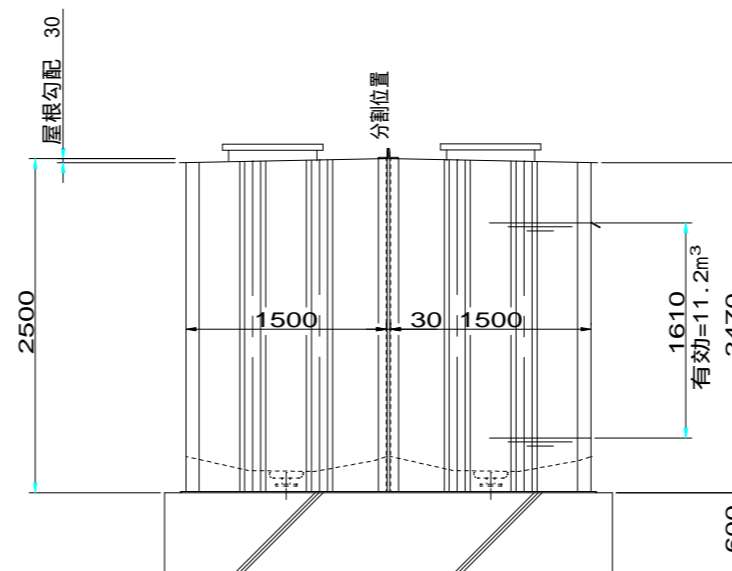
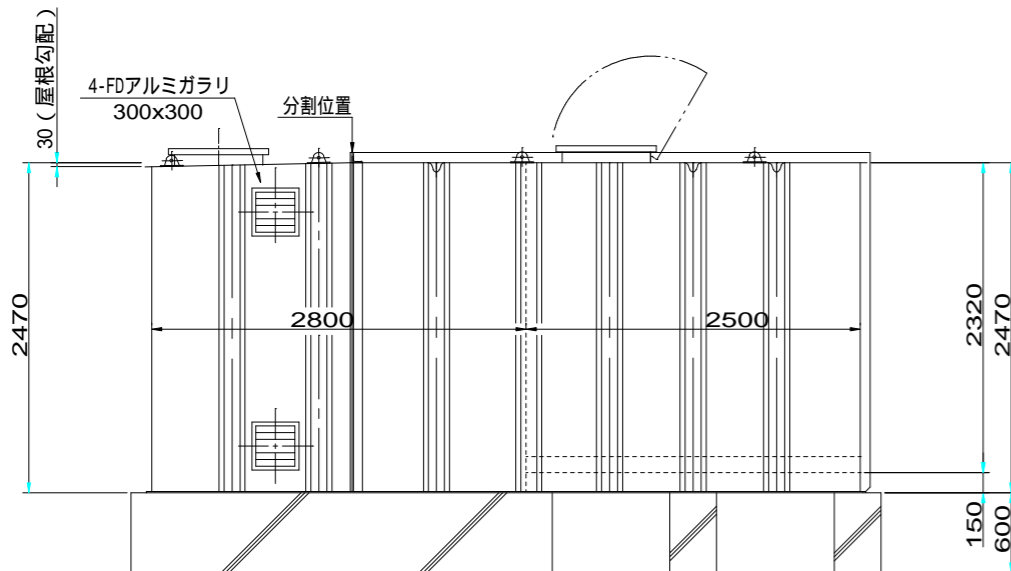
既設受水槽 平面詳細図 1/30 撤去図

給水系統撤去	寸法	個数
仕切弁(10K)(ライニング用)	40	2
仕切弁(10K)(ライニング用)	20	6
仕切弁(10K)(ライニング用)	65	5
Y型スレーナ(10K)(ライニング用)	40	2
電磁弁(10K)	20	2
ルキップ 射ヨウト(SUS)	40x300L	2
ルキップ 射ヨウト(SUS)	65x500L	2
ルキップ 射ヨウト(球形ゴム)	65	3
排水系統撤去		
仕切弁(10K)(ライニング用)	150	2
逆止弁(10K)(ライニング用)	150	2
ルキップ 射ヨウト(球形ゴム)	150	4
仕切弁(10K)(ライニング用)	50	2

注記  
 実線表記は改修若しくは撤去機器及び配管を示し、破線表記は残置を示す。  
 .....||.....: 既設配管の接続箇所を示す。  
 .....||.....: 既設配管の切断・閉塞箇所を示す。



アンカーボルト位置図 ポンプ室内基礎の埋設配管は、斜線部内に納めて下さい。

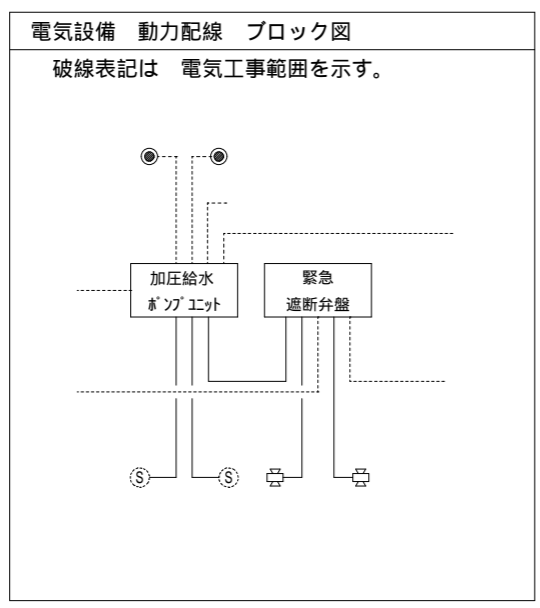


A-A矢視図

符号	名称	呼数	管径	継手	備考
N-1	給水口	40A	2 SUS304	JIS10KF	槽内HVP管付 防波筒付
N-2	給水口	20A	2 SUS304	ニッブル JIS5KF	ボ・ルタップ口
N-3	揚水口	50A	2 SGP	JIS10KF	
N-4	溢水口	100A	2 SUS304	JIS10KF	槽内VP管付
N-5	排水口	50A	2 SGP	JIS10KF	
N-6	通気口	80A	2 SGP	JIS5KF	防虫網付
N-7	電極座	50A 100A	4 PVC SGP	フケット JIS5KF	
防波筒(透明)・カバー付 (オムロン対応型)					
M	マンホール	φ650	2 SS400	-	鍵付加-
M-1	マンホール	φ650	1 SS400	-	鍵付加-

建設省告示構造基準適合品	
鋼板製一体型水槽	
槽の仕様	材質 SS400
	容量 呼称= 有効=11.2m <sup>3</sup>
	板厚 屋根=6.0mm 側=4.5mm 底=6.0mm
	製品質量 5150 k g (=2000 k g (受水槽No.1) + 1950 k g (受水槽No.2) + 1200 k g (ポンプ室))
防食仕様	材質 厚生省告示20号 合格エポキシ樹脂
	内面施工 加熱硬化型エポキシライニング
	NE-204 厚さ=0.4mm以上
	外面施工 加熱硬化型エポキシライニング
	NE-204 厚さ=0.2mm以上
	施工法 無溶剤型ホットエアレススプレー
外装色	指定色
設計用震度	KH=1.5 KV=0.75
内梯子	合成樹脂製
ポンプ室内梯子	SS400の上溶融亜鉛メッキ仕上(2種35)
結露防止	ポンプ室内水槽面: ポリエチレンフォーム15mm
ボルト・ナット	SUS304

付属品  
 緊急遮断弁(ボール弁 50A JIS10KF) × 2台  
 緊急遮断弁制御盤(標準型 接続遮断弁2台) × 1台



#### 配線表

記号	名称	配管配線路	内部	外部	備考	配管	配線
	電磁弁 No.1	EM-CEE 2'-2C	(E19)	-	露出配管		
	電磁弁 No.2	EM-CEE 2'-2C	(E19)	-	露出配管		
	遮断弁作動停止運動回路	EM-CEE 2'-3C	(E25)	-	露出配管		
	遮断弁1	EM-CEE 2'-8C	(E25)	-	露出配管		
	遮断弁2	EM-CEE 2'-8C	(E25)	-	露出配管		

: 機械設備工事

機器・電極棒等の設置・調整は機械設備工事

#### 表1. 主要寸法表 (mm)

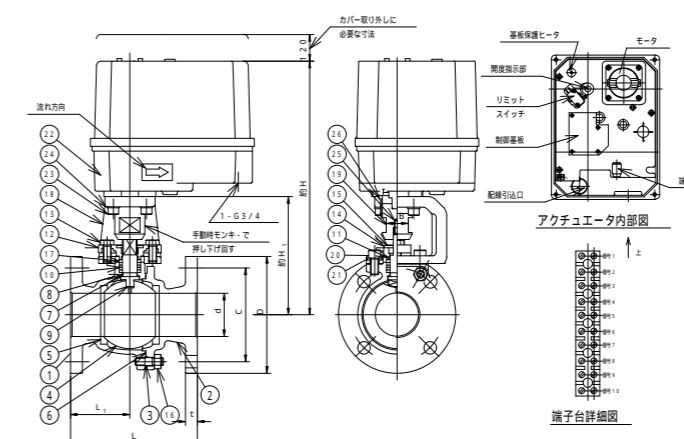
呼び径	フランジ部			ボルト数	ボルト径	全高	H <sub>1</sub>	H <sub>2</sub>	L <sub>1</sub>	L <sub>2</sub>	B	質量	
	L	D	t										
5.0	178	155	1.6	120	4	19	M16	50	168	271	71	33	1.9
6.5	190	175	1.8	140	4	19	M16	65	177	380	89	33	2.2
8.0	203	185	1.8	150	8	19	M16	80	218	421	91	39	3.0
10.0	229	210	1.8	175	8	19	M16	100	232	435	108	39	3.6

#### 表2. バルブ仕様

呼び圧力	10K
弁種	ボール弁
接続形式	JIS B 2220 10K-FF

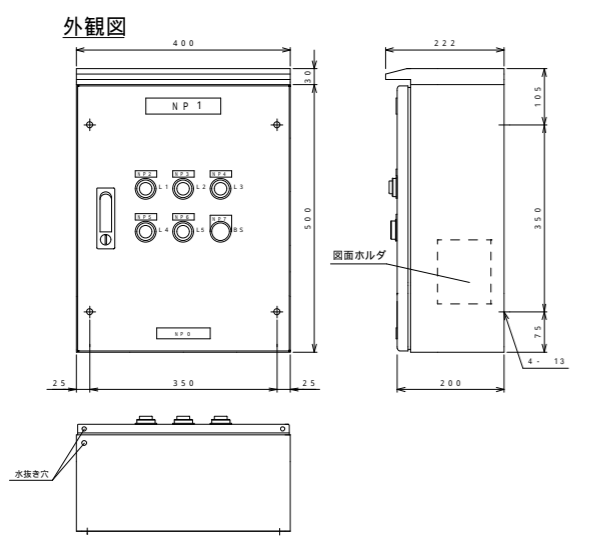
#### 表3. 操作機仕様

形名	ハイトルク NSSKN
保護形式	密封型 (JIS C 0920)
種類	直流・E種絶縁
電源電圧	DC 24V
定格出力	16W
定格電流	1.2A
消費電力	2.9W
閉閉時間	10秒以下
周囲温度	-10~60



26	ブッシュ	1	C3604	
25	スプリング	1	SUS304WPS	
24	パネ蓋金	4	SUS304	
23	六角穴付ボルト	4	SUS304	
22	アクチュエータ	1	-	
21	パネ蓋金	2	SUS304	
20	六角穴付ボルト	2	SUS304	
19	ソケット	1	SUS403	
18	ヨーク	1	FC0450-10	
17	バッキング押入輪	1	SUS304	
16	六角ナット	1組	SUS304	
15	C形止め輪	1	SUS304	
14	ストッパー	1	SUS304	
13	六角ボルト	2	SUS304	
12	バッキング押入	1	SCS13A	
11	グラフトナット	1	PTFE	
10	バッキング	1組	PTFE	
9	弁棒	1	SUS304	
8	ステムベアリング	1	PTFE	
7	スラストリング	1	PTFE	
6	ガスケット	1	PTFE	
5	シートリング	2	PTFE	
4	ボール	1	SCS13A	
3	棒込ボルト	1組	SUS304	
2	弁棒2段	1	SCS13A	
1	弁棒1段	1	SCS13A	

部品名	品名	数量	材質	備考
最高使用圧力	水圧	0.2MPa		
最高使用温度		60		
検査圧力	弁座漏れ検査			
	逆座漏れ検査	水圧 0.29		

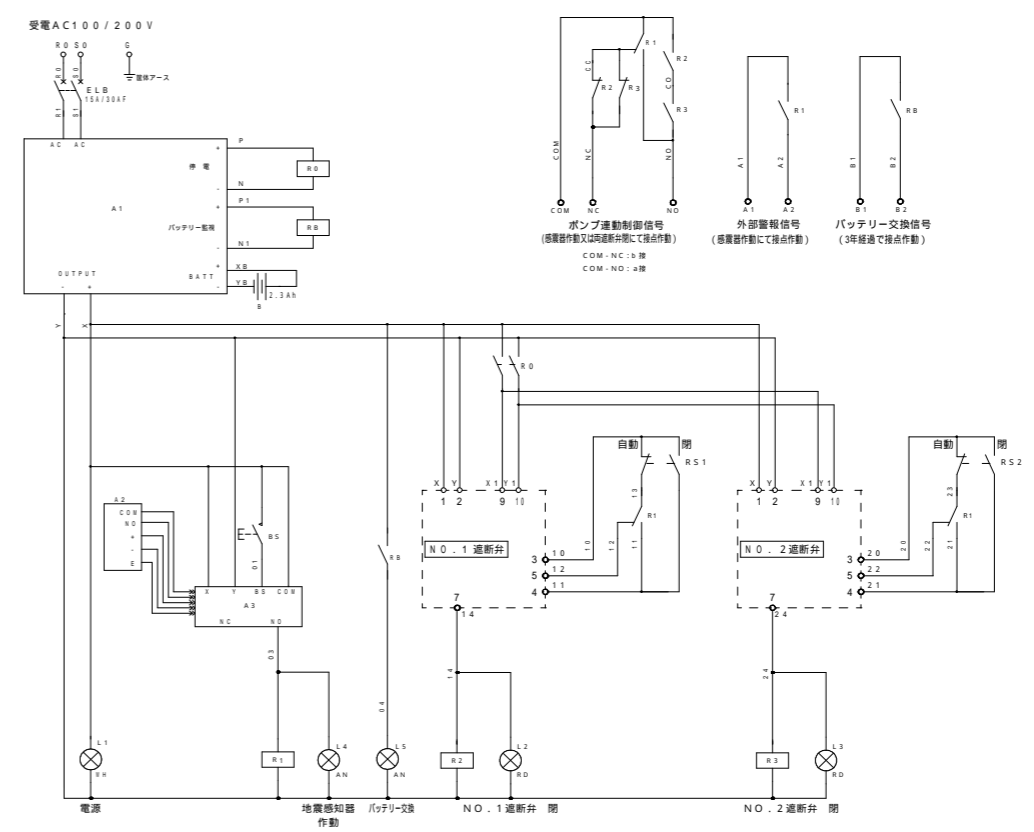
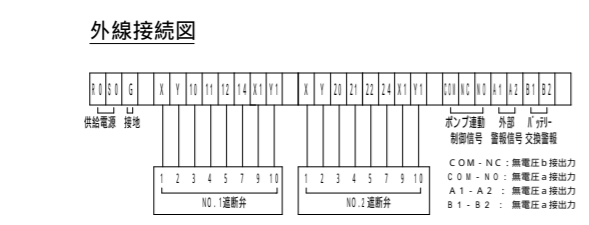


#### 仕様

供給電源	単相 AC 100-200V
電源容量	80VA
作動値	2.00ガル (震度5強相当)
構造	屋外設置型
材質	鋼板 1.6t
塗装	S Y 7 / 1
扉番号	200
重量	約 2.5kg

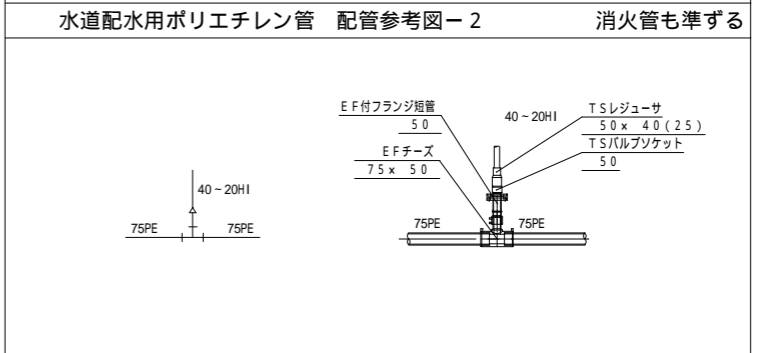
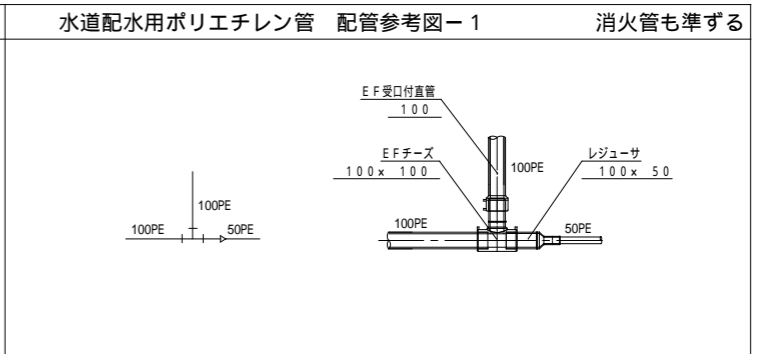
#### 計器リスト

番付符号	部品名称	規格記入文字または型式	数量	製造会社	備考
NP0	製造者銘板	株式会社 N.Y.K.西日本	1	TAC	
NP1	装置銘板	緊急遮断弁制御器	1		
NP2	機能銘板	電圧	1		
NP3		NO.1遮断弁 閉	1		
NP4		NO.2遮断弁 閉	1		
NP5		地震感知器作動	1		
NP6		バッテリー交換	1		
NP7		地震感知器/リセット	1		
NP8		NO.1 / 自動 閉	1		
NP8		NO.2 / 自動 閉	1		
ELB	漏電ブレーカー	WJ231E 11/1EAF 15A	1	三菱電機	
A1	電圧計	Y E 0 2	1	野村トランス	
A2	地震感知器	V-756RC 200ガル	1		
A3	地震判定回路	Y E 0 1	1		
B	バッテリー	NP2-3-12	2	GSユアサ	
RS1	リレー	WY4R-02	1	オムロン	
RS1.2	セレクトスイッチ	A R 1 6 5 - 2 P 2 B 1 1	2	富士電機	
B5	ボタンスイッチ	A R 3 0 F O R - 1 0 R	1		
L1	表示LED (白)	D R 3 0 E 3 L - E 3 R	1		
L2-1	(赤)	D R 3 0 E 3 L - E 3 R	2		
L4-5	(オレンジ)	D R 3 0 E 3 L - E 3 A	2		
TB	端子台	T 1 0 - 2 0 3 0 P	1	春日電機	



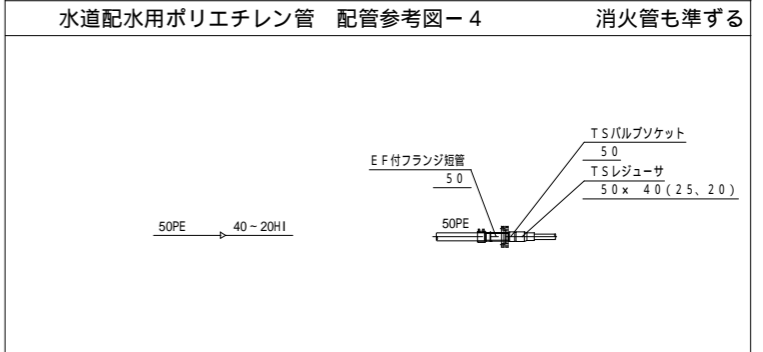
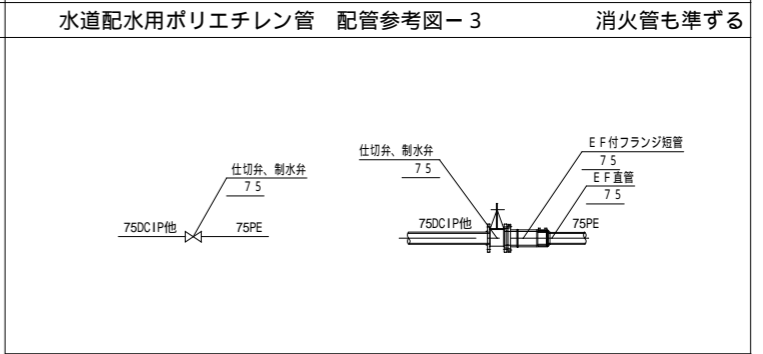


水道配水用ポリエチレン管 (公社 日本水道協会規格品) 100	



水道配水用ポリエチレン管 (公社 日本水道協会規格品) 75	

水道配水用ポリエチレン管 (公社 日本水道協会規格品) 50	

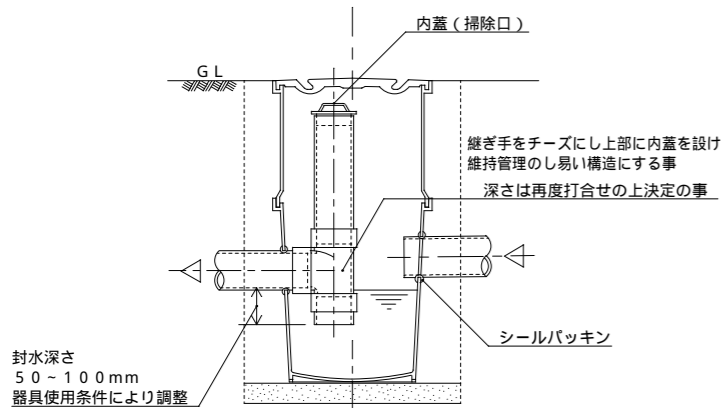


注記 消火用ポリエチレン管 (日本消防設備安全センター性能認定品) も準ずる

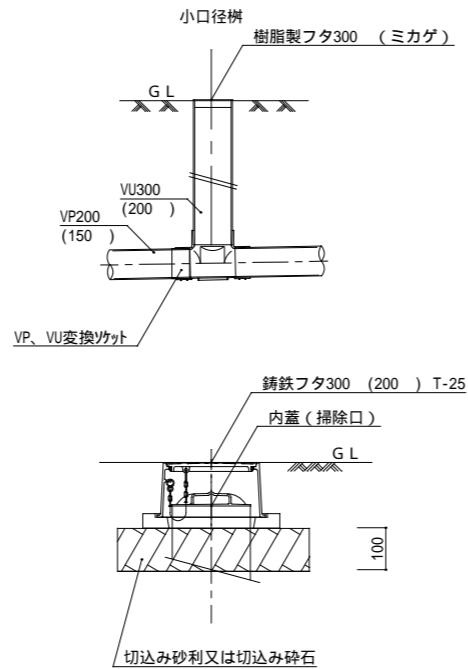
PE 消火用ポリエチレン管 (日本消防設備安全センター性能認定品)

PE 水道配水用ポリエチレン管 (公社 日本水道協会規格品)

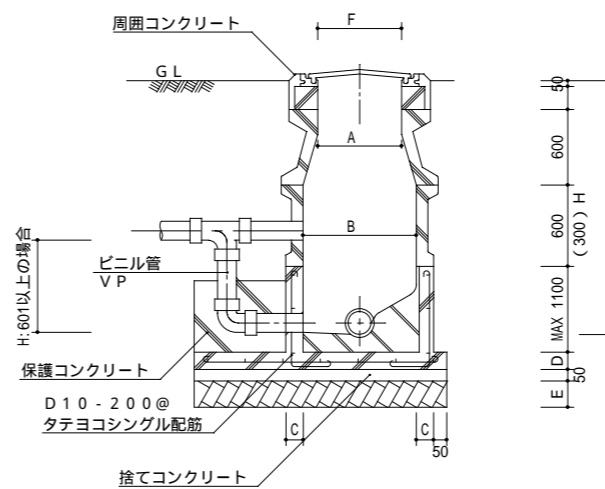
防臭柵 施工要領図



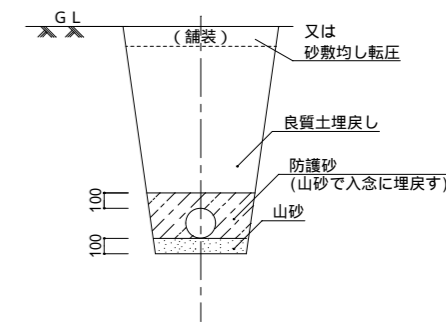
塩ビ製小口径 施工要領図



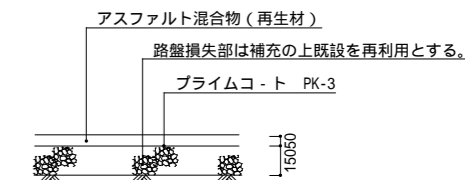
ドロップ柵 施工要領図



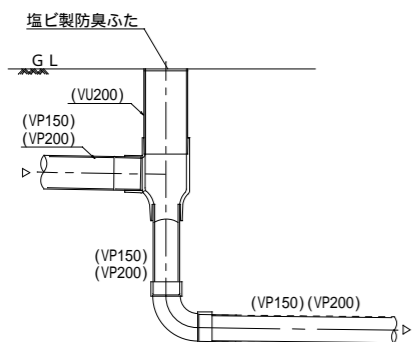
管渠布設 施工要領図



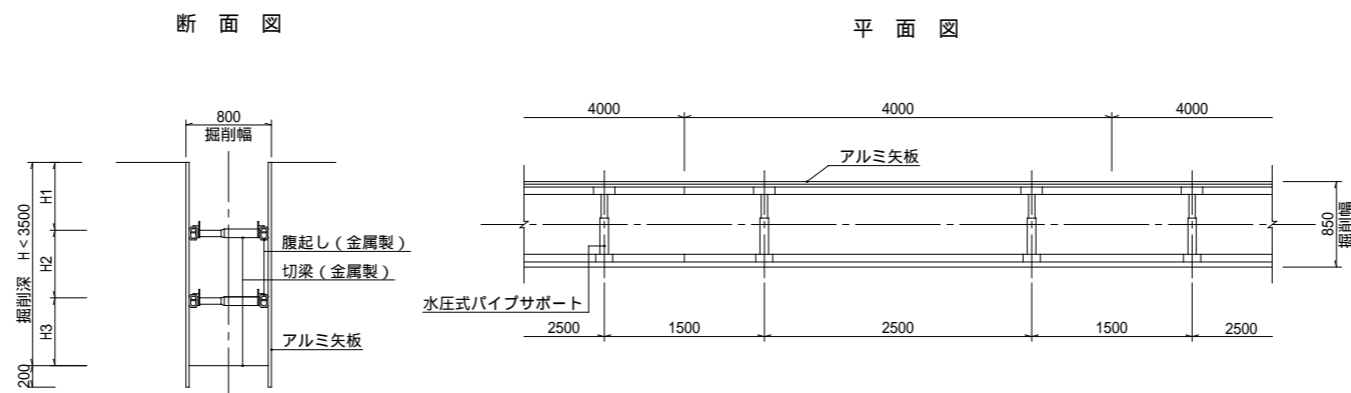
アスファルト舗装



ドロップ柵 施工要領図



土留工 参考構造図

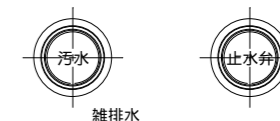


矢板長 m	掘削深 m	矢板厚 mm	支保工段数	最大腹起し間隔			腹起し部材 c m	掘削幅 B m	摘要
				H 1 m	H 2 m	H 3 m			
1.50	H 1.3	40	1	0.50	—	0.80	7.5	0.80	
2.00	1.3 < H 1.8			0.50	—	1.30			
2.50	1.8 < H 2.0			0.70	—	1.30			
2.50	2.0 < H 2.3			0.50	0.80	1.00			
3.00	2.3 < H 2.8		2	0.80	1.00	1.00			
3.50	2.8 < H 3.3			0.85	1.20	1.25			
4.00	3.3 < H 3.5			0.85	1.30	1.35			

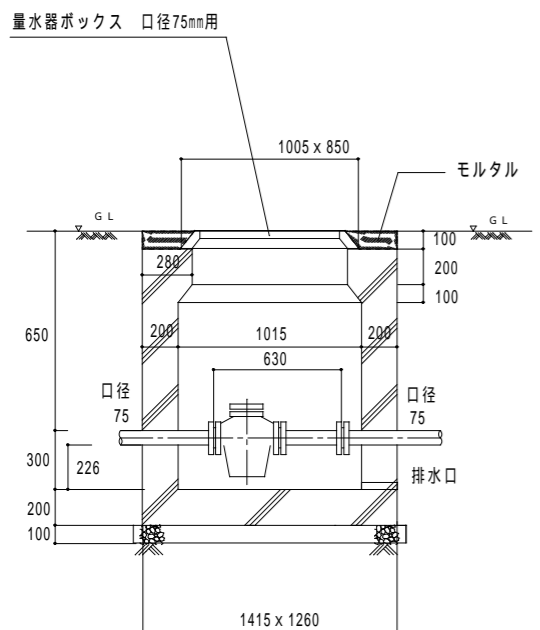
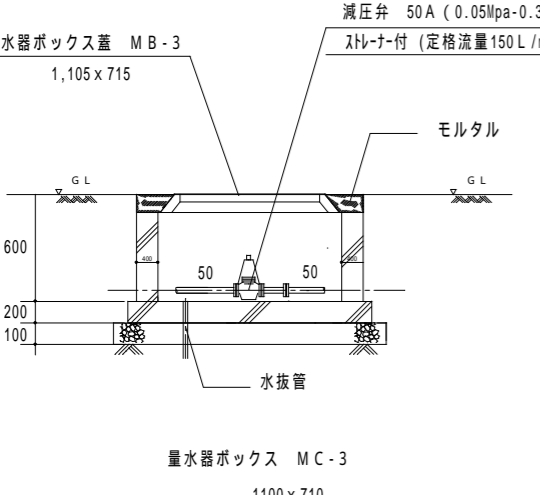
汚水管の内径及び勾配 (参考)

内径 (mm)	勾配	
75以上	100分の 3以上	100分の 12未満
100以上	100分の 2以上	100分の 10未満
125以上	100分の 1.7以上	100分の 8未満
150以上	100分の 1.5以上	100分の 6.5未満
200以上	100分の 1.2以上	100分の 4.5未満
250以上	100分の 1以上	100分の 3.4未満

マンホール蓋



300 以上のマンホール蓋には、名称 (バルブ、止水弁等) 入れる  
なお仕切弁柵の中には行先表示札を入れる

<p>量水器ボックス (宇治市型) 参考図</p>	<p>市道本復旧5号工</p>	<p>コンクリート舗装</p>	<p>管渠布設 施工要領図</p>
 <p>量水器ボックス 口径75mm用</p> <p>1005 x 850</p> <p>モルタル</p> <p>GL</p> <p>280</p> <p>1015</p> <p>630</p> <p>200</p> <p>200</p> <p>口径 75</p> <p>排水口</p> <p>口径 75</p> <p>226</p> <p>300</p> <p>200</p> <p>100</p> <p>1415 x 1260</p>	<p>仮復旧2号工</p> <p>表層 (再生蜜粒度As) t = 30</p> <p>30</p> <p>100</p> <p>埋戻し (根切土)</p> <p>上層路盤 (RC-40) t = 100</p> <p>*宇治市道路占用規則第24条より</p> <p>本復旧4号工</p> <p>表層 (再生蜜粒度As) t = 50</p> <p>50</p> <p>100</p> <p>埋戻し (根切土)</p> <p>上層路盤 (RM-30) t = 100</p> <p>下層路盤 (RC-40) t = 200</p>	<p>コンクリートコテ押え Fc-24N-8-25</p> <p>D10 タテ、ヨコ@250 シングル</p> <p>路盤材料 (再生クワックラ)</p> <p>120</p> <p>100</p> <p>グラウンド舗装</p> <p>砂敷均し転圧</p> <p>コ 50</p>	<p>管渠布設 施工要領図</p> <p>GL</p> <p>(舗装)</p> <p>購入土埋戻し</p> <p>防護砂</p> <p>(山砂で入念に埋戻す)</p> <p>山砂</p> <p>100</p> <p>100</p> <p>グラウンド舗装</p> <p>化粧砂 (細目) 敷均し転圧</p> <p>表層安定剤 (120kg/100m<sup>3</sup>)</p> <p>路床整正の上路盤 (再生砕石)</p> <p>100</p> <p>100</p> <p>埋戻し (根切土)</p>
<p>減圧弁ボックス (参考図) 1/30</p>  <p>減圧弁 50A (0.05Mpa-0.35Mpa)</p> <p>ストレーナ付 (定格流量150L/m)</p> <p>量水器ボックス蓋 MB-3</p> <p>1,105 x 715</p> <p>モルタル</p> <p>GL</p> <p>600</p> <p>50</p> <p>50</p> <p>水抜管</p> <p>量水器ボックス MC-3</p> <p>1100 x 710</p>	<p>消火配管 立ち上り部分詳細図</p> <p>消火管 SGP</p> <p>継手まで</p> <p>消火管 SGP-VS</p> <p>溝形鋼 (SUS製) 130 x 65 x 6t</p> <p>保温</p> <p>保温 消火管</p> <p>ポリスチレンフォーム保温筒 (20mm)</p> <p>ステンレス鋼板・つや消し仕上げ</p> <p>コンクリートコテ押え</p> <p>配管保護コンクリート H = 200</p> <p>保温</p> <p>消火管 SGP-VS</p> <p>フランジ (JIS10K)</p> <p>フランジ短管 (JIS10K)</p> <p>消火管 PE</p> <p>フランジ短管 (JIS10K)</p> <p>EF両受90°ベンド</p> <p>配管用 保護コンクリート巻き</p>	<p>給水配管 立ち上り部分詳細図</p> <p>配管支持架台参考図</p> <p>溝形鋼 (SUS製) 130 x 65 x 6t</p> <p>保温</p> <p>保温 給水管</p> <p>ポリスチレンフォーム保温筒 (20mm)</p> <p>ステンレス鋼板・つや消し仕上げ</p> <p>給水管 PB</p> <p>コンクリートコテ押え</p> <p>配管保護コンクリート H = 200</p> <p>保温</p> <p>フランジ (JIS10K)</p> <p>フランジ短管 (JIS10K)</p> <p>給水管 PE</p> <p>フランジ短管 (JIS10K)</p> <p>EF両受90°ベンド</p> <p>保護スリ・ブ</p> <p>V.P 内部砂充填</p> <p>配管用 保護コンクリート巻き</p>	<p>配管掘削跡</p> <p>路床整正の上路盤 (再生砕石)</p> <p>150</p> <p>埋戻し (根切土)</p> <p>給水配管 屋上部分支持架台詳細図</p> <p>給水管</p> <p>ステンレス巻き</p> <p>ポリスチレンフォーム 20mm (e3-A-V)</p> <p>鋼製架台</p> <p>L = 50 X 50 X 4</p> <p>ステンレス製</p> <p>樹脂管 VP100</p> <p>モルタル充填</p> <p>ゴムシート敷き</p> <p>屋上 F.L.</p>
<p>備考</p>	<p>吉村建築事務所</p> <p>1級建築士登録第248236号 吉村 薫</p>	<p>工事名 大久保旦椋市営住宅受水槽ほか改修工事</p> <p>図面名 施工標準図 - 3</p>	<p>設計年月日 2024 . 11 .</p> <p>縮尺</p> <p>図面番号 M - 17</p>



章 項 目	特 記 事 項	章 項 目	特 記 事 項	章 項 目	特 記 事 項	章 項 目	特 記 事 項
2 仮設工事	5 工事用水 6 工事用電力 7 仮囲い等 8 設計G.L.	2 土・鉄筋・コンクリート工事	構造体強度補正值 (6.3.2) 気温による構造体強度補正值 (S) (表6.3.2) 予 想 平 均 気 温 ( ) 補 正 値 普通 早強 (S) 南 部 地 域 中 部 地 域 北 部 地 域 8以上 5以上 3 3/6 ~ 6/30 3/11 ~ 7/20 3/11 ~ 7/10 N/mm2 9/11 ~ 11/15 9/1 ~ 11/5 9/1 ~ 10/31 0以上 0以上 6 11/16 ~ 3/5 11/ 6 ~ 3/10 11/ 1 ~ 3/10 8未満 5未満 N/mm2 南部地域 (京都市 (一部を除く)、旧八木町、旧園部町以南の市町村) 北部地域 (宮津市、旧加悦町以北の市町) 中部地域 (上記以外の市町、旧美山町及び旧京北町含む) フレッシュコンクリートの試験 省略する 12 軽量コンクリート 常時土又は水に直接接する部分の使用 可 不可 種類 1種 2種 施工箇所 気乾単位容積質量 _____ t/m3 13 寒中コンクリート 予 想 平 均 気 温 が 表 6.3.2 に 示 す 予 想 平 均 気 温 未 満 の 場 合 に は 標 仕 第 6 章 第 1 1 節 (寒中コンクリート)による。 暑中における構造体強度補正值 (S) 地 域 日 平 均 気 温 が 25 度 を 超 え る 期 間 ( 打 設 日 ) 補 正 値 北 部 地 域 7 月 1 1 日 ~ 8 月 3 1 日 6 N/mm2 中 部 地 域 7 月 2 1 日 ~ 8 月 3 1 日 3 N/mm2 南 部 地 域 7 月 1 日 ~ 9 月 1 0 日 コンクリートの種類 (表6.2.1) コンクリートの強度 (表6.2.2) 設計基準強度 (F <sub>c</sub> ) 打 設 部 位 F <sub>c</sub> (N/mm <sup>2</sup> ) スランプ (cm) 備 考 構造体 基礎 2.4 2.1 1.5 1.8 受水槽基礎 上部 2.4 2.1 1.5 1.8 土間コンクリート 1.8 1.5 1.8 コンクリート舗装 捨コンクリート 1.8 1.5 1.8 受水槽基礎 軽量コンクリート 2.1 2.1 1.8 無筋コンクリート 1.8 1.5 1.8 標仕6.14.1による 構造体コンクリートの発注強度は以下のとおりとする。 { F <sub>c</sub> + 構造体強度補正值(S) } / N/mm <sup>2</sup> (6.14.1)によるもの及び土間コンクリートは構造体強度補正は行わない) 7 セメントの類別 (6.3.1) 普通ポルトランドセメント又は混合セメントのA種 高炉セメントB種 (適用箇所 _____ ) シリカセメント フライアッシュセメントB種 (施工箇所 _____ ) 骨材 (6.3.1) 粗骨材 砂利 (JIS A5308), 砕石 (JIS A5005) 高炉スラグ 電気炉酸化スラグ 再生骨材H 細骨材 砂 (JIS A5308), 砕砂 (JIS A5005) 高炉スラグ 電気炉酸化スラグ 鋼スラグ ファロックススラグ 再生骨材H アルカリシリカ反応性による区分 A (無害) 混和材料 (6.3.1) 混和剤 AE剤, AE減水剤又は高性能AE減水剤の 種 (JIS A 6204) 防錆剤 鉄筋コンクリート用防錆剤 (JIS A 6025) 混和材 フライアッシュ (JIS A 6201) 種、 種若しくは 種 コンクリート用高炉スラグ微粉末 (JIS A 6206) コンクリート用シリカフューム (JIS A 6207) コンクリート用膨張材 (JIS A 6202)	3 防水改修工事	4 改質アスファルトシート防水 (3.4.2) ~ (3.4.4) 5 合成高分子系膜フラッシュシート防水 (3.5.2) ~ (3.5.4) 6 遮膜防水 (3.6.2) ~ (3.6.3) 7 漏水試験 8 保証書 9 施工標識 10 シーリング (3.1.4) (3.7.2) ~ (3.7.8) 11 とい(雨水) (3.8.2) (3.8.3)	3 防水改修工事	接着工法の場合で、P C ココア材下地の場合 目地処理 図示による 入隅部の増張り (S-F 1、S-I-F 1の場合) 図示による 絶縁用シート及び可塑性修形用止水シート 発泡ポリエチレンシート 仕上げ塗料 加- 汎用 脱気装置 (絶縁工法) 設ける 材種 ( ) 設置数量 (1箇所/ _____ m <sup>2</sup> ) 建築基準法に基づき定まる風圧力に対応した工法を品質計画により定めること。 固定金具の材質及び寸法形状 防錆処理した鋼板、スチール鋼板又はそれらの片面若しくは両面に樹脂を積層加工した鋼板で、厚さ0.4mm以上のもの 種 別 及 び 工 程 防水層 施工箇所 仕上塗料 種類 使用量 P O X 工法 X-1 X-2 X-1H X-2H 表3.6.1 L 4 X 工法 X-1 X-2 X-1H X-2H 表3.6.2 P 1 Y 工法 Y-2 表3.6.3 P 2 Y 工法 脱気装置(X-1) 設ける 材種 ( ) 設置数量 (1箇所/ _____ m <sup>2</sup> ) 保護層 設ける 設けない 既存防水層撤去のこと。(別図参照) 水張り試験を行う ( 屋内 屋外 ) 受注者、防水施工業者、防水材料メーカーの連名による保証書提出すること。 (保証年限は工事目的物引渡しより10年間以上とする。) 工事後に監督職員の指示する位置へ取り付ける。 材質 真鍮製エッジング仕上/150×100 設置数量 ( 1 ) 箇所 シーリング材の種類 改修標仕 表3.7.1による シーリング改修工法及び施工箇所 改 修 工 法 の 種 別 施 工 箇 所 シーリング充填工法 シーリング再充填工法 既存シーリング部(PC版・RC' ヌイト、建具廻り等共) 拡張シーリング再充填工法 ブリッジ工法 仕上げを行わない施工箇所 ( 図示による ) 目地寸法 コンクリートの打継ぎ目地及びび割れ誘発目地 幅20mm以上、深さ10mm以上 ガラス回りの目地 幅5mm以上、深さ5mm以上 その他の目地 幅10mm以上、深さ10mm以上 シーリングの試験 簡易接着性試験 ( 部位 _____ ) 引張接着性試験 ( 部位 _____ ) 外とい(外気に接するとい) ルーフトレン ルーフトレン (JCW 301) 改修用増ビドレン 水はけ良く、床面より 下げ、周囲の隙間に モルタルを充填する 軒どい 硬質塩化ビニル製(角形) (前高) 巾120mm (カラー) 巾150mm たてとい 硬質塩化ビニル管 (VP) (カラー) 径 75mm 谷どい とい受け金物、足金物 改修標仕 表 3.8.2 により溶融 多雪地域の軒といの 取付間隔 0.5m 以下

吉村建築事務所

1級建築士登録第248236号 吉村 薫

工事名 大久保旦栞市管住宅受水槽ほか改修工事

図面名 建築改修工事特記仕様書 2

設計年月日

2024. 11 .

縮尺 \_\_\_\_\_

図面番号

A - 02

章 項 目	特 記 事 項	章 項 目	特 記 事 項	章 項 目	特 記 事 項	章 項 目	特 記 事 項
3	防水改修工事 内とい( V P管は使用しない) たてとい及び横走り管 SGP 材 質 径 75mm とい受け金物、足金物 改修仕様表 3.8.2 により溶融 多雪地域の軒といの 垂れ込みを設けたもの 取付間隔 0.5m 以下 防露巻き 改修仕様表3.8.3による F 掃除口を設ける(開放性のある自転車置き場のといを除く) 養生鉄管を設ける(径 厚さ 長さ ) 既存といの撤去及び養生 ( ) 網管製といの防露巻 ( 改修仕様表3.8.4による ) たてとい受金物 ( ) (表3.9.1)(表5.2.2) 種 類 幅 板厚(mm) 表面処理 備 考 250 形 250 1.6 AB-1種 AB-2種 隅角部及び突当たり部 300 形 300 1.8 AC-1種 AC-2種 等の役物は本体製所造 350 形 350 2.0 BA-1種 BA-2種 の仕様による。 BB-1種 BB-2種 曲げ材 2.0 BC-1種 BC-2種 W型形式 C種 S型形式 既存笠木の撤去 行う (範囲 図示 SUS製 ) 行わない 下地補修の工法 図示 板材折曲げ形の笠木取付方法 図示 建築基準法に基づく風圧力・積雪荷重に対応した工法 図示による	4	外壁改修工事 (4.1.4) (4.3.5) ~(4.3.8) モルタル塗り仕上げ 樹脂注入方法 工法の種類 ひび割れ幅 (mm) 注入口間隔 (mm) 注入量 (mL/m) 自動式低圧I <sup>※</sup> 樹脂注入工法 0.2以上1.0未満 200~300 130 手動式I <sup>※</sup> 樹脂注入工法 0.2以上0.3未満 50~100 40 機械式I <sup>※</sup> 樹脂注入工法 0.3以上0.5未満 100~200 70 0.5以上1.0未満 150~250 130 コア抜き検査 行う 行わない 抜き個数 長さ500mごと及びその端数につき1個 抜き部の補修方法 図示 Uカットシール材充填方法 シーリング材 充填材料 1成分形又は2成分形ポリウレタン系 ポリマーセメントモルタルの充填 行う 行わない 可とう性エポキシ樹脂 シール工法 パテ状エポキシ樹脂 可とう性エポキシ樹脂 タイル張り仕上げ 樹脂注入方法 工法の種類 ひび割れ幅 (mm) 注入口間隔 (mm) 注入量 (mL/m) 自動式低圧I <sup>※</sup> 樹脂注入工法 0.2以上1.0未満 200~300 130 手動式I <sup>※</sup> 樹脂注入工法 0.2以上0.3未満 50~100 40 機械式I <sup>※</sup> 樹脂注入工法 0.3以上0.5未満 100~200 70 0.5以上1.0未満 150~250 130 ひび割れ部の注入状況の確認 コア抜き検査 抜き個数 長さ500mごと及びその端数につき1個 抜き部の補修方法 図示 タイル撤去後の補修 工 法 材 料 施 工 箇 所 タイル部分 張り替え工法 ポリマーセメントモルタル 変成シリコン樹脂 ウレタン樹脂 タイル張り替え工法 コンクリート打放し仕上げ 樹脂注入方法 工法の種類 ひび割れ幅 (mm) 注入口間隔 (mm) 注入量 (mL/m) 自動式低圧I <sup>※</sup> 樹脂注入工法 0.2以上1.0未満 200~300 130 手動式I <sup>※</sup> 樹脂注入工法 0.2以上0.3未満 50~100 40 機械式I <sup>※</sup> 樹脂注入工法 0.3以上0.5未満 100~200 70 0.5以上1.0未満 150~250 130 コア抜き検査 ○ 行う 行わない (注入状況確認方法 ) 抜き個数 長さ500mごと及びその端数につき1個 抜き部の補修方法 図示 無収縮モルタル充填 Uカットシール材充填方法 シーリング材 充填材料 1成分形又は2成分形ポリウレタン系 ポリマーセメントモルタルの充填 行う 行わない 可とう性エポキシ樹脂 シール工法 パテ状エポキシ樹脂 可とう性エポキシ樹脂	4	外壁改修工事 伸縮調整目地及びひび割れ誘発目地 位置 改修仕様表4.4.2による タイル張り下地等の下地モルタル及び下地調整塗料塗りの接着力試験 行う 行わない 抜き部の補修方法 図示 セメントモルタルによるタイル張り 下地モルタル塗りを行うコンクリート素地面の処理 ○ 目荒し工法 (4.3.10(3)による) ○ タイル張りの工法 外装タイル 密着張り 改良圧着張り 外装ユニットタイル マスク張り モザイクタイル張り 有機系接着剤によるタイル張り モルタル塗りを行うコンクリート素地面の処理 ○ 目荒し工法 (4.3.10(3)による) ○ シーリング材の種類 打継ぎ目地、ひび割れ誘発目地 ポリウレタン系 伸縮調整目地その他の目地 変性シリコン系 タイルの種類 外装タイル ユニットタイル モルタル塗り仕上げ 工 法 アカビ <sup>®</sup> (本/m <sup>2</sup> ) 注入口 (箇所/m <sup>2</sup> ) 充填量 (箇所/m <sup>2</sup> ) 注入量 (箇所/m <sup>2</sup> ) 施工箇所 一般部 一般部 指定部 指定部 アカビ <sup>®</sup> 部分 I <sup>※</sup> 樹脂注入工法 16 25 25 R C部 アカビ <sup>®</sup> 全面 I <sup>※</sup> 樹脂注入工法 13 12 25 I <sup>※</sup> 樹脂注入工法 20 20 アカビ <sup>®</sup> 全面 I <sup>※</sup> 樹脂注入工法 13 12 50 I <sup>※</sup> 樹脂注入工法 20 20 注入口付アカビ <sup>®</sup> 部分 I <sup>※</sup> 樹脂注入工法 9 25 I <sup>※</sup> 樹脂注入工法 16 16 注入口付アカビ <sup>®</sup> 全面 I <sup>※</sup> 樹脂注入工法 9 25 I <sup>※</sup> 樹脂注入工法 16 16 I <sup>※</sup> 樹脂注入工法 9 9 50 I <sup>※</sup> 樹脂注入工法 16 16 アンカーピン ステンレス鋼 (SUS304) 呼び径4mmの丸棒で全ネジ切り加工をしたもの 注入口付アンカーピン ステンレス鋼 (SUS304) 呼び径6mm程度 注入工法用材料 ポリマーセメントスラリー 広がり 長さ変化率 引張接着性 曲げ性能 吸水性 耐久性 速度 (収縮) (材齢28日) (材齢28日) (72時間) (劣化曲げ強さ) (cm/s) (%) (N/mm <sup>2</sup> ) (N/mm <sup>2</sup> ) (%) (N/mm <sup>2</sup> ) 3以上 3以下 0.5以上 5.0以上 15以上 5.0以上 保水係数 0.35~0.55 粘調係数 0.50~1.00 充填工法用材料 エポキシ樹脂モルタル ポリマーセメントモルタル モルタル張り替え工法用材料 既製目地材 使用する(形状 ) 仕上げ厚又は全塗厚が25mmを超える場合の処置 図示 タイル張り仕上げ 工 法 アカビ <sup>®</sup> (本/m <sup>2</sup> ) 注入口 (箇所/m <sup>2</sup> ) 充填量 (箇所/m <sup>2</sup> ) 注入量 (箇所/m <sup>2</sup> ) 施工箇所 一般部 一般部 指定部 指定部 アカビ <sup>®</sup> 部分 I <sup>※</sup> 樹脂注入工法 16 25 25 アカビ <sup>®</sup> 全面 I <sup>※</sup> 樹脂注入工法 13 12 25 I <sup>※</sup> 樹脂注入工法 20 20 アカビ <sup>®</sup> 全面 I <sup>※</sup> 樹脂注入工法 13 12 50 I <sup>※</sup> 樹脂注入工法 20 20 注入口付アカビ <sup>®</sup> 部分 I <sup>※</sup> 樹脂注入工法 9 25 I <sup>※</sup> 樹脂注入工法 16 16 注入口付アカビ <sup>®</sup> 全面 I <sup>※</sup> 樹脂注入工法 9 25 I <sup>※</sup> 樹脂注入工法 16 16 I <sup>※</sup> 樹脂注入工法 9 9 50 I <sup>※</sup> 樹脂注入工法 16 16 注入口付アカビ <sup>®</sup> 部分 I <sup>※</sup> 樹脂注入工法 9 25 25 I <sup>※</sup> 樹脂注入工法 16 16	4	外壁改修工事 アンカーピン ステンレス鋼 (SUS304) 呼び径4mmの丸棒で全ネジ切り加工をしたもの 注入口付アンカーピン ステンレス鋼 (SUS304) 呼び径6mm程度 工 法 1箇所の面積 (m <sup>2</sup> ) 材 料 施 工 箇 所 0.25 未満 ポリマーセメントモルタル 一液反応硬化形成シリコン樹脂 系接着剤 (JIS A 5557による) タイル張り替え工法 張り付けモルタル 現場調査材料 既調合モルタル 一液反応硬化形成シリコン樹脂 系接着剤 (JIS A 5557による) 伸縮調整目地及びひび割れ誘発目地 位置 改修仕様表4.5.1による タイル張り下地等の下地モルタル及び下地調整塗料塗りの接着力試験 行う 行わない 抜き部の補修方法 図示 セメントモルタルによるタイル張り 下地モルタル塗りを行うコンクリート素地面の処理 ○ 目荒し工法 (4.3.10(3)による) ○ タイル張りの工法 外装タイル 密着張り 改良圧着張り 外装ユニットタイル マスク張り モザイクタイル張り 有機系接着剤によるタイル張り シーリング材の種類 打継ぎ目地、ひび割れ誘発目地 ポリウレタン系 伸縮調整目地その他の目地 変性シリコン系 タイルの種類 外装タイル ユニットタイル タイル張り仕上げ 目地ひび割れ部改修工法 伸縮調整目地改修工法 位置 改修仕様表4.4.2による 図示による 寸法(幅×深さ) Uカット打継ぎ目地、ひび割れ誘発目地 20mm以上×10mm以上 その他 10mm以上×10mm以上 建築補修用注入エポキシ樹脂 低粘度形 中粘度形 ひび割れの幅 (mm) 0.2~0.3未満 0.3~0.5未満 0.5~1.0以下 注入口の間隔 (mm) 200程度 300程度 300程度 注入量 (cc/mm) 自動式低圧エポキシ樹脂注入工法 手動式エポキシ樹脂注入工法 ひび割れ部の注入状況の確認 コア抜き検査 抜き個数 長さ500mごと及びその端数につき1個 抜き部の補修方法 (抜き部分の補修方法 ) シーリング材の上にポリマーセメントモルタル 行う アンカーピンの材質 ステンレス鋼(SUS304)、呼び径4mm、全ネジ切り丸棒 注入口付アンカーピンの材質 ステンレス鋼(SUS304)、呼び径6mm程度 モルタル 現場調査材料 既調合材料 ( ) 既製目地材 使用する(形状 )
12	アルミニウム製 笠木 (3.9.2) (3.9.3)			4	浮き部改修工法 (4.1.4) (4.3.11) ~(4.3.16)		
4	外壁改修工事 1 施工数量調査 (1.6.2) 調査範囲 外壁改修範囲 図示の範囲 調査内容 ひび割れの幅及び長さを壁面に表示する。また、ひび割れ部の挙動の有無、漏水の有無及び錆汁の流出の有無を確認する。 モルタル塗り仕上げ及びタイル張り仕上げについては浮き部分を表面に表示し、また欠損部の形状寸法等を調査する。 コンクリート表面のはがれ及びはく落部を壁面に表示する。 塗り仕上げについては、コンクリートまたはモルタル表面のはがれ及びはく落部を壁面に表示する。また既存塗膜と新規上塗料との適合性を確認する。 既存部分の破壊を行った場合の補修方法 図示 調査報告書の部数 2部 施工に先立ち、建築士上級技術者 (BELCA) による外壁劣化状況調査報告書を監督職員に提出し承諾を得ること。 2 ひび割れ部改修 (4.1.4) (4.2.4) ~(4.2.7) コンクリート打放し仕上げ 樹脂注入方法 工法の種類 ひび割れ幅 (mm) 注入口間隔 (mm) 注入量 (mL/m) 自動式低圧I <sup>※</sup> 樹脂注入工法 0.2以上1.0未満 200~300 130 手動式I <sup>※</sup> 樹脂注入工法 0.2以上0.3未満 50~100 40 機械式I <sup>※</sup> 樹脂注入工法 0.3以上0.5未満 100~200 70 0.5以上1.0未満 150~250 130 コア抜き検査 ○ 行う 行わない (注入状況確認方法 ) 抜き個数 長さ500mごと及びその端数につき1個 抜き部の補修方法 図示 無収縮モルタル充填 Uカットシール材充填方法 シーリング材 充填材料 1成分形又は2成分形ポリウレタン系 ポリマーセメントモルタルの充填 行う 行わない 可とう性エポキシ樹脂 シール工法 パテ状エポキシ樹脂 可とう性エポキシ樹脂	3	欠損部改修 (4.1.4) (4.2.4) (4.2.7) (4.1.4) (4.4.5) (4.4.7) ~(4.4.8) コンクリート打放し仕上げ 工 法 材 料 施 工 箇 所 充填工法 エポキシ樹脂モルタル 基礎、PC版 ポリマーセメントモルタル ○ モルタル塗り仕上げ 工 法 材 料 施 工 箇 所 ○ 充填工法 エポキシ樹脂モルタル ポリマーセメントモルタル モルタル張り替え工法 改修仕様表4.3.3による 仕上げ厚又は全塗厚が25mmを超える場合の処置 図示 タイル張り仕上げ 工 法 材 料 施 工 箇 所 タイル部分 張り替え工法 ポリマーセメントモルタル 一液反応硬化形成シリコン樹脂 系接着剤 (JIS A 5557による) タイル張り替え工法 張り付けモルタル 現場調査材料 既調合モルタル 一液反応硬化形成シリコン樹脂 系接着剤 (JIS A 5557による)	5	目地改修工法 (4.1.4) (4.4.5) (4.4.16) 樹脂注入工法 (4.2.4) (4.2.5) ひび割れ部の注入状況の確認 コア抜き検査 抜き個数 長さ500mごと及びその端数につき1個 抜き部の補修方法 (抜き部分の補修方法 ) Uカットシール材 充填工法 (4.2.6) アカビ <sup>®</sup> 注入工法 (4.3.5) 注入口付アカビ <sup>®</sup> 注入工法 (4.3.5) モルタル張り替え工法 (4.3.5)		

章 項 目	特 記 事 項	章 項 目	特 記 事 項	章 項 目	特 記 事 項	章 項 目	特 記 事 項																																																																																																																																																																																																																																																																																							
4 外壁改修工事	<p>11 外壁部分張替え工法及びタイル張替え工法 (4.4.5) (4.4.7) ~ (4.4.8)</p> <p>12 窓下人研面台の補修 (4.5.2) (4.5.6)</p> <p>仕上塗材 (4.1.5)</p> <p>薄付け仕上塗材 (JIS A 6909) (表4.5.1)</p> <table border="1"> <tr><th>種 類 (呼び名)</th><th>仕 上 げ</th><th>工 法</th><th>備 考</th></tr> <tr><td rowspan="2">外装薄塗材Si</td><td>砂壁状</td><td>ゆず肌状 吹付け</td><td></td></tr> <tr><td>ゆず肌状</td><td>さざ波状 ローラ塗り</td><td></td></tr> <tr><td rowspan="2">可とう形外装薄塗材Si</td><td>砂壁状</td><td>ゆず肌状 吹付け</td><td></td></tr> <tr><td>ゆず肌状</td><td>さざ波状 ローラ塗り</td><td></td></tr> <tr><td rowspan="4">外装薄塗材E</td><td>砂壁状</td><td>ゆず肌状 吹付け</td><td></td></tr> <tr><td>平たん状</td><td>凹凸状 こて塗り</td><td></td></tr> <tr><td>ゆず肌状</td><td>さざ波状 ローラ塗り</td><td></td></tr> <tr><td>着色骨材砂壁状</td><td>こて塗り 吹付け</td><td></td></tr> <tr><td rowspan="3">可とう形外装薄塗材E</td><td>砂壁状</td><td>ゆず肌状 吹付け</td><td></td></tr> <tr><td>平たん状</td><td>凹凸状 こて塗り</td><td></td></tr> <tr><td>ゆず肌状</td><td>さざ波状 ローラ塗り</td><td></td></tr> <tr><td rowspan="2">防水形外装薄塗材E (増塗材)</td><td>ゆず肌状</td><td>さざ波状 ローラ塗り</td><td></td></tr> <tr><td>凹凸状</td><td>吹付け</td><td></td></tr> <tr><td>外装薄塗材S</td><td>砂壁状</td><td>吹付け</td><td></td></tr> </table> <p>厚付け仕上塗材 (JIS A 6909) (表4.5.1)</p> <table border="1"> <tr><th>種 類 (呼び名)</th><th>仕 上 げ</th><th>工 法</th><th>備 考</th></tr> <tr><td rowspan="2">外装厚塗材C</td><td>吹放し</td><td>凸部処理 吹付け</td><td></td></tr> <tr><td>平たん状</td><td>凹凸状 こて塗り</td><td></td></tr> <tr><td>(上塗材)</td><td>ひき起こし</td><td>かき落とし</td><td></td></tr> <tr><td>外装厚塗材Si</td><td>吹放し</td><td>凸部処理 吹付け</td><td></td></tr> <tr><td>外装厚塗材E</td><td>平たん状</td><td>凹凸状 こて塗り</td><td></td></tr> <tr><td>(上塗材)</td><td>ひき起こし</td><td>ローラ塗り</td><td></td></tr> </table> <p>覆層仕上塗材 (JIS A 6909) (表4.5.1)</p> <table border="1"> <tr><th>種 類 (呼び名)</th><th>仕 上 げ</th><th>工 法</th><th>備 考</th></tr> <tr><td>覆層塗材C E</td><td>凸部処理</td><td>吹付け</td><td></td></tr> <tr><td>覆層塗材Si</td><td>凹凸状</td><td></td><td></td></tr> <tr><td>○ 覆層塗材E</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>覆層塗材RE</td><td>○ ゆず肌状</td><td>ローラ塗り</td><td></td></tr> <tr><td>可とう形覆層塗材CE</td><td>凸部処理</td><td>凹凸状 吹付け</td><td></td></tr> <tr><td></td><td>ゆず肌状</td><td>ローラ塗り</td><td></td></tr> <tr><td>防水形覆層塗材CE</td><td>凸部処理</td><td>吹付け</td><td></td></tr> <tr><td>防水形覆層塗材E</td><td>凹凸状</td><td>(増塗材)</td><td></td></tr> <tr><td>防水形覆層塗材RE</td><td>ゆず肌状</td><td>ローラ塗り</td><td></td></tr> </table> <p>参考メーカー：エスケー化研(株)、菊水化学工業(株)、日本ペイント(株)</p> <p>可とう形改修用仕上塗材 (JIS A 6909) (表4.5.1)</p> <table border="1"> <tr><th>種 類 (呼び名)</th><th>仕 上 げ</th><th>工 法</th><th>備 考</th></tr> <tr><td>可とう形改修塗材E</td><td>平たん状</td><td>ローラ塗り</td><td></td></tr> <tr><td>可とう形改修塗材RE</td><td>さざ波状</td><td>ローラ塗り</td><td></td></tr> <tr><td>可とう形改修塗材CE</td><td>ゆず肌状</td><td>吹付け</td><td></td></tr> </table> <p>防火材料の指定 なし ○            下地補修後の打放しコンクリート壁面の仕上げ補修 行う (参考工法: _____ 製造所: _____) 行わない</p> <p>仕上塗材の耐候性 耐候形3種 耐候形1種            仕上塗材の上塗材 溶媒 水系 _____            樹脂 アクリル系 シリコン系 _____            外観 つや有 つやなし メタリック</p> <p>⑭ 既存塗膜等の除去及び下地処理 (4.5.4) (4.5.5)            既存塗膜の除去方法 試験施工実施            サンダー工法            ○ 高圧水洗工法 (試験施工実施) (加圧力 ○ 30lpa _____)            塗膜はく離剤工法 (製造所: _____)            水洗い工法 (デッキブラシ 高圧洗浄機 10~15pa)            既存塗膜の除去範囲 既存仕上げ面全体 既存壁面の(____%) 別図に示す範囲</p>	種 類 (呼び名)	仕 上 げ	工 法	備 考	外装薄塗材Si	砂壁状	ゆず肌状 吹付け		ゆず肌状	さざ波状 ローラ塗り		可とう形外装薄塗材Si	砂壁状	ゆず肌状 吹付け		ゆず肌状	さざ波状 ローラ塗り		外装薄塗材E	砂壁状	ゆず肌状 吹付け		平たん状	凹凸状 こて塗り		ゆず肌状	さざ波状 ローラ塗り		着色骨材砂壁状	こて塗り 吹付け		可とう形外装薄塗材E	砂壁状	ゆず肌状 吹付け		平たん状	凹凸状 こて塗り		ゆず肌状	さざ波状 ローラ塗り		防水形外装薄塗材E (増塗材)	ゆず肌状	さざ波状 ローラ塗り		凹凸状	吹付け		外装薄塗材S	砂壁状	吹付け		種 類 (呼び名)	仕 上 げ	工 法	備 考	外装厚塗材C	吹放し	凸部処理 吹付け		平たん状	凹凸状 こて塗り		(上塗材)	ひき起こし	かき落とし		外装厚塗材Si	吹放し	凸部処理 吹付け		外装厚塗材E	平たん状	凹凸状 こて塗り		(上塗材)	ひき起こし	ローラ塗り		種 類 (呼び名)	仕 上 げ	工 法	備 考	覆層塗材C E	凸部処理	吹付け		覆層塗材Si	凹凸状			○ 覆層塗材E				覆層塗材RE	○ ゆず肌状	ローラ塗り		可とう形覆層塗材CE	凸部処理	凹凸状 吹付け			ゆず肌状	ローラ塗り		防水形覆層塗材CE	凸部処理	吹付け		防水形覆層塗材E	凹凸状	(増塗材)		防水形覆層塗材RE	ゆず肌状	ローラ塗り		種 類 (呼び名)	仕 上 げ	工 法	備 考	可とう形改修塗材E	平たん状	ローラ塗り		可とう形改修塗材RE	さざ波状	ローラ塗り		可とう形改修塗材CE	ゆず肌状	吹付け		4 外壁改修工事	<p>15 マスチック塗材塗り (4.1.5) (4.6.2)</p> <p>16 部分改修工法 (4.5.7)</p> <p>17 外壁用塗膜防水材塗り (4.1.5) (4.7.2) (4.7.3)</p>	5 建具改修工事	<p>1 性能 「第1章 一般共通事項 4 風圧力及び積雪に対する性能」を満足させること。</p> <p>2 施工数量調査 (1.6.2) 行う ( 建具金物 ガラス ガラス止め材 _____ ) 施工に先立ち、施工数量調査報告書を監督職員に提出し承諾を得ること。行わない</p> <p>3 改修工法 (5.1.3) 既存建具を新規建具に改修する場合 かつせ工法 ( カバー工法 持出し工法 ノンシール工法 ) 撤去工法 ( はつり工法 引き抜き工法 ) 新規に建具を設置する場合 新規建具を設ける壁の開閉方法 図示による _____ 新規建具周囲の補修工法及び範囲 図示による _____</p> <p>4 防火戸 (5.1.4) 図示による 防火戸の自動閉鎖機構及び防火戸とヒューズ装置、熱感知器又は煙感知器との連動 運動させる ( 建具表による _____ ) 運動させない</p> <p>5 見本の製作等 (5.1.5) (5.1.6) 建具見本の製作 行う ( 建具番号 _____ ) 特殊な建具の仮組 行う ( 建具番号 _____ ) ブラインドボックス等の再使用 ( _____ )</p> <p>6 防犯建物部品 (5.1.7) 開口部の侵入防止対策上有効な措置が講じられた「防犯建物部品」を適用する箇所            ・ ドア 適用箇所 ( _____ )            ・ サッシ 適用箇所 ( _____ )            ・ シャッター 適用箇所 ( _____ )</p> <p>7 アルミニウム製建具 (5.2.2) (5.2.5) 外部に面するアルミニウム製建具の性能等級 (表5.2.1)</p> <table border="1"> <tr><th>性能等級</th><th>A種</th><th>B種</th><th>C種</th></tr> <tr><td>耐風圧性</td><td>S - 4</td><td>S - 5</td><td>S - 6</td></tr> <tr><td>気密性</td><td>A - 3</td><td>A - 4</td><td>A - 5</td></tr> <tr><td>水密性</td><td>W - 4</td><td>W - 5</td><td>W - 6</td></tr> </table> <p>表面処理 (表5.2.2)</p> <table border="1"> <tr><th>種 別</th><th>色</th><th>施 工 箇 所</th></tr> <tr><td>B/B-1種</td><td>標準 特注</td><td>図示による</td></tr> <tr><td>B/B-2種</td><td>標準 特注</td><td>図示による</td></tr> <tr><td></td><td>標準 特注</td><td></td></tr> <tr><td></td><td>標準 特注</td><td></td></tr> <tr><td></td><td>標準 特注</td><td></td></tr> </table> <p>防音ドア、防音サッシとする場合 ( 遮音性の等級 _____ ) 断熱ドア、断熱サッシとする場合 ( 断熱性の等級 _____ )</p> <p>結露水の処理方法 ○ 水貯め式 ○ 排水式 図示による ○            水切り、ぜん板等 図示による ○            ステンレス製のくつずりの仕上げ HL _____</p>	性能等級	A種	B種	C種	耐風圧性	S - 4	S - 5	S - 6	気密性	A - 3	A - 4	A - 5	水密性	W - 4	W - 5	W - 6	種 別	色	施 工 箇 所	B/B-1種	標準 特注	図示による	B/B-2種	標準 特注	図示による		標準 特注			標準 特注			標準 特注		8 網戸等 (5.2.3) (5.3.3)	5 建具改修工事	<p>9 樹脂製建具 (5.3.2) (5.3.5)</p> <p>10 鋼製建具 (5.2.2) (5.4.2) (5.4.4)</p> <p>11 鋼製軽量建具 (5.2.2) (5.5.2) (5.5.4) (5.5.4)</p> <p>12 ステンレス製建具 (5.2.2) (5.4.2) (5.6.2) (5.6.5)</p>	13 建具用金物 (5.8.2) (5.8.4) <p>開口戸 (表5.8.1)</p> <table border="1"> <tr><th>金物の種類</th><th>見え掛り部の材質</th><th>その他</th></tr> <tr><td>シリンドー箱錠</td><td>握り玉: ステンレス バネ: ステンレス、7%Ni合金、 ( ステンレス、黄銅 )</td><td>取付位置 ( _____ ) 実用性能項目 グレード3以上 (鋼製建具、鋼製軽量建具、ステンレス製建具) 耐じん性能のグレード</td></tr> <tr><td>本締り錠</td><td>シリンドー: ステンレス</td><td>取付位置 ( _____ ) 実用性能項目 グレード3以上 (鋼製建具、鋼製軽量建具、ステンレス製建具) 耐じん性能のグレード</td></tr> <tr><td>空錠</td><td>握り玉: ステンレス バネ: ステンレス、7%Ni合金、 ( ステンレス、黄銅 )</td><td>取付位置 ( _____ )</td></tr> <tr><td>グレモン錠</td><td>バネ: ステンレス、7%Ni合金、 ( ステンレス )</td><td>取付位置 ( _____ )</td></tr> <tr><td>ケースハンドル錠</td><td>ステンレス</td><td></td></tr> <tr><td>点検口錠</td><td>亜鉛合金程度、( ステンレス )</td><td></td></tr> <tr><td>丁番</td><td>ステンレス、( 黄銅 )</td><td></td></tr> <tr><td>ピボットヒンジ</td><td>鋼 ( ステンレス ) ( 亜鉛合金 )</td><td>亜鉛合金は木製建具用のみ</td></tr> <tr><td>点検口輪吊りヒンジ</td><td>建具製作所の仕様による</td><td>自閉装置付き</td></tr> <tr><td>フロアヒンジ</td><td>鋼 ( ステンレス、( 本体は鋼 )</td><td>ドアクローザー</td></tr> <tr><td>ヒンジ (焼付塗装)</td><td>鋼 ( 焼付塗装 )</td><td>遅延閉り機能付き</td></tr> <tr><td>ヒンジ (焼付塗装)</td><td>鋼 ( 焼付塗装 )</td><td></td></tr> <tr><td>ドアクローザー</td><td>本体: 7%Ni合金 7-4部: 鋼 ( 焼付塗装 )</td><td></td></tr> <tr><td>閉鎖位置調整器</td><td>ステンレス、( 鋼 )</td><td></td></tr> <tr><td>押棒・押板</td><td>( ステンレス、黄銅、合成樹脂 )</td><td>取付位置 ( _____ )</td></tr> <tr><td>上げ落し (フランス落し)</td><td>亜鉛合金程度、( ステンレス )</td><td></td></tr> <tr><td>7-4部</td><td>鋼 ( 加えめつき )、( ステンレス )</td><td></td></tr> <tr><td>戸当り</td><td>亜鉛合金程度、( ステンレス、黄銅 )</td><td>あおり止め付き</td></tr> </table> <p>引戸 (表5.8.1)</p> <table border="1"> <tr><th>金物の種類</th><th>見え掛り部の材質</th><th>その他</th></tr> <tr><td>引戸用錠</td><td></td><td>木製建具の場合: ステンレス、シリンドー等 取付位置 ( _____ ) 木製建具の場合: ステンレス、( 黄銅 )</td></tr> <tr><td>クレセント</td><td>建具製作所の仕様による。</td><td></td></tr> <tr><td>引手類</td><td></td><td></td></tr> <tr><td>戸車 (上吊りの場合を除く)</td><td></td><td></td></tr> <tr><td>レール (上吊りの場合を除く)</td><td>ステンレス、( 7%Ni合金 黄銅 )</td><td>黄銅は木製建具用のみ</td></tr> </table> <p>窓 (表5.8.1)</p> <table border="1"> <tr><th>金物の種類</th><th>見え掛り部の材質</th><th>その他</th></tr> <tr><td>クレセント・調整器</td><td>建具製作所の仕様による。</td><td></td></tr> <tr><td>・ヒンジ等</td><td></td><td></td></tr> </table> <p>金属製建具用丁番 表5.8.2による _____            樹脂製建具用丁番 表5.8.3による _____</p>	金物の種類	見え掛り部の材質	その他	シリンドー箱錠	握り玉: ステンレス バネ: ステンレス、7%Ni合金、 ( ステンレス、黄銅 )	取付位置 ( _____ ) 実用性能項目 グレード3以上 (鋼製建具、鋼製軽量建具、ステンレス製建具) 耐じん性能のグレード	本締り錠	シリンドー: ステンレス	取付位置 ( _____ ) 実用性能項目 グレード3以上 (鋼製建具、鋼製軽量建具、ステンレス製建具) 耐じん性能のグレード	空錠	握り玉: ステンレス バネ: ステンレス、7%Ni合金、 ( ステンレス、黄銅 )	取付位置 ( _____ )	グレモン錠	バネ: ステンレス、7%Ni合金、 ( ステンレス )	取付位置 ( _____ )	ケースハンドル錠	ステンレス		点検口錠	亜鉛合金程度、( ステンレス )		丁番	ステンレス、( 黄銅 )		ピボットヒンジ	鋼 ( ステンレス ) ( 亜鉛合金 )	亜鉛合金は木製建具用のみ	点検口輪吊りヒンジ	建具製作所の仕様による	自閉装置付き	フロアヒンジ	鋼 ( ステンレス、( 本体は鋼 )	ドアクローザー	ヒンジ (焼付塗装)	鋼 ( 焼付塗装 )	遅延閉り機能付き	ヒンジ (焼付塗装)	鋼 ( 焼付塗装 )		ドアクローザー	本体: 7%Ni合金 7-4部: 鋼 ( 焼付塗装 )		閉鎖位置調整器	ステンレス、( 鋼 )		押棒・押板	( ステンレス、黄銅、合成樹脂 )	取付位置 ( _____ )	上げ落し (フランス落し)	亜鉛合金程度、( ステンレス )		7-4部	鋼 ( 加えめつき )、( ステンレス )		戸当り	亜鉛合金程度、( ステンレス、黄銅 )	あおり止め付き	金物の種類	見え掛り部の材質	その他	引戸用錠		木製建具の場合: ステンレス、シリンドー等 取付位置 ( _____ ) 木製建具の場合: ステンレス、( 黄銅 )	クレセント	建具製作所の仕様による。		引手類			戸車 (上吊りの場合を除く)			レール (上吊りの場合を除く)	ステンレス、( 7%Ni合金 黄銅 )	黄銅は木製建具用のみ	金物の種類	見え掛り部の材質	その他	クレセント・調整器	建具製作所の仕様による。		・ヒンジ等			14 自動ドア開閉装置 (5.9.2) (5.9.3)	<p>駆動装置及び検出装置の性能            引き戸用駆動装置性能値            改修仕様 表5.9.1による ( SSLD-1 SSLD-2 DSLD-1 DSLD-2 )</p> <table border="1"> <tr><th>種類・開閉方式</th><th>耐電圧</th><th>温度上昇</th><th>耐久性(サイクル)</th><th>防錆</th><th>電源</th></tr> <tr><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr> </table> <p>車椅子使用者用便所出入口引き戸用駆動装置性能値            改修仕様 表5.9.2による</p> <table border="1"> <tr><th>耐電圧</th><th>温度上昇</th><th>耐久性(サイクル)</th><th>防錆</th><th>電源</th></tr> <tr><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr> </table>	種類・開閉方式	耐電圧	温度上昇	耐久性(サイクル)	防錆	電源							耐電圧	温度上昇	耐久性(サイクル)	防錆	電源					
種 類 (呼び名)	仕 上 げ	工 法	備 考																																																																																																																																																																																																																																																																																											
外装薄塗材Si	砂壁状	ゆず肌状 吹付け																																																																																																																																																																																																																																																																																												
	ゆず肌状	さざ波状 ローラ塗り																																																																																																																																																																																																																																																																																												
可とう形外装薄塗材Si	砂壁状	ゆず肌状 吹付け																																																																																																																																																																																																																																																																																												
	ゆず肌状	さざ波状 ローラ塗り																																																																																																																																																																																																																																																																																												
外装薄塗材E	砂壁状	ゆず肌状 吹付け																																																																																																																																																																																																																																																																																												
	平たん状	凹凸状 こて塗り																																																																																																																																																																																																																																																																																												
	ゆず肌状	さざ波状 ローラ塗り																																																																																																																																																																																																																																																																																												
	着色骨材砂壁状	こて塗り 吹付け																																																																																																																																																																																																																																																																																												
可とう形外装薄塗材E	砂壁状	ゆず肌状 吹付け																																																																																																																																																																																																																																																																																												
	平たん状	凹凸状 こて塗り																																																																																																																																																																																																																																																																																												
	ゆず肌状	さざ波状 ローラ塗り																																																																																																																																																																																																																																																																																												
防水形外装薄塗材E (増塗材)	ゆず肌状	さざ波状 ローラ塗り																																																																																																																																																																																																																																																																																												
	凹凸状	吹付け																																																																																																																																																																																																																																																																																												
外装薄塗材S	砂壁状	吹付け																																																																																																																																																																																																																																																																																												
種 類 (呼び名)	仕 上 げ	工 法	備 考																																																																																																																																																																																																																																																																																											
外装厚塗材C	吹放し	凸部処理 吹付け																																																																																																																																																																																																																																																																																												
	平たん状	凹凸状 こて塗り																																																																																																																																																																																																																																																																																												
(上塗材)	ひき起こし	かき落とし																																																																																																																																																																																																																																																																																												
外装厚塗材Si	吹放し	凸部処理 吹付け																																																																																																																																																																																																																																																																																												
外装厚塗材E	平たん状	凹凸状 こて塗り																																																																																																																																																																																																																																																																																												
(上塗材)	ひき起こし	ローラ塗り																																																																																																																																																																																																																																																																																												
種 類 (呼び名)	仕 上 げ	工 法	備 考																																																																																																																																																																																																																																																																																											
覆層塗材C E	凸部処理	吹付け																																																																																																																																																																																																																																																																																												
覆層塗材Si	凹凸状																																																																																																																																																																																																																																																																																													
○ 覆層塗材E																																																																																																																																																																																																																																																																																														
覆層塗材RE	○ ゆず肌状	ローラ塗り																																																																																																																																																																																																																																																																																												
可とう形覆層塗材CE	凸部処理	凹凸状 吹付け																																																																																																																																																																																																																																																																																												
	ゆず肌状	ローラ塗り																																																																																																																																																																																																																																																																																												
防水形覆層塗材CE	凸部処理	吹付け																																																																																																																																																																																																																																																																																												
防水形覆層塗材E	凹凸状	(増塗材)																																																																																																																																																																																																																																																																																												
防水形覆層塗材RE	ゆず肌状	ローラ塗り																																																																																																																																																																																																																																																																																												
種 類 (呼び名)	仕 上 げ	工 法	備 考																																																																																																																																																																																																																																																																																											
可とう形改修塗材E	平たん状	ローラ塗り																																																																																																																																																																																																																																																																																												
可とう形改修塗材RE	さざ波状	ローラ塗り																																																																																																																																																																																																																																																																																												
可とう形改修塗材CE	ゆず肌状	吹付け																																																																																																																																																																																																																																																																																												
性能等級	A種	B種	C種																																																																																																																																																																																																																																																																																											
耐風圧性	S - 4	S - 5	S - 6																																																																																																																																																																																																																																																																																											
気密性	A - 3	A - 4	A - 5																																																																																																																																																																																																																																																																																											
水密性	W - 4	W - 5	W - 6																																																																																																																																																																																																																																																																																											
種 別	色	施 工 箇 所																																																																																																																																																																																																																																																																																												
B/B-1種	標準 特注	図示による																																																																																																																																																																																																																																																																																												
B/B-2種	標準 特注	図示による																																																																																																																																																																																																																																																																																												
	標準 特注																																																																																																																																																																																																																																																																																													
	標準 特注																																																																																																																																																																																																																																																																																													
	標準 特注																																																																																																																																																																																																																																																																																													
金物の種類	見え掛り部の材質	その他																																																																																																																																																																																																																																																																																												
シリンドー箱錠	握り玉: ステンレス バネ: ステンレス、7%Ni合金、 ( ステンレス、黄銅 )	取付位置 ( _____ ) 実用性能項目 グレード3以上 (鋼製建具、鋼製軽量建具、ステンレス製建具) 耐じん性能のグレード																																																																																																																																																																																																																																																																																												
本締り錠	シリンドー: ステンレス	取付位置 ( _____ ) 実用性能項目 グレード3以上 (鋼製建具、鋼製軽量建具、ステンレス製建具) 耐じん性能のグレード																																																																																																																																																																																																																																																																																												
空錠	握り玉: ステンレス バネ: ステンレス、7%Ni合金、 ( ステンレス、黄銅 )	取付位置 ( _____ )																																																																																																																																																																																																																																																																																												
グレモン錠	バネ: ステンレス、7%Ni合金、 ( ステンレス )	取付位置 ( _____ )																																																																																																																																																																																																																																																																																												
ケースハンドル錠	ステンレス																																																																																																																																																																																																																																																																																													
点検口錠	亜鉛合金程度、( ステンレス )																																																																																																																																																																																																																																																																																													
丁番	ステンレス、( 黄銅 )																																																																																																																																																																																																																																																																																													
ピボットヒンジ	鋼 ( ステンレス ) ( 亜鉛合金 )	亜鉛合金は木製建具用のみ																																																																																																																																																																																																																																																																																												
点検口輪吊りヒンジ	建具製作所の仕様による	自閉装置付き																																																																																																																																																																																																																																																																																												
フロアヒンジ	鋼 ( ステンレス、( 本体は鋼 )	ドアクローザー																																																																																																																																																																																																																																																																																												
ヒンジ (焼付塗装)	鋼 ( 焼付塗装 )	遅延閉り機能付き																																																																																																																																																																																																																																																																																												
ヒンジ (焼付塗装)	鋼 ( 焼付塗装 )																																																																																																																																																																																																																																																																																													
ドアクローザー	本体: 7%Ni合金 7-4部: 鋼 ( 焼付塗装 )																																																																																																																																																																																																																																																																																													
閉鎖位置調整器	ステンレス、( 鋼 )																																																																																																																																																																																																																																																																																													
押棒・押板	( ステンレス、黄銅、合成樹脂 )	取付位置 ( _____ )																																																																																																																																																																																																																																																																																												
上げ落し (フランス落し)	亜鉛合金程度、( ステンレス )																																																																																																																																																																																																																																																																																													
7-4部	鋼 ( 加えめつき )、( ステンレス )																																																																																																																																																																																																																																																																																													
戸当り	亜鉛合金程度、( ステンレス、黄銅 )	あおり止め付き																																																																																																																																																																																																																																																																																												
金物の種類	見え掛り部の材質	その他																																																																																																																																																																																																																																																																																												
引戸用錠		木製建具の場合: ステンレス、シリンドー等 取付位置 ( _____ ) 木製建具の場合: ステンレス、( 黄銅 )																																																																																																																																																																																																																																																																																												
クレセント	建具製作所の仕様による。																																																																																																																																																																																																																																																																																													
引手類																																																																																																																																																																																																																																																																																														
戸車 (上吊りの場合を除く)																																																																																																																																																																																																																																																																																														
レール (上吊りの場合を除く)	ステンレス、( 7%Ni合金 黄銅 )	黄銅は木製建具用のみ																																																																																																																																																																																																																																																																																												
金物の種類	見え掛り部の材質	その他																																																																																																																																																																																																																																																																																												
クレセント・調整器	建具製作所の仕様による。																																																																																																																																																																																																																																																																																													
・ヒンジ等																																																																																																																																																																																																																																																																																														
種類・開閉方式	耐電圧	温度上昇	耐久性(サイクル)	防錆	電源																																																																																																																																																																																																																																																																																									
耐電圧	温度上昇	耐久性(サイクル)	防錆	電源																																																																																																																																																																																																																																																																																										
備考				工事名 大久保旦栢市管住宅受水水槽ほか改修工事	設計年月日 2024.11.	図面番号 A-04																																																																																																																																																																																																																																																																																								
	吉村建築事務所			図面名 建築改修工事特記仕様書 4	編尺 _____																																																																																																																																																																																																																																																																																									
	1級建築士登録第248236号 吉村 薫																																																																																																																																																																																																																																																																																													

章 項 目	特 記 事 項	章 項 目	特 記 事 項	章 項 目	特 記 事 項	章 項 目	特 記 事 項																																																																																																																																																																																													
5 建具 改修 工事	<p>引き戸用検出装置性能値 改修仕様表(5.9.3)による</p> <table border="1"> <tr> <td>放射無線周波数</td> <td>耐電圧</td> <td>防錆</td> <td>防滴</td> <td>電源</td> </tr> <tr> <td>電磁界耐性</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </table> <p>戸の開閉方式 建具表による 引き戸検出装置の種類 表 5.9.4 ( ) による 建具表による タッチスイッチの種類 無線式タッチスイッチ 光線式タッチスイッチ 車椅子使用者用便房 大形押しボタンスイッチ 非接触スイッチ 凍結防止措置 行う</p> <p>性能値等の区分 (表5.10.1)</p> <table border="1"> <tr> <td>適用戸の総質量(kg)</td> <td>40以下</td> <td>40を超えるもの</td> </tr> <tr> <td>手動開き力(N)</td> <td>15以下</td> <td>20以下</td> </tr> <tr> <td>手動閉じ力(N)</td> <td>15以下</td> <td>20以下</td> </tr> </table> <p>性能等 品質・規格</p> <p>15 自閉式上吊り引戸装置 (5.10.3)</p> <p>16 重量シャッター (5.11.2) ~ (5.11.4)</p> <p>17 軽量シャッター (5.12.2) ~ (5.12.4)</p> <p>18 オーバーヘッドドア (5.13.2) ~ (5.13.4)</p> <p>19 ガラス (5.14.2) ~ (5.14.4)</p>	放射無線周波数	耐電圧	防錆	防滴	電源	電磁界耐性					適用戸の総質量(kg)	40以下	40を超えるもの	手動開き力(N)	15以下	20以下	手動閉じ力(N)	15以下	20以下	<p>20 ガラス留め材 (5.14.2)</p> <p>21 ガラスブロック (5.14.5)</p> <p>22 木製建具 (5.7.2) ~ (5.7.4)</p> <p>23 ポリカーボネイト樹脂板</p>	<p>6 内装 改修 工事</p> <p>2 2 3 4 5</p>	<p>6 内装 改修 工事</p> <p>1 揮発性有機化合物対策 (6.5.2) ~ (6.5.4) (6.8.2) (6.9.2) (6.10.2)(6.11.2) (6.11.4)(6.11.5) (6.13.2)(6.14.2) (6.16.4)(9.5.3) (9.5.4)</p> <p>2 他部分との取り合い等 (6.1.3)</p> <p>3 既存床の撤去等 (6.2.2)</p> <p>4 既存壁の撤去等 (6.3.2)</p> <p>5 木下地等 (6.5.1) ~ (6.5.9)</p>	<p>使用木材のうち杉、ひのきについては京都府産木材とする。 工事完成までに、ウッドマイルズ CO2京都の木認証書(京都府産木材証明書及びウッドマイルズCO2計算書)(注1)を提出する事を原則とする。当該認証を受けた木材の使用が困難な場合には、京都の木証明書(京都府産木材証明書)(注2)を提出すること。 証明書及び計算書の発行に係る手続きについては次の機関による。 一般財団法人京都府木材組合連合会 TEL: 075-802-2991 注1) 認証書 注2) 証明書は製材助、流通業者の全てが取扱事業者又は認証機関登録事業者でなければ発行されない。 詳細は上記法人のホームページを参照すること。</p> <p>工事完成までに、京都府産木材の産地証明書を提出すること。 京都木材規格(KTS)材を使用する場合は、京都木材規格(KTS)材証明書(発行機関: (一社) 京都府木材組合連合会)を提出すること。</p> <p>「集材材の日本農林規格」による造作用集成材</p> <table border="1"> <tr> <th>使用箇所</th> <th>品名</th> <th>樹種</th> <th>見付材面数</th> <th>寸法</th> <th>見付材面の品質</th> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>1等 2等</td> </tr> </table> <p>化粧ばり造作用集成材</p> <table border="1"> <tr> <th>使用箇所</th> <th>品名</th> <th>樹種</th> <th>寸法</th> <th>化粧板厚</th> <th>見付材面数</th> <th>見付材面の品質</th> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>1等 2等</td> </tr> </table> <p>「集材材の日本農林規格」以外の造作用集成材</p> <table border="1"> <tr> <th>使用箇所</th> <th>樹種</th> <th>寸法</th> <th>見付材面の品質</th> <th>含水率</th> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>15%以下</td> </tr> </table> <p>化粧ばり造作用集成材</p> <table border="1"> <tr> <th>使用箇所</th> <th>化粧樹種名</th> <th>芯材樹種名</th> <th>寸法</th> <th>化粧板厚</th> <th>見付材面の品質</th> <th>含水率</th> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>15%以下</td> </tr> </table> <p>JAS 0701 (単板積層材) に基づく造作用単板積層材</p> <table border="1"> <tr> <th>使用箇所</th> <th>品名</th> <th>寸法</th> <th>表面の品質</th> <th>防虫処理</th> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td>表面化粧加工なし 1等 2等 3等 表面化粧加工あり 天然化粧加工 塗装加工</td> <td>適用する 適用しない</td> </tr> </table> <p>JAS 0701 (単板積層材) 以外の造作用単板積層材</p> <table border="1"> <tr> <th>使用箇所</th> <th>寸法</th> <th>表面の品質</th> <th>含水率</th> <th>防虫処理</th> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td>表面化粧加工なし 表面化粧加工あり 天然化粧加工 塗装加工</td> <td>14%以下</td> <td>適用する 適用しない</td> </tr> </table> <p>JAS 3079 (直交集成材)</p> <table border="1"> <tr> <th>施工箇所</th> <th>品名</th> <th>曲げ性能(強度等級)</th> <th>種別(使用環境)</th> <th>樹種</th> <th>寸法(mm)</th> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </table> <p>合板等</p> <p>「合板の日本農林規格」による普通合板</p> <table border="1"> <tr> <th>使用箇所</th> <th>品名</th> <th>等級</th> <th>厚さ</th> <th>樹種名</th> <th>接着程度</th> <th>板面の品質</th> <th>保存処理</th> <th>その他処理</th> </tr> <tr> <td></td> <td>押入れ、物入れ</td> <td></td> <td>5.5mm</td> <td></td> <td>1類</td> <td>広葉樹</td> <td></td> <td>防虫処理</td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>2類</td> <td>針葉樹</td> <td></td> <td>難燃処理 防炎処理</td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>C・D以上</td> <td></td> <td></td> </tr> </table> <p>「合板の日本農林規格」による構造用合板</p> <table border="1"> <tr> <th>使用箇所</th> <th>品名</th> <th>等級</th> <th>厚さ</th> <th>樹種名</th> <th>接着程度</th> <th>板面の品質</th> <th>保存処理</th> <th>その他処理</th> </tr> <tr> <td></td> <td>畳床下 地材、70- リッパ張 り下地材</td> <td></td> <td>2級 以上</td> <td>12mm</td> <td>1類 特類</td> <td>C-D 以上</td> <td></td> <td>防虫処理 強度等級</td> </tr> </table> <p>「合板の日本農林規格」による化粧ばり構造用合板</p> <table border="1"> <tr> <th>使用箇所</th> <th>品名</th> <th>厚さ</th> <th>単板の樹種名</th> <th>接着程度</th> <th>防虫処理</th> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>1類 特類</td> <td></td> </tr> </table> <p>「合板の日本農林規格」による天然化粧合板</p> <table border="1"> <tr> <th>使用箇所</th> <th>化粧板に使用する単板の樹種名</th> <th>厚さ</th> <th>接着程度</th> <th>防虫処理</th> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td>1類 2類</td> <td></td> </tr> </table> <p>「合板の日本農林規格」による特殊加工化粧合板</p> <table border="1"> <tr> <th>使用箇所</th> <th>品名</th> <th>厚さ</th> <th>接着程度</th> <th>単板の樹種名</th> <th>化粧加工の方法</th> <th>防虫処理</th> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td>1類 2類</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </table>	使用箇所	品名	樹種	見付材面数	寸法	見付材面の品質						1等 2等	使用箇所	品名	樹種	寸法	化粧板厚	見付材面数	見付材面の品質							1等 2等	使用箇所	樹種	寸法	見付材面の品質	含水率					15%以下	使用箇所	化粧樹種名	芯材樹種名	寸法	化粧板厚	見付材面の品質	含水率							15%以下	使用箇所	品名	寸法	表面の品質	防虫処理				表面化粧加工なし 1等 2等 3等 表面化粧加工あり 天然化粧加工 塗装加工	適用する 適用しない	使用箇所	寸法	表面の品質	含水率	防虫処理			表面化粧加工なし 表面化粧加工あり 天然化粧加工 塗装加工	14%以下	適用する 適用しない	施工箇所	品名	曲げ性能(強度等級)	種別(使用環境)	樹種	寸法(mm)							使用箇所	品名	等級	厚さ	樹種名	接着程度	板面の品質	保存処理	その他処理		押入れ、物入れ		5.5mm		1類	広葉樹		防虫処理						2類	針葉樹		難燃処理 防炎処理							C・D以上			使用箇所	品名	等級	厚さ	樹種名	接着程度	板面の品質	保存処理	その他処理		畳床下 地材、70- リッパ張 り下地材		2級 以上	12mm	1類 特類	C-D 以上		防虫処理 強度等級	使用箇所	品名	厚さ	単板の樹種名	接着程度	防虫処理					1類 特類		使用箇所	化粧板に使用する単板の樹種名	厚さ	接着程度	防虫処理				1類 2類		使用箇所	品名	厚さ	接着程度	単板の樹種名	化粧加工の方法	防虫処理				1類 2類			
放射無線周波数	耐電圧	防錆	防滴	電源																																																																																																																																																																																																
電磁界耐性																																																																																																																																																																																																				
適用戸の総質量(kg)	40以下	40を超えるもの																																																																																																																																																																																																		
手動開き力(N)	15以下	20以下																																																																																																																																																																																																		
手動閉じ力(N)	15以下	20以下																																																																																																																																																																																																		
使用箇所	品名	樹種	見付材面数	寸法	見付材面の品質																																																																																																																																																																																															
					1等 2等																																																																																																																																																																																															
使用箇所	品名	樹種	寸法	化粧板厚	見付材面数	見付材面の品質																																																																																																																																																																																														
						1等 2等																																																																																																																																																																																														
使用箇所	樹種	寸法	見付材面の品質	含水率																																																																																																																																																																																																
				15%以下																																																																																																																																																																																																
使用箇所	化粧樹種名	芯材樹種名	寸法	化粧板厚	見付材面の品質	含水率																																																																																																																																																																																														
						15%以下																																																																																																																																																																																														
使用箇所	品名	寸法	表面の品質	防虫処理																																																																																																																																																																																																
			表面化粧加工なし 1等 2等 3等 表面化粧加工あり 天然化粧加工 塗装加工	適用する 適用しない																																																																																																																																																																																																
使用箇所	寸法	表面の品質	含水率	防虫処理																																																																																																																																																																																																
		表面化粧加工なし 表面化粧加工あり 天然化粧加工 塗装加工	14%以下	適用する 適用しない																																																																																																																																																																																																
施工箇所	品名	曲げ性能(強度等級)	種別(使用環境)	樹種	寸法(mm)																																																																																																																																																																																															
使用箇所	品名	等級	厚さ	樹種名	接着程度	板面の品質	保存処理	その他処理																																																																																																																																																																																												
	押入れ、物入れ		5.5mm		1類	広葉樹		防虫処理																																																																																																																																																																																												
					2類	針葉樹		難燃処理 防炎処理																																																																																																																																																																																												
						C・D以上																																																																																																																																																																																														
使用箇所	品名	等級	厚さ	樹種名	接着程度	板面の品質	保存処理	その他処理																																																																																																																																																																																												
	畳床下 地材、70- リッパ張 り下地材		2級 以上	12mm	1類 特類	C-D 以上		防虫処理 強度等級																																																																																																																																																																																												
使用箇所	品名	厚さ	単板の樹種名	接着程度	防虫処理																																																																																																																																																																																															
				1類 特類																																																																																																																																																																																																
使用箇所	化粧板に使用する単板の樹種名	厚さ	接着程度	防虫処理																																																																																																																																																																																																
			1類 2類																																																																																																																																																																																																	
使用箇所	品名	厚さ	接着程度	単板の樹種名	化粧加工の方法	防虫処理																																																																																																																																																																																														
			1類 2類																																																																																																																																																																																																	
備考																																																																																																																																																																																																				
<p>吉村 建築 事務所</p> <p>1級建築士登録第248236号 吉村 薫</p>				<p>工事名 大久保旦栢市管住宅受水槽ほか改修工事</p> <p>図面名 建築改修工事特記仕様書 5</p>		<p>設計年月日 2024.11.</p> <p>図面番号 A-05</p>																																																																																																																																																																																														



章 項 目	特 記 事 項				章 項 目	特 記 事 項				章 項 目	特 記 事 項				章 項 目	特 記 事 項										
6 内装改修工事	パーティクルボード	使用箇所	厚さ	各種区分	6 内装改修工事	ビニル床タイル	区分	種 類	記号	厚さ(mm)	色 柄	寸 法	施工箇所	6 内装改修工事	11 フローリング張り (6.11.2) ~ (6.11.6)	フローリングのホルムアルデヒド放散量 改修標仕6.11.2(2)による 接着剤のホルムアルデヒド放散量 F	6 内装改修工事	14 壁紙張り (6.14.2) (6.14.3)	防火性能・種類・規格・施工箇所 図示による 下表による							
	JAS 0360 に基づく構造用パネル	使用箇所	等 級	厚 さ		接着剤	種 類	記号	厚さ(mm)	色 柄	寸 法	施工箇所	単層フローリング (表6.11.1) ~ (表6.11.6)		種 類	樹 種		厚さ(mm)	大 小	工 法	備 考	防火性能	品 質	規 格		
	MDF	使用箇所	厚さ	表裏面の状態 による区分		曲げ強さ による区分	接着剤 による区分	難燃性 による区分	複層ビニル床タイル	F T	2.0	無地	300×300		6.11.1	釘留め工法		A種 B種 C種	根太張り工法 直張り工法 接着工法	素地ごしらえ	モルタル及びせっこうプラスター面	A種	B種 (表7.2.4)			
	造作材化粧面の釘打ち 隠し釘打ち 釘頭埋め木 つぶし頭釘打ち 釘頭現し								複層ビニル床タイル	F T	2.5	〇柄物	〇450×450													
諸金物の形状、寸法及び材質 かすがい、座金、箱金物及び短冊金物は、表6.5.3から表6.5.5までに示す程度の市販品で、木材の寸法に応じた適切なものとし、コンクリート埋込部を除き、表8.20.1 [鉄鋼の亜鉛めっきの種別]のF種程度の亜鉛めっきを施したものを採用する。							薄型複層ビニル床タイル	F O B	4.0	〇	500×500															
防腐・防蟻処理を省略できる樹種による製材 適用部位							帯電防止床シート	帯電防止タイプ																		
	薬剤の加圧注入による防腐・防蟻処理	適用部位					種 類	性 能		厚 さ (mm)																
	薬剤の塗布等による防腐・防蟻処理	適用部位					種 類	厚 さ (mm)		備 考																
	薬剤の接着剤への混入による防腐・防蟻処理	適用部位					種 類	厚 さ (mm)		備 考																
	防虫処理	行 方 (範囲)	タワン材等	「製材の日本農林規格」による保存処理 K1)			種 類	厚 さ (mm)		備 考																
6 軽量鉄骨天井下 (6.6.2) ~ (6.6.4)	野縁等の種類	屋内	19型 25型	(表6.6.1)	9 カーベツト敷き (6.9.2) ~ (6.9.3)	ゴム床タイル張り	色 柄	種 類	厚 さ (mm)	寸 法 (mm)				7 塗装改修工事	12 畳敷き (6.12.2)	種別 A種 B種 C種 D種 (KT-___)	7 塗装改修工事	17 タイル張り (6.16.2) ~ (6.16.4)	伸縮調整目地等 床面 縦・横とも4m以内ごと							
野縁受け・つりボルト・インサートの間隔	mm			縁じゆうたん		種 別	織り方	パイル形状	帯電性	色柄	接合法	施 工 箇 所	種 類		規 格	厚 さ (mm)		等	種 別	厚 さ (mm)	工 法	備 考				
周辺の端からの寸法	mm			タフテッドカーベツト		パイル形状	パイル長さ(mm)	工 法	帯電性	施 工 箇 所			種 類		厚 さ (mm)	等		種 別	厚 さ (mm)	工 法	備 考	床面	図示による			
野縁の間隔	mm			タイルカーベツト		種 別	パイル形状	寸法(mm)	総厚さ(mm)	施 工 箇 所			種 類		厚 さ (mm)	等		種 別	厚 さ (mm)	工 法	備 考	壁面	図示による			
はずれ留め補強	有り	無し																								
既存の埋込みインサートの使用	再利用しない	再利用する																								
あと施工アンカーの引抜き試験	行方( 箇所以上、 ___N/箇所 )	行わない																								
開口補強	つりボルト間隔が900mmを超える場合の補強方法	図示による																								
天井のふところの補強 (1.5m以上3m以下)	改修標仕6.6.4(8)による																									
(3m超える)	図示による																									
天井下地材における耐震性を考慮した補強	行 方	行わない																								
屋外の軒天井、ピロティ天井等における耐風圧性を考慮した補強	行 方	行わない																								
7 軽量鉄骨壁下地 (6.7.3)	スタッド、ランナ等の種類	(表6.7.1)																								
	表6.7.1におけるスタッドの高さによる区分に応じた種類																									
	スタッドの高さが5mを超える場合																									
	図示による																									
8 ビニル床シート、 ビニル床タイル 及びゴム床タイル 張り (6.8.2)	ビニル床シート	区分	種 類	記号	厚さ(mm)	色 柄	工 法	施工箇所	10 合成樹脂塗床 (6.10.2) (6.10.3)	厚膜型塗床材	弾性ウレタン樹脂系塗床材			7 塗装改修工事	1 塗装材料 (7.1.3)	塗料のホルムアルデヒド等の放散量 F	7 塗装改修工事	18 セルフレベリング 材塗り (6.17.2) ~ (6.17.3)	塗厚 (mm)	10	15					
発泡層無	単層ビニル床シート	T S	2.5	無地	熱溶接	仕上表による				薄膜型塗床材	エポキシ樹脂系塗床材				種 別	厚 さ (mm)		工 法	備 考	素 地	種 別	備 考				
発泡層有	複層ビニル床シート	F S	2.0	マーブル	柄物					エポキシ樹脂系塗床材	薄膜流しのべ工法 ( 平滑 防滑 )				厚さ	接着の程度		表板樹種								
	発泡複層ビニル床シート	H S								樹脂モルタル工法 ( 平滑 防滑 )	厚膜流しのべ工法 ( 平滑 防滑 )				厚さ	接着の程度		化粧加工の方法								
	クッションフロア	K S								樹脂モルタル工法 ( 平滑 防滑 )				表面性能	F F W W WS	防虫処理 行方										

吉村 建築事務所  
1級建築士登録第248236号 吉村 薫

工事名 大久保旦栢市営住宅受水槽ほか改修工事  
図面名 建築改修工事特記仕様書6

設計年月日 2024.11.  
図面番号 A-06

章 項 目	特 記 事 項	章 項 目	特 記 事 項	章 項 目	特 記 事 項	章 項 目	特 記 事 項
7 塗装改修工事	3 素地ごしらえ (7.3.2) ~ (7.3.7)	811 耐震補強工事 (鉄筋工事)	1 鉄筋の種類 (8.2.1)	812 耐震補強工事 (コンクリート工事)	3 構造体強度補正值 (8.2.5)	813 耐震補強工事 (あと施工アンカー)	10 無筋コンクリート (8.11.1) (8.11.2)
	4 錆止め塗料塗り (7.4.2) (7.4.3)		2 溶接金網 (8.2.2)		4 構造体用モルタル (8.2.6)		11 コンクリート車等の過積載防止対策等
5 塗装工程 (7.5.2) ~ (7.13.2)	錆止め塗料の種類	812 耐震補強工事 (コンクリート工事)	3 鉄筋の継手及び定着 (8.3.4) (8.4.2) (8.4.3)	813 耐震補強工事 (あと施工アンカー)	5 型枠 (せき板) (8.1.4) (8.2.7) (8.7.8)	814 耐震補強工事 (鉄骨工事)	1 あと施工アンカー (8.2.4) (8.12.4)
	鉄鋼面		4 鉄筋のかぶり厚さ及び間隔 (8.3.5)		6 構造体用モルタル (8.2.6)		2 あと施工アンカーの試験 (8.2.4) (8.12.7)
5 塗装工程 (7.5.2) ~ (7.13.2)	工程の種類 (表7.5.1) ~ (表7.13.1)	812 耐震補強工事 (コンクリート工事)	5 圧接完了後の試験 (8.3.8)	813 耐震補強工事 (あと施工アンカー)	7 軽量コンクリート (8.9.1)	814 耐震補強工事 (鉄骨工事)	1 鉄骨の製作工場 (8.1.5)
	C L カワカ塗り		6 割製補強筋 (8.21.6) (8.22.7)		8 暑中コンクリート (8.10.2)		2 鉄骨制作工場における施工管理技術者 (8.1.6)
5 塗装工程 (7.5.2) ~ (7.13.2)	工程の種類 (表7.5.1) ~ (表7.13.1)	812 耐震補強工事 (コンクリート工事)	1 コンクリートの強度 (8.1.3) (8.1.4) (8.9.1) (8.9.2)	813 耐震補強工事 (あと施工アンカー)	9 寒中コンクリート	814 耐震補強工事 (鉄骨工事)	3 鋼材の種類 (8.2.8)
	N A D アクリル樹脂系非水分散形塗料塗り		2 普通コンクリートの材料 (8.2.5)		9 寒中コンクリート		4 高力ボルト (8.2.9) (8.14.2) (8.14.7)
5 塗装工程 (7.5.2) ~ (7.13.2)	D P 耐候性塗料塗り	812 耐震補強工事 (コンクリート工事)	1 コンクリートの種類	813 耐震補強工事 (あと施工アンカー)	6 コンクリートの試験 (8.8.2) ~ (8.8.5)	814 耐震補強工事 (鉄骨工事)	1 鉄骨の製作工場 (8.1.5)
	E P - G つや合成樹脂エポキシ樹脂塗り		2 普通コンクリートの材料 (8.2.5)		6 コンクリートの試験 (8.8.2) ~ (8.8.5)		2 鉄骨制作工場における施工管理技術者 (8.1.6)
5 塗装工程 (7.5.2) ~ (7.13.2)	E P 合成樹脂エポキシ樹脂塗り	812 耐震補強工事 (コンクリート工事)	3 鉄筋の形状、寸法	813 耐震補強工事 (あと施工アンカー)	7 軽量コンクリート (8.9.1)	814 耐震補強工事 (鉄骨工事)	3 鋼材の種類 (8.2.8)
	U C カク樹脂ニス塗り		4 鉄筋のかぶり厚さ及び間隔 (8.3.5)		7 軽量コンクリート (8.9.1)		4 高力ボルト (8.2.9) (8.14.2) (8.14.7)
5 塗装工程 (7.5.2) ~ (7.13.2)	W P 木材保護塗料塗り	812 耐震補強工事 (コンクリート工事)	5 圧接完了後の試験 (8.3.8)	813 耐震補強工事 (あと施工アンカー)	8 暑中コンクリート (8.10.2)	814 耐震補強工事 (鉄骨工事)	4 高力ボルト (8.2.9) (8.14.2) (8.14.7)
	クリヤラッカー塗り		6 割製補強筋 (8.21.6) (8.22.7)		8 暑中コンクリート (8.10.2)		ねじの呼び
5 塗装工程 (7.5.2) ~ (7.13.2)	ウレタン樹脂ニス塗り	812 耐震補強工事 (コンクリート工事)	6 割製補強筋 (8.21.6) (8.22.7)	813 耐震補強工事 (あと施工アンカー)	9 寒中コンクリート	814 耐震補強工事 (鉄骨工事)	ねじの呼び
	オイルステイン塗り		7 鉄骨のかぶり厚さ及び間隔 (8.3.5)		9 寒中コンクリート		すべり係数試験 (対比試験片を作成し、摩擦面の処理状況を確認する) 行わない 行う 試験方法等 図示による

章 項 目	特 記 事 項	章 項 目	特 記 事 項	章 項 目	特 記 事 項	章 項 目	特 記 事 項			
814 耐震補強工事（鉄骨工事）	5 溶融亜鉛めっき高力ボルト接合 (8.20.5)	摩擦面の処理 ブラスト処理（表面粗度 50 μmRz以上） りん酸塩処理 図示による（ すべり耐力等の確認方法 試験方法等 図示による （対比試験片を作成し、摩擦面の処理状況を確認する）	814 耐震補強工事（鉄骨工事）	15 耐火被覆 (8.18.2) ~ (8.18.9)	種別 種 類 材 料 ・ 工 法 適用箇所（部位・部分） 耐火材吹付け 乾式吹付ロックウール 半乾式吹付ロックウール 湿式ロックウール 耐火板張り 繊維混入ケイ酸カルシウム板 耐火材巻付け 高断熱ロックウール 双張り珪藻土塗り 耐火塗料 材料及び工法は、建築基準法に基づき指定又は認定を受けたものとする 性能 性能 適用箇所（部位・部分） 30分耐火 1時間耐火 2時間耐火 3時間耐火	816 耐震補強工事（現場打ちRCの増設工事）	1 補強工法 新設耐震壁 増打ち耐震壁 開口部閉鎖壁 新設袖壁 製造所及び専門業者 ( )			
	6 溶接材料 (8.2.10)	溶接材料 改修標準仕様書8.2.10(1)(2)による 図示による		16 アンカーボルト (7.2.4) (7.10.3) 公共建築工事標準仕様書(84版)による。	2 既存部分の撤去 (8.21.2)		既存仕上げの撤去範囲 図示による 本工事に支障となる最小限の範囲を撤去し既存構造体を出させる。 設備機器・配管等の撤去及び移設 図示による 既存構造体の撤去範囲 図示による はつりだされた鉄筋及び鉄骨の処置 鉄筋は曲げることなく、必要に応じてウレタン等を巻き養生する。また鉄骨は発泡スチロール等で養生する。 図示による	3 既存部分の処理 (8.21.3)	目荒しの程度 既存柱・梁 平均深さ2～5mm(max:5mm)程度の凹面を全体の15～30%の面積となるよう全体にわたって付ける。 図示による 壁（増打ち壁増設の場合） 平均深さ2～5mm(max:5mm)程度の凹面を全体の10～15%の面積となるよう全体にわたって付ける。 図示による	
	7 スタッド (8.2.11)	種類等 呼び名 呼び長さ(mm) 適用箇所 ・16 ・19 ・22		1 グラウト材 (8.2.12)	グラウト材 早強型特殊セメント系無収縮モルタル 無収縮モルタルの調合 製造所で調合されたプレミックスタイプ 現場調合形 無収縮グラウト材の品質 圧縮強度 (N/mm <sup>2</sup> ) 30以上 一般部コンクリート同等以上の強度(鉄筋コネクタ増設工事の壁部) コクサフック-J140-値(秒) 6～10 乾燥収縮 (10 <sup>-4</sup> ) 0 グラウト材の品質管理は次による 圧縮強度試験 行う 行わない コンシステンシー試験 行う 行わない		3 既存部分の撤去 (8.21.2)	既存仕上げの撤去範囲 図示による 本工事に支障となる最小限の範囲を撤去し既存構造体を出させる。 設備機器・配管等の撤去及び移設 図示による 既存構造体の撤去範囲 図示による はつりだされた鉄筋及び鉄骨の処置 鉄筋は曲げることなく、必要に応じてウレタン等を巻き養生する。また鉄骨は発泡スチロール等で養生する。 図示による	4 鉄筋の加工及び組立て (8.21.6)	割製補強筋 「スバイラル筋」又は「はしご筋(水平鉄筋と直行筋は溶接又は結束する)」 スバイラル筋は直径6mm以上とし、ピッチは40～60mmとする。 図示による 開口付増設壁の開口部鉄筋及び増設壁の壁の端部筋筋 ダブル配筋＝閉鎖型配筋、シングル配筋＝フック(3d)付き 図示による
	8 工作図 (8.13.2)	高力ボルト、普通ボルト及びアワカボルトの線端距離、ボルト間隔、ケーシング等 図示による（図に無い場合は鉄骨設計基準による）		2 柱底等の均しモルタル (8.2.12) 公共建築工事標準仕様書(84年版)(7.2.9)(7.10.3)による。	モルタルの種類 無収縮モルタル 材料の調合等 公共建築工事標準仕様書7.2.9(7)から(1)による。 厚さ 図示による 工法 A種 B種		5 コンクリートの打込み工法 (8.21.8)	流込み工法 圧入工法 8.19.9の方法による他、以下に注意する 開口周囲の既存壁をはつり、既存壁筋を露出させ、これに増設する壁筋をフレアー溶接又は重ね継ぎ手により接続する。 開口周囲の既存壁にあと施工アンカーを打設し、これに増設する壁筋をフレアー溶接又は重ね継ぎ手により接続する。(壁が厚く配筋の場合) 開口打設部全てについてグラウト剤を注入する。(壁が薄い場合) 図示による	7 仕上げ (8.21.10)	図示による
	9 ボルト孔 (8.13.8)	母屋又は崩線の取付けに使用する普通ボルトの孔型 ねじの呼び径 +1.0 mm		815 耐震補強工事（グラウト）	1 グラウト材 (8.2.12)		6 既存構造体との取合い (8.21.9)	開口周囲の既存壁をはつり、既存壁筋を露出させ、これに増設する壁筋をフレアー溶接又は重ね継ぎ手により接続する。 開口周囲の既存壁にあと施工アンカーを打設し、これに増設する壁筋をフレアー溶接又は重ね継ぎ手により接続する。(壁が厚く配筋の場合) 開口打設部全てについてグラウト剤を注入する。(壁が薄い場合) 図示による	4 溶接金網巻き工法及び溶接閉鎖フープ巻き工法 (8.23.5)	柱頭のスリット 設ける 設けない 柱脚のスリット 設ける 設けない 打ち込むコンクリート又はグラウト材の厚さ _____ mm 打込みの工法 流込み工法 圧入工法
	10 仮組	実施する 部位 ( ) 実施しない		2 柱底等の均しモルタル (8.2.12) 公共建築工事標準仕様書(84年版)(7.2.9)(7.10.3)による。	2 柱底等の均しモルタル (8.2.12) モルタルの種類 無収縮モルタル 材料の調合等 公共建築工事標準仕様書7.2.9(7)から(1)による。 厚さ 図示による 工法 A種 B種		7 仕上げ (8.21.10)	図示による	5 鋼板巻き工法及び帯板巻き付け工法 (8.23.6)	鋼板の加工 円形 角形 柱頭のスリット 設ける 設けない 柱脚のスリット 設ける 設けない 柱脚スリットを設ける場合の珪藻土剥落防止処理方法 小口塞ぎ鉄板溶接 鋼板曲げ加工 グラウト材 グラウト材の仕様 本特記仕様書8-5-1による グラウト材の厚さ 20mm _____ mm
	11 技能資格者	溶接作業者の技量付加試験 行わない 行う 試験の要領 図示による		16 アンカーボルト (7.2.4) (7.10.3) 公共建築工事標準仕様書(84版)による。	2 柱底等の均しモルタル (8.2.12) モルタルの種類 無収縮モルタル 材料の調合等 公共建築工事標準仕様書7.2.9(7)から(1)による。 厚さ 図示による 工法 A種 B種		1 補強工法 (8.21.6)	内側補強工法 枠付き鉄骨K型ブレース 枠付き鉄骨X型ブレース 枠付き鉄骨類付付ブレース 枠付き鉄骨マサード型ブレース 枠付き有開口鉄板パネル 枠付き無開口鉄板パネル 製造所及び専門業者 ( ) 外側補強工法 枠付き鉄骨ブレース直付け工法 枠付き鉄骨ブレース架構増設工法 製造所及び専門業者 ( )	3 既存部分の処理 (8.23.3) (8.24.3)	目荒し程度 平均深さ2～5mm(max:5mm)程度の凹面を全体の15～30%の面積となるよう全体にわたって付ける。 図示による 柱及び梁の成型（連続繊維補強工法） 支障となる表面の不陸を調整し、コーナー部をグラインダー等により曲面に成型する。(30R ) 図示による
	12 溶接接合 (8.15.4) (8.15.7)	開先の形状 図示による 構造関係共通図(鉄骨設計標準図)による 鋼製エンドタブの切断 有 無 切断する箇所及び切断範囲 図示による 切断面の仕上げ グラインダーにより、粗さ 100 μm Rz 程度以下及びノッチ深さ 1mm 程度以下に仕上げ スカラップの形状 図示による 構造関係共通図(鉄骨設計標準図)による 改良型スカラップ		16 アンカーボルト (7.2.4) (7.10.3) 公共建築工事標準仕様書(84版)による。	2 柱底等の均しモルタル (8.2.12) モルタルの種類 無収縮モルタル 材料の調合等 公共建築工事標準仕様書7.2.9(7)から(1)による。 厚さ 図示による 工法 A種 B種		2 既存部分の撤去 (8.21.2)	既存仕上げの撤去範囲 図示による 本工事に支障となる最小限の範囲を撤去し既存構造体を出させる。 設備機器・配管等の撤去及び移設 図示による 既存構造体の撤去範囲 図示による はつりだされた鉄筋及び鉄骨の処置 鉄筋は曲げることなく、必要に応じてウレタン等を巻き養生する。また鉄骨は発泡スチロール等で養生する。 図示による	4 溶接金網巻き工法及び溶接閉鎖フープ巻き工法 (8.23.5)	柱頭のスリット 設ける 設けない 柱脚のスリット 設ける 設けない 打ち込むコンクリート又はグラウト材の厚さ _____ mm 打込みの工法 流込み工法 圧入工法
	13 溶接部の試験 (8.15.12)	H12建設省告示第1464号第二号に関する外観試験方法等 「突合せ継手の食い違い仕口のずれの検査・補強」(独立行政法人建築研究所) 3.5.2による受入検査 抜き取り検査 抜き取り検査 JASS 6 付則 6 (鉄骨精度検査基準)の付則3「溶接」に関する試験方法等 JASS 10.4 [受入検査] e.溶接部の外観検査(1)から(5)までによる。ただし、完全溶込み溶接部の外観検査の抜き取り箇所は、超音波深傷試験の試験箇所と同一とする 外観試験の不合格箇所は、すべて標準仕様書7.6.13による補修を行い、再試験する。 浸透探傷試験(JIS Z 2343-1) 磁粉探傷試験(JIS Z 2320-1) 超音波探傷試験 工場溶接 平均出検品質限界(AOQL) 全数 検査水準 第6水準 第__水準 現場溶接 平均出検品質限界(AOQL) 全数		16 アンカーボルト (7.2.4) (7.10.3) 公共建築工事標準仕様書(84版)による。	2 柱底等の均しモルタル (8.2.12) モルタルの種類 無収縮モルタル 材料の調合等 公共建築工事標準仕様書7.2.9(7)から(1)による。 厚さ 図示による 工法 A種 B種		3 既存部分の撤去 (8.21.2)	既存仕上げの撤去範囲 図示による 本工事に支障となる最小限の範囲を撤去し既存構造体を出させる。 設備機器・配管等の撤去及び移設 図示による 既存構造体の撤去範囲 図示による はつりだされた鉄筋及び鉄骨の処置 鉄筋は曲げることなく、必要に応じてウレタン等を巻き養生する。また鉄骨は発泡スチロール等で養生する。 図示による	5 鋼板巻き工法及び帯板巻き付け工法 (8.23.6)	鋼板の加工 円形 角形 柱頭のスリット 設ける 設けない 柱脚のスリット 設ける 設けない 柱脚スリットを設ける場合の珪藻土剥落防止処理方法 小口塞ぎ鉄板溶接 鋼板曲げ加工 グラウト材 グラウト材の仕様 本特記仕様書8-5-1による グラウト材の厚さ 20mm _____ mm
	14 錆止め塗料 (7.4.2) (8.17.2) (8.17.4)	塗料の種類 鉄鋼面の錆止め塗料 表7.4.1による A種 B種 C種 O種 E種 亜鉛めっき鋼面の錆止め塗料 表7.4.2による A種 B種 C種 鉄骨鉄筋コンクリート造の鋼製スリーブの内面（鉄骨に溶接されたものに限る） 表7.4.1による A種 B種 C種 O種 E種 耐火被覆材の接着する面への塗装 行わない 行う 耐火被覆材の接着する面以外への塗装 行わない 行う（塗装範囲 図示による）		16 アンカーボルト (7.2.4) (7.10.3) 公共建築工事標準仕様書(84版)による。	2 柱底等の均しモルタル (8.2.12) モルタルの種類 無収縮モルタル 材料の調合等 公共建築工事標準仕様書7.2.9(7)から(1)による。 厚さ 図示による 工法 A種 B種		4 鉄筋の加工及び組立て (8.21.6)	割製補強筋 「スバイラル筋」又は「はしご筋(水平鉄筋と直行筋は溶接又は結束する)」 スバイラル筋は直径6mm以上とし、ピッチは40～60mmとする。 図示による 開口付増設壁の開口部鉄筋及び増設壁の壁の端部筋筋 ダブル配筋＝閉鎖型配筋、シングル配筋＝フック(3d)付き 図示による	5 鋼板巻き工法及び帯板巻き付け工法 (8.23.6)	鋼板の加工 円形 角形 柱頭のスリット 設ける 設けない 柱脚のスリット 設ける 設けない 柱脚スリットを設ける場合の珪藻土剥落防止処理方法 小口塞ぎ鉄板溶接 鋼板曲げ加工 グラウト材 グラウト材の仕様 本特記仕様書8-5-1による グラウト材の厚さ 20mm _____ mm

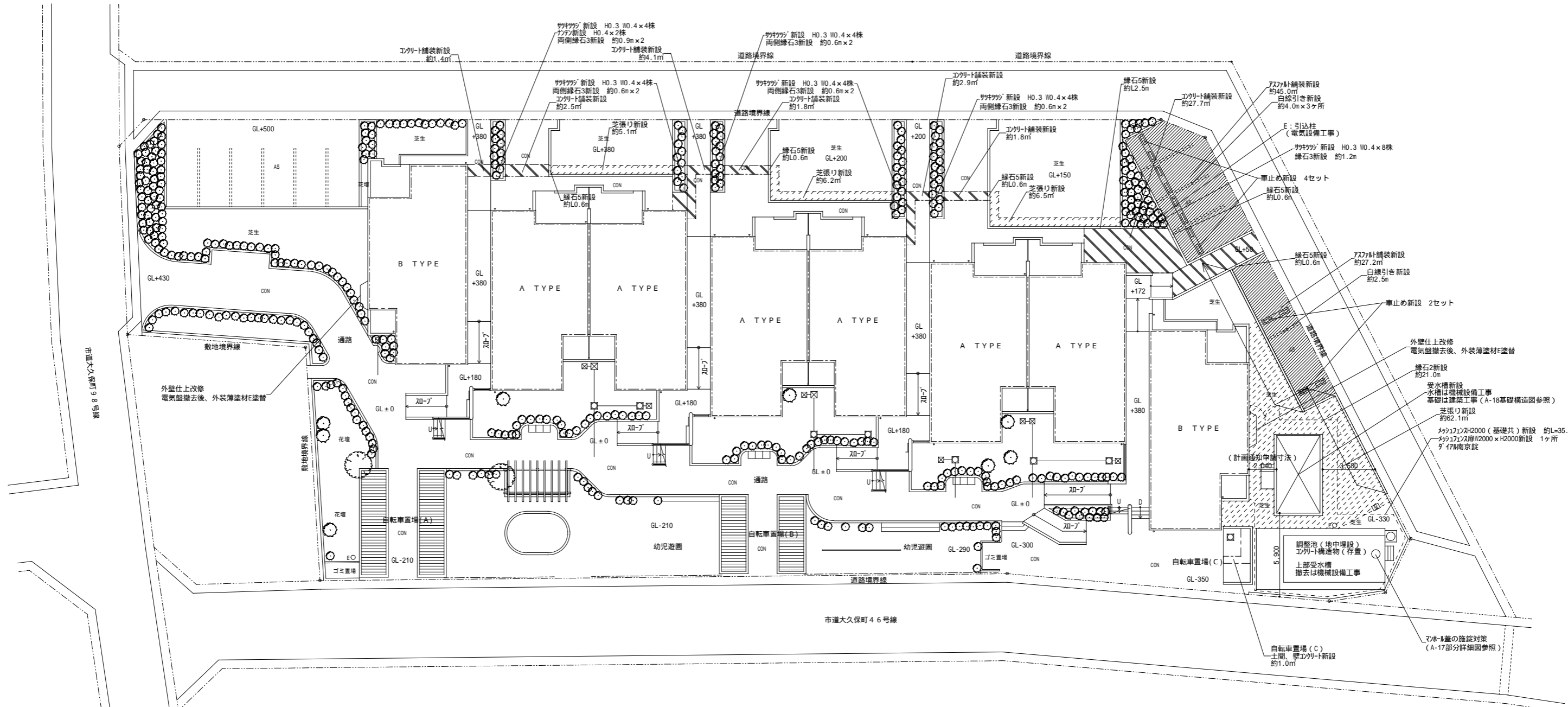
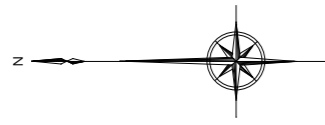
章 項 目	特 記 事 項	章 項 目	特 記 事 項	章 項 目	特 記 事 項	章 項 目	特 記 事 項										
818 耐震補強工事(柱補強工事)	6 連続繊維補強工法 (8.2.13)(8.24.6)	工法 (一財)日本建築防災協会の評価を受けた工法 材料 炭素繊維 アラミド繊維 ガラス繊維 性能 引張強度 N/mm <sup>2</sup> ヤング係数 N/mm <sup>2</sup> 製造所 _____ 製品名 _____ 柱及び梁の隅角部の面取りの大きさ 炭素繊維シート 20mm以上 アラミド繊維シート 10mm以上 仕上げモルタルの除去 構造躯体まで除去する 樹膠注入工法 ひび割れ部改修 コーティング仕上げ 樹膠注入工法 炭素繊維の目付量 図示による 炭素繊維シートの巻数 図示による 引張強度試験 行う 試験数量 ( ) 付着強度試験 行う 試験数量 ( )	4 仕上げ (8.26.13) 図示による 5 耐火被覆 (8.26.14) 仕様 6 特殊コンクリート (8.26.15) 仕様 7 検査 (8.26.16) 項目 _____ 数量 _____ 8 維持管理要領 (8.26.17) 維持管理要領に記載する項目 維持管理の目的 _____ 点検の実施時期 _____ 点検/検査結果の保管 _____ 維持管理に必要な計測機器の設置 _____ 地震計 (仕様 _____) 下げ振り (仕様 _____) けがき板 (仕様 _____) 別置き試験体 (仕様 _____)	1 既存部分の処理等 (8.28.2) 既存杭の撤去等 撤去範囲及び方法 図示による ( ) 杭頭部の処理 図示による ( ) 既存杭の補強 図示による ( ) 既存杭の健全性を確認する試験 図示による ( ) 2 埋戻し及び盛土 (8.28.3) 埋戻し及び盛土の種類 改修標準仕様書8.28.1による A種 適用箇所 ( ) B種 適用箇所 ( ) C種 適用箇所 ( )土質 ( ) 受液場所 ( ) D種 (細粒分(75μm以下)の含有率(重量百分率)の上限を50%未満とする) 適用箇所 ( ) その他 (材料 _____ 工法 _____) 地盤の変形を防止する適切な措置を講ずるための鋼矢板等の抜き跡の処理 図示による 山留め壁等の存置箇所 ( 図示 )	3 可動間仕切 (20.2.3) 種 類 _____ 構造形式 構成基材 表面仕上 遮音性 寸法・形状 パネル式 _____ スタッド式 _____ スリット式 _____ F パネル材料のホルムアルデヒド放散量	819 耐震補強工事(耐震スリット)	1 耐震スリット新設工事 (8.25.2)	1 既存部分の撤去 (8.27.2) 既存部分が鉄筋コンクリート造又は鉄骨鉄筋コンクリート造の場合 既存仕上げの撤去範囲 図示による 本特記仕様書8-6-2による。 設備機器・配管等の撤去及び移設 図示による 本特記仕様書8-6-2による。 既存構造体の撤去範囲 図示による 本特記仕様書8-6-2による。 はつりだされた鉄筋及び鉄骨の処置 図示による 本特記仕様書8-6-2による。 既存部分が鉄骨造の場合 既存仕上げの撤去範囲 図示による 本特記仕様書8-6-2による。 設備機器・配管等の撤去及び移設 図示による 本特記仕様書8-6-2による。 既存鉄骨の撤去範囲 図示による _____ 方法 図示による _____ 既存鉄骨の処置方法 _____	3 減衰材 (8.27.4)(8.27.6) 減衰材 材質 _____ 諸元 _____ 性能確認試験 項目 _____ 数量 _____ 製品検査 項目 _____ 内容 _____ 判定基準 _____ 検査頻度 _____ 防錆処置 _____ 設置位置の寸法許容差 _____ 既存部分が鉄筋コンクリート造または鉄骨鉄筋コンクリート造の場合 割製補強筋 「スパイラル筋」又は「はしご筋(水平鉄筋と直行筋は溶接又は結束する)」 スパイラル筋は直径6mm以上とし、ピッチは40-60mmとする。 図示による 既存部分が鉄骨造の場合 割製補強筋 以下のスパイラル筋とし、鉄骨ブレース設置後、アンカー筋とスタッドを交互に縫うように全周にわたり整然と配置する。 直径6mm以上の鉄筋とし、ピッチは40-60mmの範囲でスタッド(アンカー)ピッチの1/3-1/6程度とする(箇所により内径が異なるので注意する) 図示による	4 仕上げ (8.27.8) 図示による 5 検査 (8.27.9) 項目 _____ 数量 _____	3 耐震スリット新設工事 (8.25.2)	方 向 _____ タ イ プ _____ 耐火性能 _____ 防水性能 _____ 垂直方向 完全(全貫通型)スリット 耐火型 有り 水平方向 せん断型部分スリット 非耐火型 無し 品質・規格 _____ 既存仕上げの撤去範囲 図示による 本特記仕様書8-6-2による。 設備機器・配管等の撤去及び移設 図示による 本特記仕様書8-6-2による。 既存鉄筋の処理 図示による _____ はつり出し 切断 存置(部分スリット) 耐震スリットの幅及び深さ 図示による _____ 耐震スリットの充填材 図示による _____ 耐火材の使用 使用する 使用しない 適用箇所及び仕様 図示による _____ 造音材の使用 使用する 使用しない 適用箇所及び仕様 図示による _____ 既存部分の撤去の補修 図示による _____	5 トイレブース (20.2.5) 表面材 _____ メラミン樹脂系化粧板 _____ ポリエステル樹脂系化粧板 脚部 _____ 幅木型 _____ 足金物型 _____ パネル材料のホルムアルデヒド放散量 F ドアエッジの材質 _____ トイレブース製造所の仕様による	6 手すり (20.2.6) SUS304(表面処理 HL程度 _____) 鋼製 表面処理 溶融亜鉛めっき(表14.2.2)による種別( )種 アルミニウム 表面処理(表14.2.1)による種別( )種 種別( )種( )種( )種 色合等 標準色( )種 特注色( )種 手すりの握り部分 材 種 _____ 表面仕上げ _____ 直径(mm) _____ 取付場所 _____ 備 考 _____ 集成材 (材種: ) _____ 〇クリアラッカー _____ 35程度 _____ ビニル製 _____ 45程度 _____ 35程度 _____ 45程度 _____	7 階段滑り止め (20.2.7) 材種 _____ ステンレス製(SUS304) _____ 幅 約35mm 形状 _____ ビニルタイヤ入り _____ 両端フック付 _____ あり(ビニル SUS304) 取付工法 _____ 接着工法 _____ 埋込み工法 _____	8 黒板及びホワイトボード (20.2.9) 区分 _____ 種 類 _____ 色彩 _____ 備 考 _____ 黒板 焼付け 鋼製黒板 緑 曲面 ホワイトボード ほうろう黒板 黒 スクリーン付引分け ホワイトボード ほうろう白板 白 曲面 スクリーン付引分け	9 鏡 (20.2.10) 額縁金属 _____ アルミ製(表面処理の種別 B-2 B-1) 品質・規格 _____ 厚さ(mm) _____ 5 _____
	810 耐震補強工事(免震改修)	1 既存部分の撤去 (8.26.5) 既存部分が鉄筋コンクリート造又は鉄骨鉄筋コンクリート造・既存杭の場合の仕上げの撤去範囲 図示による 本特記仕様書8-6-2による。 設備機器・配管等の撤去及び移設 図示による 本特記仕様書8-6-2による。 既存構造体の撤去範囲 図示による 本特記仕様書8-6-2による。 はつりだされた鉄筋及び鉄骨の処置 図示による 本特記仕様書8-6-2による。	2 既存部分の処理 (8.26.6) 既存部分が鉄筋コンクリート造又は鉄骨鉄筋コンクリート造・既存杭の場合の目荒しの程度 既存柱・梁 図示による 本特記仕様書8-6-3による。 壁(増打ち壁増設の場合) 図示による 本特記仕様書8-6-3による。	3 支保材・減衰材 (8.26.7)(8.26.10) 支保材 材質 _____ 諸元 _____ 減衰材 材質 _____ 諸元 _____ 性能確認試験 項目 _____ 数量 _____ 製品検査 項目 _____ 内容 _____ 判定基準 _____ 検査頻度 _____ 防錆処置 _____ 設置位置の寸法許容差 _____ 既存部分が鉄筋コンクリート造または鉄骨鉄筋コンクリート造の場合 割製補強筋 「スパイラル筋」又は「はしご筋(水平鉄筋と直行筋は溶接又は結束する)」 スパイラル筋は直径6mm以上とし、ピッチは40-60mmとする。 図示による	9 1 家具、ユニット等の揮発性有機化合物対策 収納家具その他ユニットに使用する材料で、合板類、MDF及び「パーティクルボード」等のホルムアルデヒド等の放散量 F 収納家具その他ユニットに使用する合板等の接着剤ホルムアルデヒド等の放散量 F 含まれる可塑剤 7%酸-7%等を含有しない、難揮発性のもの 2 フリーアクセスフロア (20.2.2) 建設技術評価制度「耐震型フロア」の技術評価を取得した製品とする。 施 工 箇 所 _____ 寸法 (mm) _____ フロア _____ 耐震性能 _____ 所定荷重 _____ 帯電防止 _____ 漏えい _____ 性能 _____ 抵抗 _____ スロープ及びボーダー コンセント等の取付け 製造所の標準仕様 図示による 配線用取出し用開口 対応品又は工場加工品 (施工箇所は図示) 空調用吹出しパネル あり(固定式 可変式 施工箇所は図示) 表面仕上げ材の品質、規模等は、標準19章内装工事による。 フリーアクセスフロアの試験方法 耐荷重性能 _____ 耐衝撃性能 _____ ローリングロード性能 _____ 耐燃焼性能 _____		9 ユニットのその他の工事										

章 項 目	特 記 事 項	章 項 目	特 記 事 項	章 項 目	特 記 事 項	章 項 目	特 記 事 項				
9 ユニ ット 及 び そ の 他 の 工 事	10 表示・標識 (20.2.11)	衝突防止表示 図示による(市販品 ステンレス製 径 30 mm _____) なし 法令に基づく表示 非常用進入口表示等は消防法に適合する市販品とし、その他は標準詳細図による。	20 掲示板	種 の 材 質 表面の材質 照 明 施 錠 品 質 ・ 規 格 屋内 7A212M製(B-2) 7A212M製(SUS304) ○ 屋外 7A212M製(B-2) 7A212M製(SUS304) 押しど ンタイプ あり あり ○ なし なし 900H×600H	10 排 水 工 事	11 舗 装 工 事	5 カラー舗装 (22.6.2) ~ (22.6.4)	種 類 種 部 位 配合その他 加熱系7A712M混合物 添加材 着色骨材 自然石 結合材 7A712M 石油樹脂(添加量 _____) 7A712M混合物等の抽出試験 適用する 適用しない 舗装の厚さ _____mm 常温系ニート工法 常温系塗布工法 着色部の下部 舗装の下たん性 アスファルト舗装 コンクリート舗装 通行の支障となる水たまりを生じない程度			
	11 タラップ (20.2.12)	室名札 厚さ(mm) 材 質 色 書 体 印刷等の種別 取付け形式 5 アクリル板 アルミ板 角太ゴシック丸 シルク印刷 平付型 持出型 外国語表現 行う ( 英語 _____ ) 寸法(mm) 50×250 60×250 図示による	21 カウンター	品質・規格 _____				緑石 (21.3.1)	歩道境界ブロックのJISによる呼び名 A _____ 地先境界ブロックのJISによる呼び名 A C _____ 砂利地帯の厚さ 100mm _____ 9-11-6、9-11-9 (A-17部分詳細図参照)	6 透水性アスファルト舗装 (22.7.2) ~ (22.7.6)	舗装構成及び厚さ 図示による _____ 表層の厚さの試験 行う 行わない 開粒度7A712M混合物の抽出試験 行う 行わない
	12 ブラインド (20.2.14)	ピクトグラフ(便所、車いす、階段等) 厚さ(mm) 材 質 印刷等の種別 取付け形式 備 考 5 アクリル板 アルミ板 シルク印刷 平付型 持出型 寸法(mm) 150×150 図示による	22 洗面カウンター	材 種 メラミン樹脂化粧板張り(芯材:集成材) 人工大理石(品質 図示) 奥行き(mm) 約450 約600				4 コンクリート側溝 (21.2.1) (21.3.1)	鉄筋コンクリートL形のJISによる呼び名 250A 250B _____ コンクリートL形のJISによる呼び名 250A 250B _____ 鉄筋コンクリートU形のJISによる呼び名 240 300A 360A _____ 現場打ちコンクリートの設計基準強度 Fc(N/mm <sup>2</sup> ) 1 8 _____ スランプ(cm) 1 5 1 8 _____	7 ブロック系舗装 (22.8.2) (22.8.3)	コンクリート平板舗装 種 類 寸法(mm) 厚さ(mm) 目 地 普通平板(N) カラー平板(C) 3 0 0角 6 0 砂 洗出平板(W) 覆石(S) _____ モルタル 品質・規格 _____ クッション材 砂 空練りモルタル
	13 ロールスクリーン (20.2.15)	案内板(館内、各階、便所) 厚さ(mm) 材 質 色 書 体 印刷等の種別 取付け形式 5 アクリル板 アルミ板 角太ゴシック丸 シルク印刷 平付型 持出型 外国語表現 行う ( 英語 _____ ) 寸法(mm) 600×600 100×600 200×200 図示による	23 流し台ユニット	種 類 部品寸法(mm) 規 格 仕 様 流し台 _____ 優良住宅部品 トラップ付き コンロ台 _____ 優良住宅部品 パックガード有り 吊戸棚 _____ 優良住宅部品 高さ 約500 mm 水切り棚 _____ 優良住宅部品 ステンレス製1段式				1 路床 (22.2.2) (22.2.3) (22.2.5)	本章の項目及び特記事項の( )内表示番号は、国土交通省大臣官房官庁管轄部監修 公共建築工事標準仕様書(令和4年版)の該当項目、該当図又は該当表を示す。 路床の構成 凍上抑制層 厚さ 図示による _____ 透水性舗装 フィルター層の厚さ 車道部 図示による 150mm _____ 歩道部 図示による 50mm _____ (凍上抑制層に用いる材料に砂を用いる場合の粒度試験) 行う 行わない 盛土に用いる材料 A種 B種 C種 D種 (表23.2.1) 路床安定処理 行う 行わない 路床安定処理用材料 添加材料による安定処理 (表22.2.1) 種 類 地盤改良材 ( ) 高炉セメントB種 普通ポルトランドセメント 生石灰 特号 生石灰 1号 フライアッシュセメントB種 消石灰 特号 消石灰 1号 添加量 _____kg/m <sup>3</sup> 路床土の支持力比(CBR)試験 行う( 乱した土 乱さない土 ) 路床締固め度の試験 行う(埋戻し部、盛土部) 行わない	舗装工 アスファルト舗装 (22.4.2) ~ (22.4.6)	舗石舗装 種 類 形状寸法(mm) 厚さ(mm) 工 法 基 層 基層の厚さ(mm) 花崗岩 _____ 80-100 うろこ張り コクリト版 70 _____ _____ _____ _____ 7A712M 混合物 50 品質・規格 _____ クッション材 砂 空練りモルタル
	14 カーテン (20.2.16)	案内板等 品質・規格 _____	24 非常用救助袋等	垂直降下式緩下機は消防法に基づく国家検定に合格したものである。 形式 傾斜式 垂直式 品質・規格 _____				2 側溝、排水溝及びふた (21.2.1)	凍上抑制層に用いる材料 砂 ( 砂の粒度試験 ) _____	8 砂利敷き (22.9.2)	通 路 A種 B種 建物周囲その他 A種 B種 下敷きの使用材料は再生クラッシュランとする 種 類 溶融式 ペイント式 幅(cm) 15 _____
	15 カーテンレール (20.2.16)	11 タラップ (20.2.12)	25 鍵箱	市販品 形式 釣下式 差込式 ( 30 60 120 _____ ) 組用( _____ ) 個				1 材料 (21.2.1)	材 種 (表21.2.1) 管 の 種 類 呼び径 基床の厚さ 凍上抑制層に用いる材料 砂 ( 砂の粒度試験 ) _____	1 一般事項 (9.1.1)	石綿含有吹付け材除去工事 除去工法 ( 湿式集じん装置付きディスクグラインダー工法 ) 封じ込め工法 ( ) 囲い込み工法 ( ) 石綿含有保温材除去工事 石綿含有成形板等除去工事 石綿含有仕上塗材除去工事 石綿含有建築仕上塗材・下地調整材劣化部除去工事
	16 ブラインドボックス カーテンボックス	12 ブラインド (20.2.14)	26 車止め	形 式 材 質 柱径・肉厚(mm) 高さ(mm) 上下式鎖内蔵型 7A212M製(SUS304) 76.3 t=2.0 GL+700 ( スプリング付き ) 114.3 t=2.5 GL+850 車止めブロック(115×190×600) 基礎 無筋コンクリート造(A-17部分詳細図参照)				2 側溝、排水溝及びふた (21.2.1)	凍上抑制層に用いる材料 砂 ( 砂の粒度試験 ) _____	2 仕上げ工事 (9.1.1)	石綿含有建材除去後の仕上げ工事 図示による _____
	17 かつぶきマット	13 ロールスクリーン (20.2.15)	27 フェンス	表 面 仕 上 等 種 類 門扉の仕様 亜鉛めっき 樹脂塗装 メッシュフェンス 鉄板フェンス 片開き ビニル被覆 樹脂塗装 わたフェンス 両開き 参考メーカー:朝日ユニフェンス(H=2000)ダイヤル南京錠付 UN-A2000 5099-2 固定式 材 質 厚さ(mm) 高さ(mm) 備 考 網入り磨き板ガラス 6.8 500 アルミ製枠付き 網入り磨き板ガラス _____				2 側溝、排水溝及びふた (21.2.1)	凍上抑制層に用いる材料 砂 ( 砂の粒度試験 ) _____		
	18 鋼製書架及び棚	14 カーテン (20.2.16)	28 防煙垂れ壁	可動式 種 類 材 質 高さ(mm) 備 考 垂直降下式 不燃布 500 ガイドレール (巻取り型) (不燃認定品) 800 固定式(壁押込型) 可動式(天井収納型) 回転降下式 鋼板製又はアルミ製 500 表面仕上げ 天井材張り 800 _____							
	19 収納家具(木製)	15 カーテンレール (20.2.16)		降下機構 煙感知器連動及び手動開放装置(埋込型)							
		16 ブラインドボックス カーテンボックス		材料 アルミニウム又はアルミニウム合金の押し出し成形材 ステンレス 形式 片引き 引分け(暗幕用は300mm以上の召合せの重ね掛けとする。) 形状 C型 D型 角型 強さによる区分 10-90 _____ 仕上げ アルマイト _____							
		17 かつぶきマット		図示による 市販品(アルミニウム製 押し出し型材) 仕様等 溝幅×深さ(mm) 90×150 150×80 120×80 表面処理 C-1(無着色) C-2(着色)							
		18 鋼製書架及び棚		種類 規格等 JISによる種類 鋼製書架 JIS S 1039の規格による 1種 2種 3種 鋼製物品棚 法務省型 4種 5種 6種							
		19 収納家具(木製)		材質、形状、寸法 図示による _____ 合板類、MDF及びパーティクルボードのホルムアルデヒド放散量 F _____							

章 項 目	特 記 事 項	章 項 目	特 記 事 項	章 項 目	特 記 事 項	章 項 目	特 記 事 項																																																																																																																																																																																																		
12 環境配慮改修工事	<p>3 石綿粉じん濃度測定 (9.1.1)</p> <p>行う</p> <table border="1"> <tr> <th>測定時期</th> <th>測定場所</th> <th colspan="3">測定点(各施工箇所ごと)</th> <th>備考</th> </tr> <tr> <td>除去作業前</td> <td>除去作業室内</td> <td>1点</td> <td>2点</td> <td>3点</td> <td>点</td> </tr> <tr> <td></td> <td>調査対象室外部付近</td> <td>1点</td> <td>2点</td> <td>3点</td> <td>点</td> </tr> <tr> <td>除去作業中</td> <td>除去作業室内</td> <td>○1点</td> <td>2点</td> <td>3点</td> <td>点</td> </tr> <tr> <td></td> <td>排気装置の出入口</td> <td>1点</td> <td>2点</td> <td>3点</td> <td>点</td> </tr> <tr> <td></td> <td>集じん・排気装置の出口</td> <td>吹出し風速1m/秒以下の位置</td> <td>除去作業室</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td>排出口</td> <td>各</td> <td>1点</td> <td>2点</td> <td>3点</td> </tr> <tr> <td></td> <td>除去作業</td> <td>施工区画周辺</td> <td>1点</td> <td>2点</td> <td>3点</td> </tr> <tr> <td></td> <td>除去作業</td> <td>敷地境界</td> <td>1点</td> <td>2点</td> <td>3点</td> </tr> <tr> <td>除去作業後</td> <td>除去作業室内</td> <td>1点</td> <td>2点</td> <td>点</td> <td>計測発生中</td> </tr> <tr> <td>除去作業後</td> <td>除去作業室内</td> <td>1点</td> <td>2点</td> <td>3点</td> <td>4点</td> </tr> <tr> <td></td> <td>調査対象室外部付近</td> <td>1点</td> <td>2点</td> <td>点</td> <td>1週間以降</td> </tr> </table> <p>周囲の状況等により上記によりがたい場合は、監督職員と協議する。 行わない</p> <p>測定方法</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>自動測定器による測定</li> </ul> <table border="1"> <tr> <th>測定場所</th> <th>測定方法</th> </tr> <tr> <td>排気装置の出入口</td> <td>粉じん相対濃度計(デジタル粉じん計)、P-TEK1000カッター</td> </tr> <tr> <td>集じん・排気装置の出入口(除去作業室内)</td> <td>繊維状粒子自動測定器(7774/7774V-モーター)等の粉じんを迅速に測定できる機器を用いた測定</td> </tr> </table> <p>・ JIS K 3850-1に基づいた測定</p> <table border="1"> <tr> <th>測定場所</th> <th>カブレイク径</th> <th>試料の吸引流量</th> <th>試料の吸引時間</th> </tr> <tr> <td></td> <th>直径 (mm)</th> <th>(L/min)</th> <th>(min)</th> </tr> <tr> <td>排気装置の出入口</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>集じん・排気装置の出入口(除去作業室内)</td> <td>25</td> <td>5</td> <td>30</td> </tr> <tr> <td></td> <td>47</td> <td>10</td> <td>120</td> </tr> <tr> <td></td> <td>47</td> <td>10</td> <td>240</td> </tr> </table> <p>測定機関 (公社)日本作業環境測定協会による「石綿含有の有無の判定及び石綿の含有率の測定が可能な石綿含有率分析可能機関」とする。</p> <p>報告書提出部数 3部 _____部</p> <p>施工業者 工事に相応した技術を有することを証明する資料をあらかじめ提出すること。 「吹付石綿粉じん飛散防止処理技術」について(一財)日本建築セメントの建設技術審査証明事業による建築物等の施工技術及び保全技術の審査証明を取得した工法の施工業者等。</p> <p>除去を行う範囲 図示による(仕上げ表による 床・壁・天井毎に種別を確認) 全ての室 _____</p> <p>除去工法 改修標仕9.1.3(2)(7)による _____</p> <p>除去した石綿含有吹付け材等の飛散防止 密封処理(二重袋包装) 隔離養生に用いたシート、使用した使い捨て保護衣、高性能真空掃除機、除じん機フィルタ等についても密封処理とする。 湿潤化 セメント固化 溶融固化</p> <p>除去物等の保管 他の建設副産物等と分別して保管する。 飛散防止措置を講ずる。 石綿等の保管場所であることの表示を行う。</p> <p>除去した石綿含有吹付け材等の処分方法 埋立処分(管理型最終処分場) 中間処理(溶融施設)</p> <p>除去を行う範囲 図示による _____</p> <p>除去方法 原形のまま手ばらし 手ばらし以外(この場合は改修標仕9.1.3(1)による隔離とする)</p> <p>除去した石綿含有保温材等(石綿含有けい酸加減板第二種含む)の処分 埋立処分(管理型最終処分場) 中間処理(溶融施設)</p>	測定時期	測定場所	測定点(各施工箇所ごと)			備考	除去作業前	除去作業室内	1点	2点	3点	点		調査対象室外部付近	1点	2点	3点	点	除去作業中	除去作業室内	○1点	2点	3点	点		排気装置の出入口	1点	2点	3点	点		集じん・排気装置の出口	吹出し風速1m/秒以下の位置	除去作業室				排出口	各	1点	2点	3点		除去作業	施工区画周辺	1点	2点	3点		除去作業	敷地境界	1点	2点	3点	除去作業後	除去作業室内	1点	2点	点	計測発生中	除去作業後	除去作業室内	1点	2点	3点	4点		調査対象室外部付近	1点	2点	点	1週間以降	測定場所	測定方法	排気装置の出入口	粉じん相対濃度計(デジタル粉じん計)、P-TEK1000カッター	集じん・排気装置の出入口(除去作業室内)	繊維状粒子自動測定器(7774/7774V-モーター)等の粉じんを迅速に測定できる機器を用いた測定	測定場所	カブレイク径	試料の吸引流量	試料の吸引時間		直径 (mm)	(L/min)	(min)	排気装置の出入口				集じん・排気装置の出入口(除去作業室内)	25	5	30		47	10	120		47	10	240	<p>6 石綿含有成形板等の除去 (9.1.5)</p> <p>除去を行う範囲 図示による _____</p> <p>除去の方法 湿潤化したのちに手ばらし 湿潤剤等の噴霧、散水等により十分に湿潤化した状態で破砕</p> <p>隔離養生(負圧不要)方法 ○ 図示による ○ _____</p> <p>足場 ○ 図示による ○ _____</p> <p>除去した石綿含有けい酸カルシウム板第一種の処分 埋立処分(安定型最終処分場) 中間処理(溶融施設) 石綿含有成形板等(石綿含有けい酸加減板第一種以外)の撤去 除去を行う範囲 図示による _____</p> <p>除去した石綿含有成形板等の処分 石綿含有せっこうボード 埋立処分(管理型最終処分場) 石綿含有せっこうボードを除く石綿含有成形板等 埋立処分(安定型最終処分場) 中間処理(溶融施設) 石綿含有仕上塗材又は石綿含有成形板等(下地調整材)の撤去 除去を行う範囲 図示による _____</p> <p>除去の方法 _____</p> <p>養生の方法 _____</p> <p>除去した石綿含有仕上塗材の処分 埋立処分(安定型最終処分場) 埋立処分(管理型最終処分場) 中間処理(溶融施設)</p> <p>除去を行う石綿成形板等の仕様</p> <table border="1"> <tr> <th>種 類</th> <th>厚さ(mm)</th> <th>種 類</th> <th>厚さ(mm)</th> </tr> <tr> <td>化粧石膏ボード</td> <td>9.5</td> <td>石綿ロックウール</td> <td></td> </tr> <tr> <td>ビニル床タイル</td> <td>2.0</td> <td>石綿スレート(外装・内装)</td> <td></td> </tr> <tr> <td>石綿保温材</td> <td></td> <td>押出成形セメント板</td> <td></td> </tr> <tr> <td>けいそう土保温材</td> <td></td> <td>化粧石綿セメント板</td> <td></td> </tr> <tr> <td>塩基性炭酸マグネシウム保温材</td> <td></td> <td>石綿セメントけい酸加減板</td> <td></td> </tr> <tr> <td>けい酸カルシウム保温材</td> <td></td> <td>化粧石綿セメントけい酸加減板</td> <td></td> </tr> <tr> <td>親水性パーライト保温材</td> <td></td> <td>吸音穴あき石綿セメント板</td> <td></td> </tr> <tr> <td>繊維混入けい酸カルシウム板</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </table> <p>7 断熱アスファルト防水改修工事 改修特記仕様書第3章による 工法の種類 P1BI M3DI P2AI M4DI P0DI</p> <p>8 外断熱改修工事 (9.2.2) - (9.2.4) 断熱材 種類 _____ 厚さ(mm) _____ 断熱材の施工 断熱材製造所の仕様による _____ 不陸等の下地調整 外装材製造所の仕様による _____ 外装材 取付ける(種類 _____ 防火性能 _____) 外装材の施工 断熱材製造所の仕様による _____ 既存外壁 仕上げ材の撤去( _____ ) 下地の清掃( _____ ) 下地の欠損部の改修( 4.1.4 [外壁改修工法の種類]による ) _____</p> <p>施工 断熱材製造所の仕様による _____ 通気層 有(厚さ _____ mm) 無 _____ 建築基準法に基づく風圧力に対応した工法 _____</p> <table border="1"> <tr> <th rowspan="2">断熱材</th> <th colspan="3">材 料 ( 種 類 )</th> <th rowspan="2">そ の 他</th> </tr> <tr> <td>打込み工法</td> <td>押出型ポリスチレンフォーム保温材又は断熱材 硬質ポリウレタンフォーム保温材A種又は断熱材 フェノールフォーム保温材又は断熱材 ( F _____ )</td> <td>JIS A 9511 JIS A 9521</td> <td>接着剤の 単位面積当たりの放散量 F _____</td> </tr> <tr> <td>断熱材現場発泡工法</td> <td>A種1 A種1H B種1</td> <td>JIS A 9526</td> <td>吹付け厚さ _____ mm</td> <td></td> </tr> </table> <p>接着剤の単位面積当たりの放散量は6-1揮発性有機化合物に記載のとおりとする 特定フロンを使用とする。</p>	種 類	厚さ(mm)	種 類	厚さ(mm)	化粧石膏ボード	9.5	石綿ロックウール		ビニル床タイル	2.0	石綿スレート(外装・内装)		石綿保温材		押出成形セメント板		けいそう土保温材		化粧石綿セメント板		塩基性炭酸マグネシウム保温材		石綿セメントけい酸加減板		けい酸カルシウム保温材		化粧石綿セメントけい酸加減板		親水性パーライト保温材		吸音穴あき石綿セメント板		繊維混入けい酸カルシウム板				断熱材	材 料 ( 種 類 )			そ の 他	打込み工法	押出型ポリスチレンフォーム保温材又は断熱材 硬質ポリウレタンフォーム保温材A種又は断熱材 フェノールフォーム保温材又は断熱材 ( F _____ )	JIS A 9511 JIS A 9521	接着剤の 単位面積当たりの放散量 F _____	断熱材現場発泡工法	A種1 A種1H B種1	JIS A 9526	吹付け厚さ _____ mm		<p>10 屋上緑化 (9.4.2) - (9.4.4)</p> <p>樹木の種類、寸法、数量等 図示による 下表による</p> <table border="1"> <tr> <th>種 類</th> <th>寸 法</th> <th>数 量</th> <th>備 考</th> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </table> <p>芝・地被類の種類 図示による コウライシバ( 目地張り _____ ) ノシバ( 目地張り _____ ) セダム類( カット _____ ふるい _____ プラグ苗 _____ )</p> <p>材料 見切材 _____ 舗装材 _____ 排水孔 _____ 排水材 _____</p> <p>かん水装置 設置する( 種類 _____ ) 設置しない _____</p> <p>支柱材 杉(焼き丸太) 竹 ひのき から松(皮はぎ) 形式 図示による _____ 防蟻処理方法 加圧式防蟻処理丸太 _____</p> <p>幹巻用材料 幹巻き用テープ わら及びこも _____</p> <p>既存保護層の撤去 行う(工法は3.2.3 [既存保護層等の撤去]による) 行わない _____</p> <p>新植芝及び地被類の枯補償 引渡しの日から1年 引渡しの日から _____ 年</p> <p>11 透水性アスファルト舗装改修工事 (9.5.2) - (9.5.5) (9.5.9)</p> <p>既存舗装の撤去及び再利用 図示による _____</p> <p>路床の材料</p> <table border="1"> <tr> <th rowspan="2">種別</th> <th colspan="3">材 料</th> <th rowspan="2">厚さ(mm)</th> </tr> <tr> <th>A種</th> <th>B種</th> <th>C種</th> </tr> <tr> <td>盛土</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>図示</td> </tr> <tr> <td>凍上抑制層</td> <td>再生クラッシュラング</td> <td>クラッシュラング</td> <td></td> <td>図示</td> </tr> <tr> <td>フィルター層</td> <td>切込み砂利</td> <td>砂</td> <td></td> <td>図示</td> </tr> </table> <p>(凍上抑制層に用いる材料に砂を用いる場合の粒度試験) 行う 行わない _____</p> <p>路床安定処理 適用する 適用しない _____ 路床安定処理の方法 置き換え工法 安定処理工法 _____ ・路床安定処理用添加材料 種類 普通ポルトランドセメント 高炉セメントB種 フライアッシュセメントB種 生石灰( 特号 1号 ) 消石灰( 特号 1号 ) 添加量 _____ kg (目標CBR 3以上 _____ ) 目標CBRを満足する添加量の確認方法 _____ 安定処理土のCBR試験 ジオテキスタイル 単位面積質量 60g/m<sup>2</sup>以上 _____ 厚さ(mm) 0.5-1.0 _____ 引張強さ 98N/5cm (10kgf/5cm)以上 _____ 透水係数 1.5 x 10cm/sec以上 _____</p> <p>試験 路床土の支持力比(CBR)試験 行う 行わない _____ 現場CBR試験 行う 行わない _____ 路床締固め度の試験 行う 行わない _____</p>	種 類	寸 法	数 量	備 考					種別	材 料			厚さ(mm)	A種	B種	C種	盛土				図示	凍上抑制層	再生クラッシュラング	クラッシュラング		図示	フィルター層	切込み砂利	砂		図示	<p>路盤 路盤の厚さ 図示 _____ 路盤材料 種類別</p> <table border="1"> <tr> <td>砕石</td> <td>クラッシュラング</td> </tr> <tr> <td></td> <td>粒度調整砕石</td> </tr> <tr> <td>再生材</td> <td>再生クラッシュラング</td> </tr> <tr> <td></td> <td>再生粒度調整砕石</td> </tr> <tr> <td></td> <td>クラッシュラング鉄鋼スラグ</td> </tr> <tr> <td></td> <td>粒度調整鉄鋼スラグ</td> </tr> <tr> <td></td> <td>水硬性粒度調整鉄鋼スラグ</td> </tr> </table> <p>舗装の構成 図示による 開粒度アスファルト混合物等の抽出試験 行う 行わない _____</p> <p>舗装の平坦性 著しい不陸がないもの _____</p>	砕石	クラッシュラング		粒度調整砕石	再生材	再生クラッシュラング		再生粒度調整砕石		クラッシュラング鉄鋼スラグ		粒度調整鉄鋼スラグ		水硬性粒度調整鉄鋼スラグ
測定時期	測定場所	測定点(各施工箇所ごと)			備考																																																																																																																																																																																																				
除去作業前	除去作業室内	1点	2点	3点	点																																																																																																																																																																																																				
	調査対象室外部付近	1点	2点	3点	点																																																																																																																																																																																																				
除去作業中	除去作業室内	○1点	2点	3点	点																																																																																																																																																																																																				
	排気装置の出入口	1点	2点	3点	点																																																																																																																																																																																																				
	集じん・排気装置の出口	吹出し風速1m/秒以下の位置	除去作業室																																																																																																																																																																																																						
	排出口	各	1点	2点	3点																																																																																																																																																																																																				
	除去作業	施工区画周辺	1点	2点	3点																																																																																																																																																																																																				
	除去作業	敷地境界	1点	2点	3点																																																																																																																																																																																																				
除去作業後	除去作業室内	1点	2点	点	計測発生中																																																																																																																																																																																																				
除去作業後	除去作業室内	1点	2点	3点	4点																																																																																																																																																																																																				
	調査対象室外部付近	1点	2点	点	1週間以降																																																																																																																																																																																																				
測定場所	測定方法																																																																																																																																																																																																								
排気装置の出入口	粉じん相対濃度計(デジタル粉じん計)、P-TEK1000カッター																																																																																																																																																																																																								
集じん・排気装置の出入口(除去作業室内)	繊維状粒子自動測定器(7774/7774V-モーター)等の粉じんを迅速に測定できる機器を用いた測定																																																																																																																																																																																																								
測定場所	カブレイク径	試料の吸引流量	試料の吸引時間																																																																																																																																																																																																						
	直径 (mm)	(L/min)	(min)																																																																																																																																																																																																						
排気装置の出入口																																																																																																																																																																																																									
集じん・排気装置の出入口(除去作業室内)	25	5	30																																																																																																																																																																																																						
	47	10	120																																																																																																																																																																																																						
	47	10	240																																																																																																																																																																																																						
種 類	厚さ(mm)	種 類	厚さ(mm)																																																																																																																																																																																																						
化粧石膏ボード	9.5	石綿ロックウール																																																																																																																																																																																																							
ビニル床タイル	2.0	石綿スレート(外装・内装)																																																																																																																																																																																																							
石綿保温材		押出成形セメント板																																																																																																																																																																																																							
けいそう土保温材		化粧石綿セメント板																																																																																																																																																																																																							
塩基性炭酸マグネシウム保温材		石綿セメントけい酸加減板																																																																																																																																																																																																							
けい酸カルシウム保温材		化粧石綿セメントけい酸加減板																																																																																																																																																																																																							
親水性パーライト保温材		吸音穴あき石綿セメント板																																																																																																																																																																																																							
繊維混入けい酸カルシウム板																																																																																																																																																																																																									
断熱材	材 料 ( 種 類 )			そ の 他																																																																																																																																																																																																					
	打込み工法	押出型ポリスチレンフォーム保温材又は断熱材 硬質ポリウレタンフォーム保温材A種又は断熱材 フェノールフォーム保温材又は断熱材 ( F _____ )	JIS A 9511 JIS A 9521		接着剤の 単位面積当たりの放散量 F _____																																																																																																																																																																																																				
断熱材現場発泡工法	A種1 A種1H B種1	JIS A 9526	吹付け厚さ _____ mm																																																																																																																																																																																																						
種 類	寸 法	数 量	備 考																																																																																																																																																																																																						
種別	材 料			厚さ(mm)																																																																																																																																																																																																					
	A種	B種	C種																																																																																																																																																																																																						
盛土				図示																																																																																																																																																																																																					
凍上抑制層	再生クラッシュラング	クラッシュラング		図示																																																																																																																																																																																																					
フィルター層	切込み砂利	砂		図示																																																																																																																																																																																																					
砕石	クラッシュラング																																																																																																																																																																																																								
	粒度調整砕石																																																																																																																																																																																																								
再生材	再生クラッシュラング																																																																																																																																																																																																								
	再生粒度調整砕石																																																																																																																																																																																																								
	クラッシュラング鉄鋼スラグ																																																																																																																																																																																																								
	粒度調整鉄鋼スラグ																																																																																																																																																																																																								
	水硬性粒度調整鉄鋼スラグ																																																																																																																																																																																																								
5 石綿含有保温材等の除去 (9.1.4) <p>除去を行う範囲 図示による _____</p> <p>除去方法 原形のまま手ばらし 手ばらし以外(この場合は改修標仕9.1.3(1)による隔離とする)</p> <p>除去した石綿含有保温材等(石綿含有けい酸加減板第二種含む)の処分 埋立処分(管理型最終処分場) 中間処理(溶融施設)</p>	<p>9 断熱・防露改修工事 (9.3.2) (9.3.3)</p> <p>除去を行う範囲 図示による _____</p> <p>除去方法 原形のまま手ばらし 手ばらし以外(この場合は改修標仕9.1.3(1)による隔離とする)</p> <p>除去した石綿含有保温材等(石綿含有けい酸加減板第二種含む)の処分 埋立処分(管理型最終処分場) 中間処理(溶融施設)</p>																																																																																																																																																																																																								

アスベスト対策工事仕様書

章 項 目	特 記 事 項	章 項 目	特 記 事 項	章 項 目	特 記 事 項	章 項 目	特 記 事 項		
13 アスベスト対策工事	1 適用範囲 (9.1.1)	アスベストを重量で0.1%を超えて含有する、アスベスト含有建材の除去工事に適用する。 アスベスト含有吹付け材除去工事 除去工法 ( ) 封じ込め工法 ( ) 囲い込み工法 ( ) アスベスト含有保温材等除去工事 アスベスト含有成形板除去工事	13 アスベスト対策工事	5 仕上げ工事 (9.1.1)	アスベスト含有建材除去後の仕上げ工事 図示による	13 アスベスト対策工事	9 アスベスト含有保温材等の除去 (9.1.4)		
	2 法令等の遵守	施工にあたっては、「大気汚染防止法（昭和43年法律97号）」、「労働安全衛生法（昭和47年法律57号）」、「石綿障害予防規則（平成17年厚生労働省令21号）」、「廃棄物の処理及び清掃に関する法律（昭和45年法律137号）」、「建築基準法（昭和25年法律201号）」、「建設工事に係る資材の再資源化等に関する法律（建設リサイクル法）（平成12年法律104号）」、「京都府建築物の解体等に伴う石綿の飛散防止に関する緊急措置条例（平成17年京都府条例45号）」等、石綿除去に関する諸法令に基づき適正に作業を行う。諸法令の適用及び運用は、受注者の負担と責任において行う。ただし、当該工事に関係のない事項は適用しない。		6 石綿作業主任者 (9.1.2)	石綿作業主任者は、石綿作業主任者技能講習修了者または平成18年3月以前の特定化学物質等作業主任者の有資格者とし、証明書の写しに工事経歴書を添付して監督職員に提出する。		除去を行う範囲 図示による	13 アスベスト対策工事	10 アスベスト含有成形板の除去 (9.1.5)
	事前調査	・施工計画に先立ち、改正大気汚染防止法第18条の17の規定により、特定工事に該当するか否かの調査を行う。 調査結果について発注者に書面を交付して説明を行い、調査結果その他環境省令で定める事項を、公衆に見やすいように掲示し、その写しを工事の現場に備え置く。 なお、特定工事に該当する場合は、「特定粉じん排出等作業実施届出書」の届出内容について発注者に書面を交付して説明を行う。 ・施工計画に先立ち、石綿障害予防規則第3条の規定により、アスベスト含有建材の有無を調査する。 調査結果を記録し、作業に従事する労働者が見やすいように掲示する。		7 特別管理産業廃棄物管理責任者 (9.1.2)	特別管理産業廃棄物管理責任者の有資格者とし、証明書の写しに工事経歴書を添付して監督職員に提出する。ただし、アスベスト含有成形板の除去工事を除く。		除去の方法 原形のまま手ばらし 手ばらし以外（この場合は改修標仕9.1.3(a)による隔離とする）		除去を行うアスベスト含有成形板の仕様
	事前調査は、国土交通省に登録された機関が行う講習を修了した建築物石綿含有建材調査者、石綿作業主任者技能講習修了者、日本アスベスト調査診断協会に登録されたアスベスト診断士等が行い、資格証明書の写しを監督職員に提出する。	8 アスベスト含有吹付け材の除去 (9.1.3)		施工業者 工事に相応した技術を有することを証明する資料をあらかじめ提出する。「吹付アスベスト粉じん飛散防止処理技術」について（一財）日本建築センターの建設技術審査証明事業による建築物等の施工技術及び保全技術の審査証明を取得した工法の施工業者等。	除去を行うアスベスト含有保温材等の仕様				
調査範囲 図示による	除去を行う範囲 図示による（仕上げ表による 床・壁・天井毎に種別を確認） 全ての室	除去の方法 改修標仕9.1.3(b)(1)による	除去物等の保管 他の建設副産物等と分別して保管する。 飛散防止措置を講ずる。 アスベスト等の保管場所であることを表示を行う。						
4 アスベスト粉じん濃度測定 (9.1.1)	アスベスト含有分析 行う（分析結果を監督職員に提出する） 材 料 名 定性分析方法 定量分析方法 (箇所数) (箇所数) (箇所数) (箇所数) (箇所数) (箇所数) (箇所数) (箇所数) サンプル数 1箇所あたり3サンプル JIS A 1481に基づくこと。 行わない 既存の石綿含有建材の調査報告書の貸与 あり なし アスベスト粉じん濃度測定 行う 測定時期 測定場所 測定点(各施工箇所ごと) 備考 除去作業前 除去作業室内 1点 2点 3点 点 調査対象室外部付近 1点 2点 点 除去作業中 除去作業室内 1点 2点 3点 点 負圧粉じん装置の吹出し風速1m/秒以下の位置 排出吹き出し口 各 1点 2点 3点 除去作業後 除去作業室外 1点 2点 3点 点 除去作業後 除去作業室内 1点 2点 点 シート養生中 除去作業室内 1点 2点 3点 点 シート撤去後 調査対象室外部付近 1点 2点 点 1週間以降 周囲の状況等により上記によりがたい場合は、監督職員と協議する。 行わない 測定機関 (公社)日本作業環境測定協会による「石綿含有の有無の判定及び石綿の含有率の測定が可能な石綿含有率分析可能機関」とする。 報告書提出部数 3部 部	除去したアスベスト含有吹付け材等の飛散防止 密封処理（二重袋梱包） 隔離養生に用いたシート、使用した使い捨て保護衣、高性能真空掃除機、除じん機フィルタ等についても密封処理とする。 湿潤化 セメント固化 溶融固化	除去物等の処分 廃棄物及び清掃に関する法律（昭和45年法律137号）の規定を遵守して行う。特別管理産業廃棄物として、管理型最終処分場における埋立処分 都道府県知事等から設置許可を受けた溶融施設における溶融または環境大臣の認定を受けた無害化処理施設における無害化処理 指定処分地（（株）京都環境保全公社 瑞穂環境保全センター 京都府船井郡京丹波町猪鼻冠石2-1 TEL 0774-88-0431） なお処分に関しては会社の受け入れ基準等を確認する。	除去物等の処分 廃棄物及び清掃に関する法律（昭和45年法律137号）の規定を遵守して行う。特別管理産業廃棄物として、管理型最終処分場における埋立処分 都道府県知事等から設置許可を受けた溶融施設における溶融または環境大臣の認定を受けた無害化処理施設における無害化処理 指定処分地（（株）京都環境保全公社 瑞穂環境保全センター 京都府船井郡京丹波町猪鼻冠石2-1 TEL 0774-88-0431） なお処分に関しては会社の受け入れ基準等を確認する。	除去物等の保管 他の建設副産物等と分別して保管する。 飛散防止措置を講ずる。 アスベスト等の保管場所であることを表示を行う。	除去物等の処分 廃棄物及び清掃に関する法律（昭和45年法律137号）の規定を遵守して行う。アスベスト含有石膏ボード（管理型最終処分場における埋立処分）を除くアスベスト含有成形板 石綿含有産業廃棄物として、安定型最終処分場における埋立処分 都道府県知事等から設置許可を受けた溶融施設における溶融または環境大臣の認定を受けた無害化処理施設における無害化処理 指定処分地（（財）宇治廃棄物処理公社 京都府宇治市池の尾仙郷山6-2 TEL 0774-21-2807） なお処分に関しては会社の受け入れ基準等を確認する。			

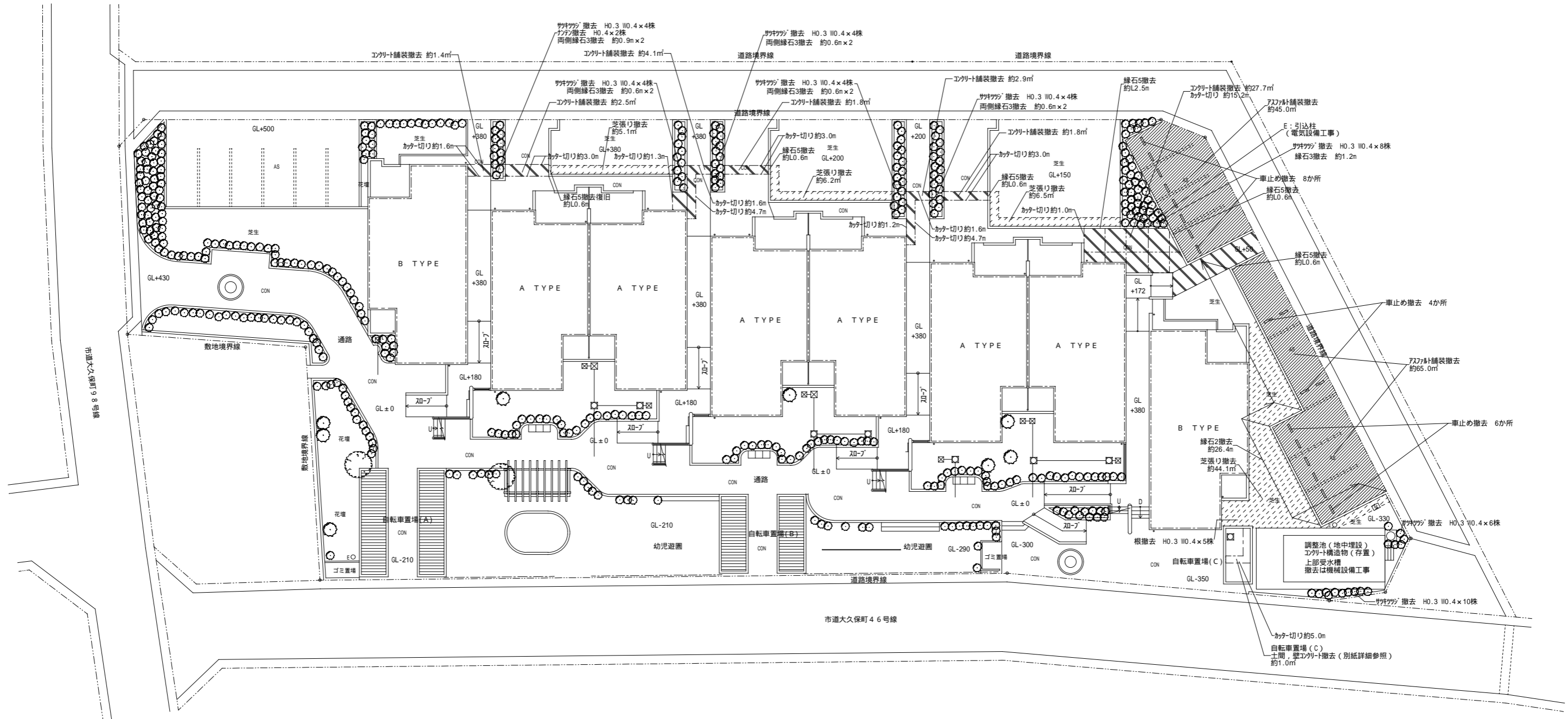
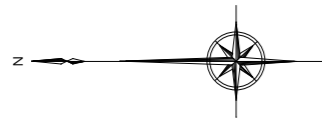


外構平面図 <改修図> S=1/200

- 凡例 (新設)
- : コンクリート舗装新設 (A-17部分詳細図参照)
  - : アスファルト舗装新設 (A-17部分詳細図参照)
  - : 芝張り新設 (A-17部分詳細図参照)

<p>吉村建築事務所 1級建築士登録第248236号 吉村 薫</p>	<p>工事名 大久保市市管住宅受水槽ほか改修工事 図面名 外構平面図 &lt;改修図&gt;</p>	<p>設計年月日 2024. 11 . 縮尺 1/200</p>	<p>図面番号 A-13</p>
---	--	--------------------------------------	------------------

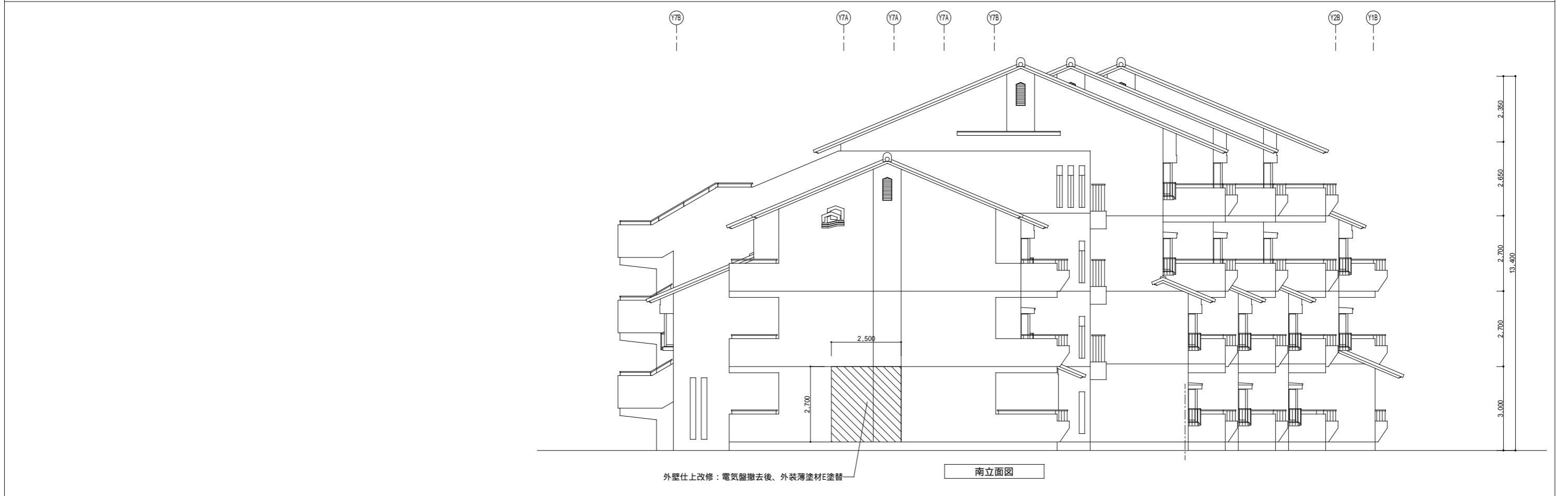
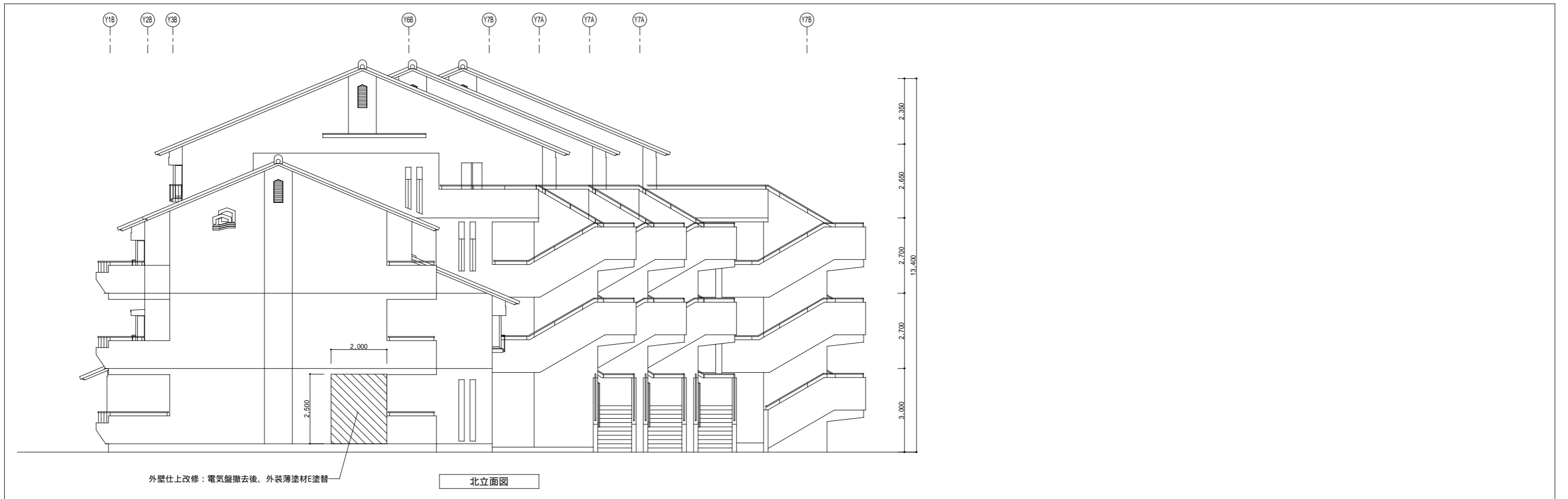




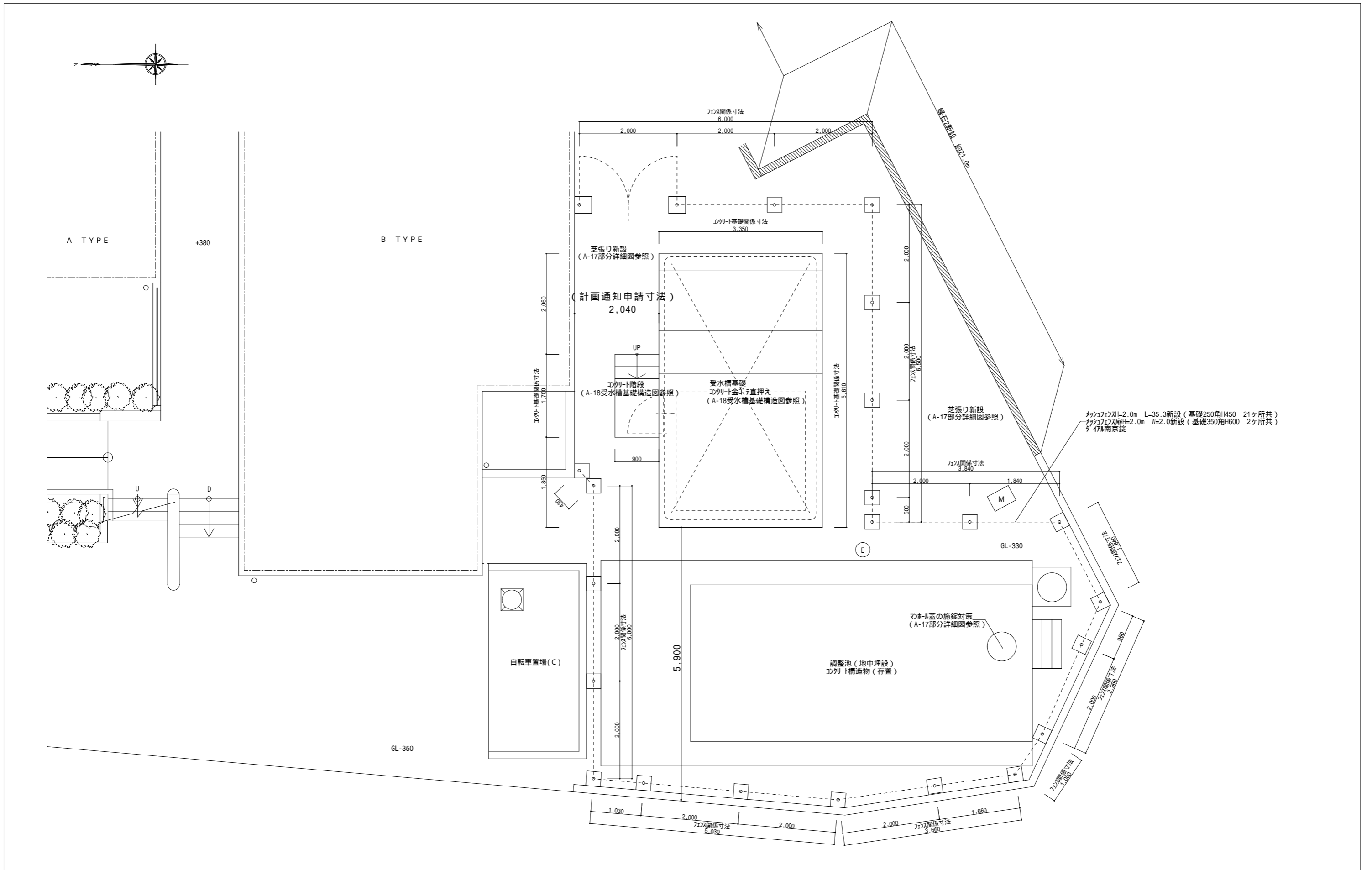
外構平面図 < 撤去図 > S=1/200

- 凡例 (撤去)
- : コンクリート舗装撤去 (A-17部分詳細図参照)
  - : カッター切り想定ライン
  - : アスファルト舗装撤去 (A-17部分詳細図参照)
  - : 芝張り撤去 (A-17部分詳細図参照)

<p>吉村建築事務所 1級建築士登録第248236号 吉村 薫</p>	<p>工事名 大久保市市管住宅受水槽ほか改修工事 図面名 外構平面図 &lt; 撤去図 &gt;</p>	<p>設計年月日 2024. 11 . 縮尺 1/200</p>	<p>図面番号 A-14</p>
---	--	--------------------------------------	------------------

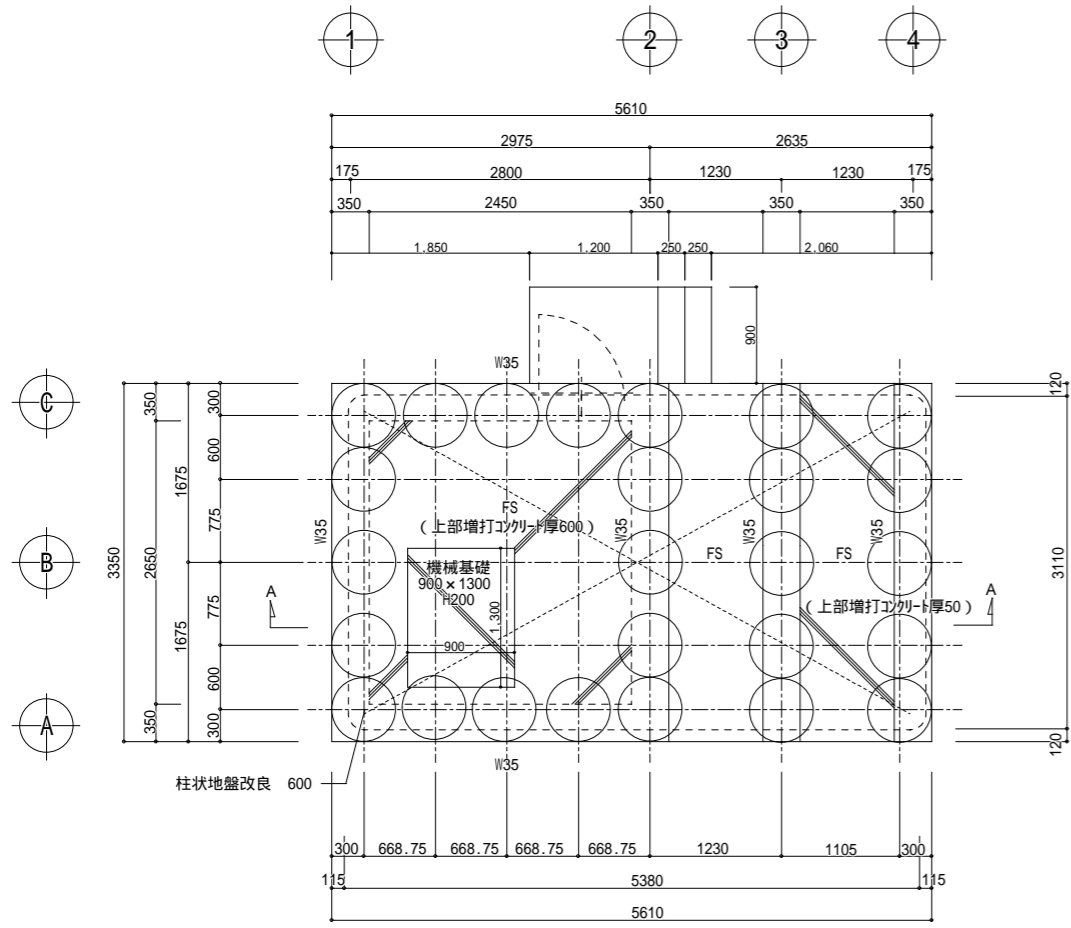


備考	吉村建築事務所 1級建築士登録第248236号 吉村 薫	工事名	大久保旦栢市営住宅受水槽ほか改修工事	設計年月日	2024.11.	図面番号 A — 15
		図面名	立面图 < 改修图 >	縮尺	1/100	



備考 図面番号 A — 16	吉村建築事務所 1級建築士登録第248236号 吉村 薫	工事名 大久保旦栢市営住宅受水槽ほか改修工事 図面名 受水槽周辺図 <改修図>	設計年月日 2024.11 縮尺 1/50
----------------------	---------------------------------	--	--------------------------

<p>アスファルト舗装 詳細図 1/15</p> <p>アスファルト舗装撤去及び新設(路盤含む) 撤去も新設も同仕様とする</p>	<p>縁石2・3 詳細図 1/15</p> <p>縁石撤去及び新設(砕石を含む) 撤去も新設も同仕様とする</p>	<p>自転車置場(C) 詳細図 1/25</p> <p>土間コンクリート撤去及び新設 (再生クラッシュランを含む) 撤去も新設も同仕様とする</p>	
<p>コンクリート舗装 詳細図 1/15</p> <p>コンクリート舗装撤去及び新設(路盤含む) 撤去も新設も同仕様とする</p>	<p>縁石5 詳細図 1/15</p> <p>縁石撤去及び新設(砕石を含む) 撤去も新設も同仕様とする</p>	<p>車止め 撤去詳細図 1/20</p> <p>周辺アスファルト舗装とも撤去</p>	<p>車止め 新設詳細図 1/20</p>
<p>芝張り 詳細図 1/15</p> <p>芝張り撤去及び新設(土、粒調砕石含む) 撤去も新設も同仕様とする</p>	<p>マンホール蓋の施設対策詳細図 1/20・1/5</p>	<p>車止め 新設詳細図 1/20</p>	<p>車止め 新設詳細図 1/20</p>
<p>吉村建築事務所 1級建築士登録第248236号 吉村 薫</p>		<p>工事名 大久保旦椋市営住宅受水槽ほか改修工事 図面名 部分詳細図</p>	<p>設計年月日 2024.11. 縮尺 1/5, 1/15, 1/20, 1/25 図面番号 A-17</p>



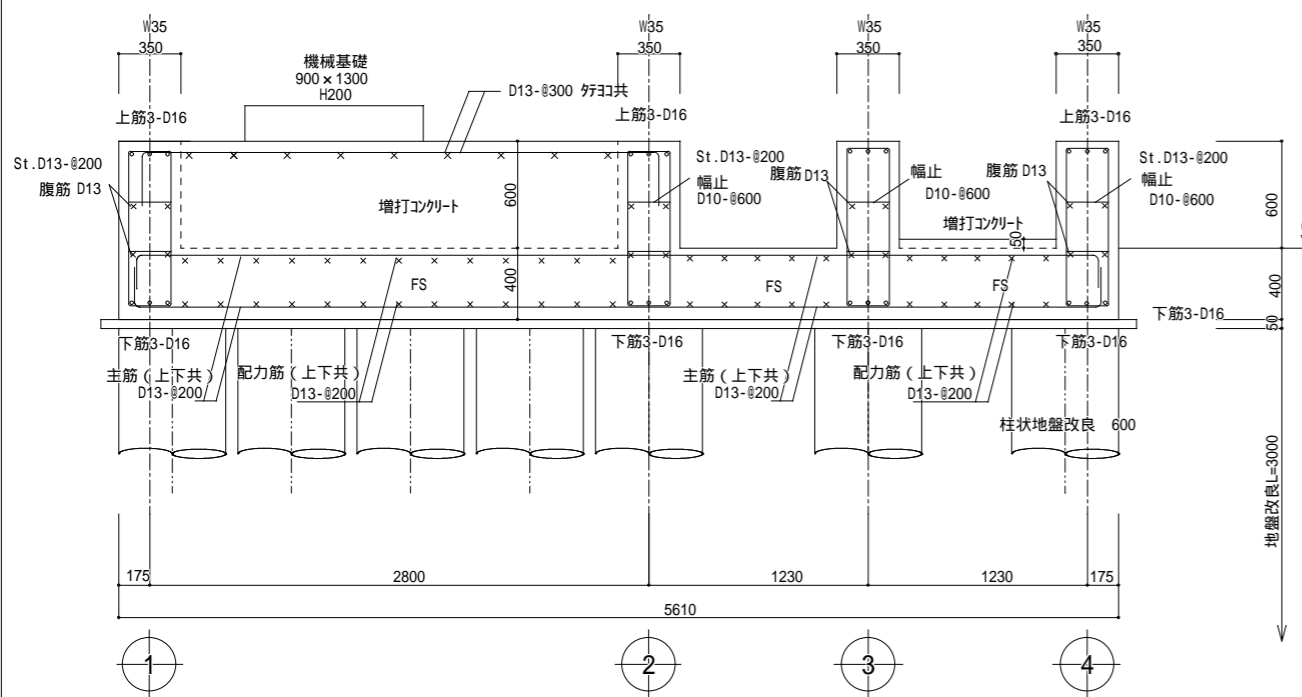
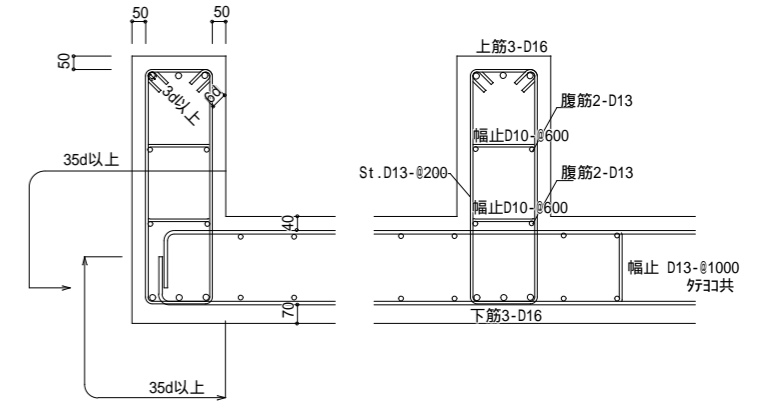
基礎伏図 1/50

構造 特記事項

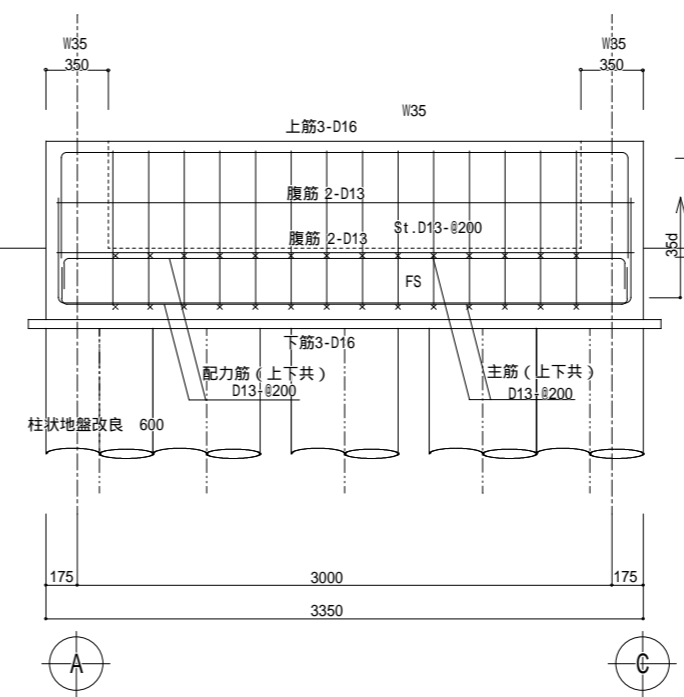
設備耐震クラス S (設計用標準震度 Kh=1.5, Kv=0.75)

1. コンクリート
  - 躯体コンクリート Fc21 スランプ 18以下
  - 捨てコンクリート Fc18 スランプ 18以下
  - コンクリートの強度試験は、(社)公共建築境界「公共建築工事共通仕様書」による
2. 鉄筋
  - JIS-G3112 SD295
3. 柱状地盤改良
  - ・施工業者は、当工事に関する技術性能証明を取得している業者とする。
  - ・セメント系地盤改良 改良径 600 杭先端 GL-3450 改良長 3000  
 設計支持力 長期 60kN/本  
 設計基準強度  $F_c=900 \text{ kN/m}^2$   
 固化材の配合量は300kg/m<sup>3</sup>と仮定するが改良土を対象に配合試験を行い配合を決定する。
  - ・施工前に、施工計画書を提出し監督員の承認を得ること。
  - ・施工中の管理は施工計画書にそって適正に行う。
  - ・所定の支持層に先端が達していることを確認する。
  - ・強度試験 頭部調査箇所数 コア3か所(1カ所当たり3検体)、全長コア1か所とする  
 公的試験所において試験を行い設計基準強度を上回っていることを確認する。
  - ・必要強度が得られなかった場合は直ちに監督者に報告し対策を講じる。  
 補強などの対策に要する費用は、改良杭施工業者が負担する。
  - ・完了報告書 工事完了後、以上の各項目についての報告書をまとめて提出する。
  - ・六価クロム溶出試験を行う。

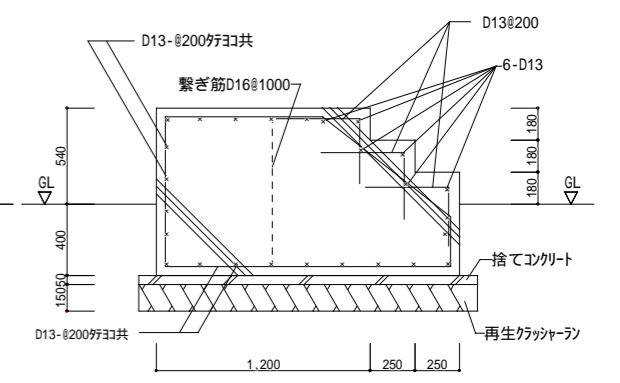
配筋標準図 1/20



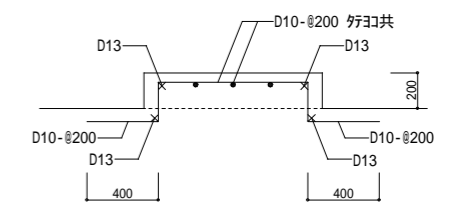
A - A 配筋詳細図 1/30



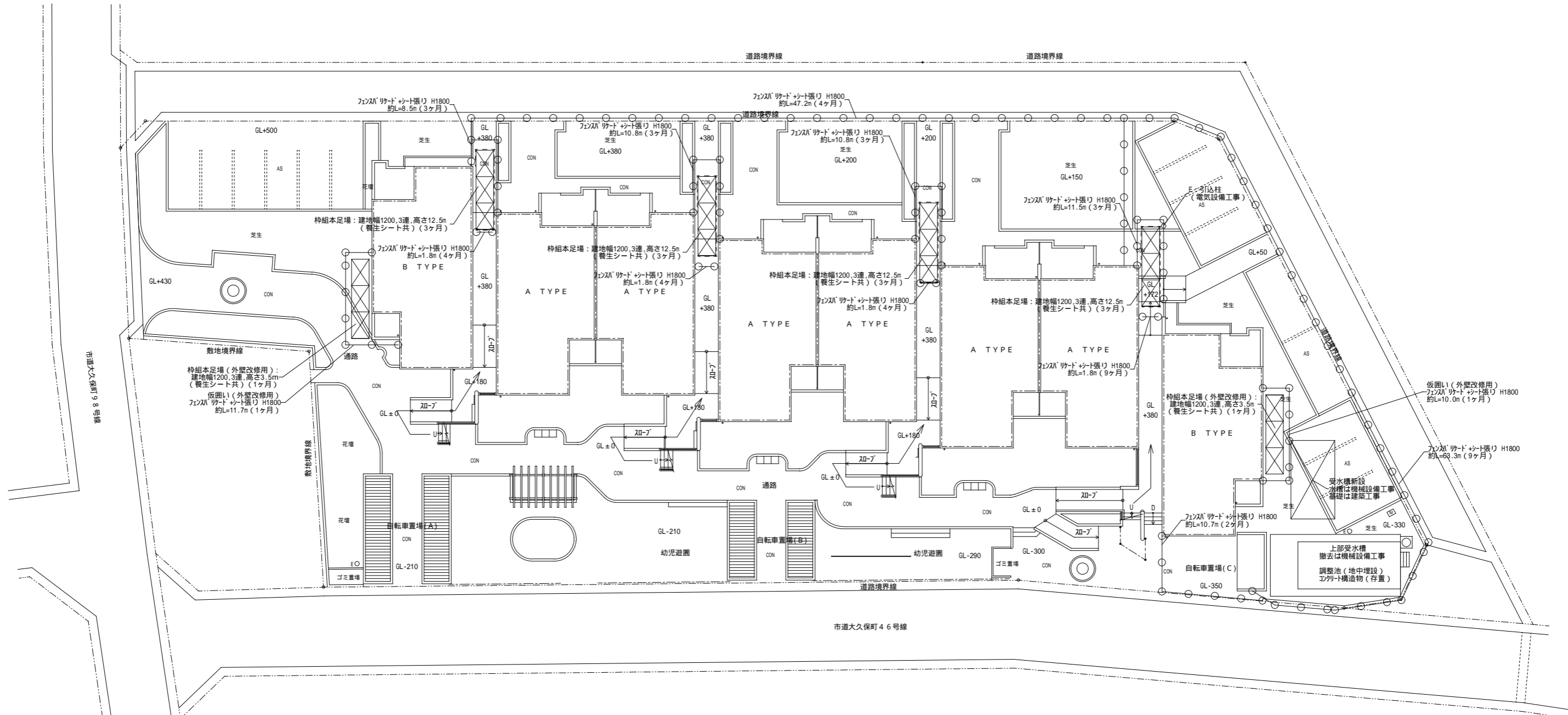
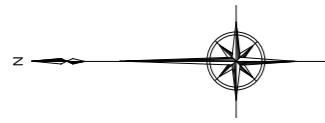
1-4通り配筋詳細図 1/30



階段断面及び配筋図 1/30



機械基礎配筋詳細図 1/30



仮設計画図 S=1/200

備考 市道大久保町 8 線 市道大久保町 4 6 号線	<b>吉村建築事務所</b> 1級建築士登録第 248236号 吉村 薫	工事名 <b>大久保市菅住宅受水槽ほか改修工事</b> 図面名 <b>仮設計画図</b>	設計年月日 2024. 11 . 縮尺 1/200	図面番号 <b>A — 19</b>
-----------------------------------	---	---	---------------------------------	-----------------------

電気設備工事特記仕様書 - 1

【工事概要】

- 1 工事場所 宇治市大久保町山ノ内3番地の1
2 建物概要

Table with 5 columns: 建物名, 構造, 階数, 延床面積(m2), 消防法令別表第一, 耐震安全性の分類, 備考. Includes rows for building name, structure, and seismic safety classification.

3 工事科目

Table with 2 columns: 工事科目, 住宅棟. Lists various electrical equipment items such as lighting, power, and fire alarm equipment.

【特記事項】

- 1 一般事項
1) 特記仕様書及び図面に記載されていない事項は、国土交通省大臣官房官庁営繕部の「公共建築工事標準仕様書（電気設備工事編）令和4年版」...
2) 工事種目に機械設備工事及び建築工事を含む場合、その仕様は当該図面及び標準仕様書による。

Main specification table with 3 columns: 項目, 特記事項, 備考. Contains detailed technical requirements for equipment materials, site management, and safety measures.

Main specification table with 3 columns: 項目, 特記事項, 備考. Contains detailed technical requirements for drawings, seismic safety, wind pressure, wiring, and equipment.

Main specification table with 3 columns: 項目, 特記事項, 備考. Contains detailed technical requirements for lighting, electrical systems, and safety.

電気設備工事特記仕様書-2

電力計 設置設備	項目	特記事項
	工事範囲	配管 配線 機器取付
発電機	直流電源装置	用途 建築基準法用 消防法用 受変電設備専用 その他 過放電防止保護装置(直流不足電圧継電器)の設定電圧は、90Vとする。
	交流無停電電源装置(UPS)	用途 (一般形 簡易形) 方式
発	工事範囲	配管 配線 機器取付
	形式	オープン形 簡易形 キュービクル
電	連続運転可能時間	10時間(乙) 72時間(甲)
	発電機	電気方式 三相3線式 電圧 210V 6.6kV 415V 定格出力 kVA以上 力率 0.8
設	原動機	種別 ガスタービン ディーゼル機関 ガスエンジン マイクロガスタービン 燃料電池 コージェネレーション 定格出力 kW(PS)以上 始動方式 電気式 空気式 冷却方式 ランエーター式 水槽循環式 現地負荷試験 行う 行わない
	燃料	種類 重油 軽油 灯油 ガス( ) 燃料小出槽 主燃料槽
備	監視方式	監視盤による代表監視 中央監視盤による監視
	太陽光発電装置	太陽電池 アレイ 公称最大出力 kW以上 設置可能建築面積 m <sup>2</sup> 以下(長辺 m x 短辺 m) 系統連系 受動 能動 パワーコンディショナ出力 相 線式 V kW以上 逆潮流 有 無 交流出力電圧 100V 200V 出力電気方式 三相3線式 単相3線式 単相2線式 外部移相 有 無
通信線 設置設備	工事範囲	配管 配線 機器取付
	施工方法	金属管配線 ケーブル配線 合成樹脂管配線
構内 交換設備	工事範囲	配管 配線 機器取付
	保安器用接地	本工事 別途工事
情報表示 設備	形式	電子交換機 ボタン電話装置
	工事種類	マルチサイン装置 出退表示設備 時刻表示設備
映像 音響	工事範囲	配管 配線 機器取付
	施工方法	金属管配線 ケーブル配線 合成樹脂管配線
拡声 設備	工事範囲	配管 配線 機器取付
	増幅器	用途 全館放送用(一般放送 非常放送) ローカル放送用 自動放送はアッテネーターを経由した回路とする。
誘導 支援 設備	スピーカー	特記なきものは SC\$6Hi-1V\$3-M
	工事範囲	配管 配線 機器取付
テ レ ビ 機 受 信 設 備	工事内容	音声誘導装置 検出方式(磁気式 無線式 画像認識) インターホン 電話式 相互式 テレビインターホン 親機に子機カメラ角度調整機能(上下)を設ける。 トイレ等呼出し装置 1窓 3窓 5窓 呼出しボタン 壁付ボタン(プルスイッチの長さは0.2m程度とする) 通話機能 壁付握りボタン(握りボタンの長さは1.2m程度とする) 受付呼出し装置 誘導音
	アンテナ	UHF用 BS用 CS用 AM用 FM用 CATV
電 界 強 度 測 定	アンテナマスト	壁面取付形 自立形 配管用ステンレス鋼管 一般構造用炭素鋼管(溶融亜鉛メッキ仕上げ) 圧力配管用炭素鋼管(溶融亜鉛メッキ仕上げ)
	電界強度測定	電界強度及び画質は、最上階が打上がったときに、アンテナ取付予定位置、またその周辺で測定し、その測定記録を監督職員に速やかに提出すること。 測定チャンネルは、監督職員と協議する。

監視 カメラ	項目	特記事項
	工事範囲	配管 配線 機器取付
監視 カメラ	画像	カラー 白黒
	伝送方式	ネットワーク伝送方式 デジタル同軸伝送方式 ○
駐 車 場 設 備	工事範囲	配管 配線 機器取付
	車両検出方式	ループコイル方式 光線方式
防 犯 ・ 入 退 室 管 理 設 備	工事範囲	配管 配線 機器取付
	工事種類	機械警備用配管 防犯装置 入退室管理制御装置
火 災 報 知 設 備	自動火災報知装置	工事範囲 配管 配線 機器取付 受信機(既設) P形 1級 35回線 壁掛形 自立形 単独形 複合形 副受信機 窓 盤面に消火ポンプ運転表示灯を設ける。 光警報装置 消火ポンプ始動 消火栓箱内押ボタン 発信機と連動(総合盤に始動表示灯を設ける。) 機器収容箱 配線 機器取付 工事範囲 配管 機器取付 連動制御器(既設) 回線 【予備電源(蓄電池)内蔵】 単独 自火報受信機と一体 自動閉鎖装置 防火戸用【DC24V 0.6A以下電磁式またはラッチ式】 防煙ダンパ用 【別途工事 瞬時通電式又は電動式 DC24V 0.6A以下 遠方復帰機構(電動式)DC24V 0.7A以下】 防火シャッター用 【別途工事 DC24V 0.6A以下】
	非常警報装置	工事範囲 配管 機器取付 電気方式 DC24V 電源装置 非常電源(蓄電池) 自動火災報知設備と兼用
備	ガス漏れ火災警報装置	工事範囲 配管 配線 機器取付 受信機 単独形 自火報受信機と一体 ガスの種類 都市ガス(13A) 液化石油ガス
	諸警報表示	受信機に諸警報表示窓(窓)を設ける。
中 央 監 視 設 備	工事範囲	配管 配線 機器取付
	監視方式	警報盤 監視制御装置
医 療 関 係 設 備	工事範囲	配管 配線 機器取付
	非接地電源用分電盤	キャビネット 鋼製 ステンレス製
構 内 配 電	ナースコール装置	トイレ及び浴室等の 呼出しボタン 有線式 無線式 防滴 防湿 その他 オプション等の試験は、監督職員の指示による。
	電気方式	配管 配線 機器取付 高圧 三相3線式 6kV 低圧 三相3線式 200V 単相3線式 100/200V 単2線式 (100V 200V) ふ設方式 地中線 管路式 波付硬質合成樹脂管(FEP) ポリエチレン被覆管(PLP) 埋設深さ 特記なきものはGL(舗装がある場合は、舗装下面) から300mm以上とする。 架空線 電柱 遠心カプレストレストコンクリートポール 用途 架空引込用 地中引込用 構造 耐中埋じん用 耐重埋じん用 形式 引外し装置付き(SOG形) 引外し装置なし 避雷器内蔵 制御電源用変圧器内蔵
電 線 路	マンホール及び ハンドホール	構造・寸法 標準図による 蓋の文字 蓋の用途表示は電力とする。 ハンドホールにおいてもケーブル支持材を設ける。 ケーブルが直接接触しない場合の金物は、接地を省略してもよい。 屋外に使用する高圧ケーブルはEM・高圧架橋ポリエチレンケーブルは、JCS 4395「6 600V 架橋ポリエチレンケーブル(3層押出型)」に(よる ○よらない) 高圧ケーブルは、受変電設備までの配線経路中、1ヶ所以上で3m余長をとる。 余長 高圧ケーブルは、受変電設備までの配線経路中、1ヶ所以上で3m余長をとる。 端子、高圧ケーブル 端末処理 一般用 耐塩用 重耐塩用 避雷器 屋外形 耐塩形 装柱材 一般用 耐塩形 外灯 基礎 本工事 別途工事 外灯ボールの材質が鋼製(SPC)の場合で特記がない場合は溶融亜鉛メッキとし、指定色塗 装とする。
	工事範囲	配管 配線 機器取付 ふ設方式 地中線 管路式 波付硬質合成樹脂管(FEP) ポリエチレン被覆管(PLP) 埋設深さ 特記なきものはGL(舗装がある場合は、舗装(表層)下面) から300mm以上とする。 架空線 電柱 遠心カプレストレストコンクリートポール
構 内 通 信 線 路	マンホール及び ハンドホール	構造・寸法 標準図による 蓋の文字 蓋の用途表示は通信とする。 ハンドホールにおいてもケーブル支持材を設ける。 ケーブルが直接接触しない場合の金物は、接地を省略してもよい。

項目	特記事項
調査 調査	調査範囲 測定のみ 対策工実施設計書作成まで 測定時期 工事前 工事中 完成後 測定箇所 箇所 測定内容 受信可能な全チャンネルとし、結果報告書を提出する。

別表 付属品・予備品

イーザーキャビネット	箱	キーボックス	テスター	マンホールフック
工具箱(ドライバー、モンキーレンチ、組スパナ、ハンマー)				
受変電設備・盤	ランプ及びヒューズの予備品は、2.0%とする。			

試験・検査一覧

工事完成に際しては、各種試験、検査に合格の責任を持つ。  
検査及び試験を行うべき機材等は標準仕様書による他下記の項目とする。  
受変電機器●動力盤及び電灯盤 耐圧試験●絶縁抵抗測定●接地抵抗測定●機器機能試験●その他監督職員の指示するもの  
●工事中手に際し、事前に必要な機器(照明機器、空調機器、放送設備等)の機能確認を行い、確認結果報告書を提出する。  
工事中工前に既設照明器具で床面照度を測定し、完成後の照度と比較する。(照度測定箇所は監督員の指示する箇所とする。)  
着工前・工事完成後、空調機器の機能・調整確認を行い、確認結果報告書を提出する。  
着工前・工事完成後、放送機器の機能・調整確認を行い、確認結果報告書を提出する。  
●後施工アंक - の施工確認試験(引張試験機による引張試験)は、1日の施工本数の3%以上かつ3本以上とする。  
例 盤・ケ-ブルラック・ケ-ブルダクト等

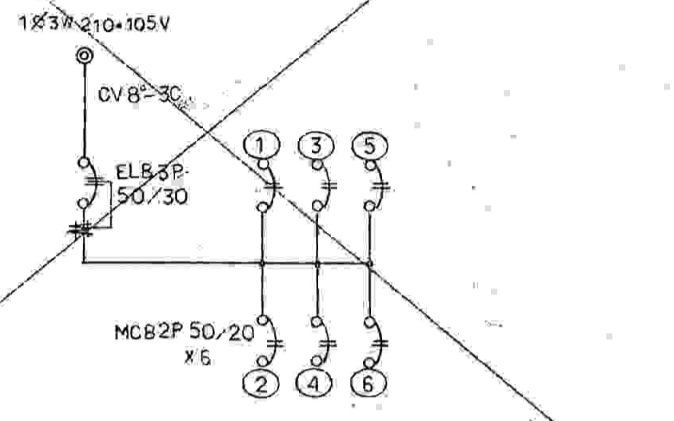
その他

●試験機器類の校正記録を提出する。  
停電工事の必要な時は、当該高圧受変電設備の電気主任技術者と協議し、打合せ記録を提出する。  
尚、電気主任技術者の立会費用は本工事に含む。  
●工事に係る申請手続き費、消防設備竣工検査費、引込移変に必要な費用は本工事に含む。  
●分電盤等の端子接続部施工管理手順は、電気設備工事監理指針(令和4年度版)の資料5(P1119)に基づき施工する。  
●鉄筋コンクリ-トをガイダドリル等で貫通する時は、鉄筋探査機で開口位置を確認する。  
●整備不良の電動工具等持ち込まない。  
●構外搬出適切産廃処分とする(電線、電線管、器具、管球等報告書を提出する)。  
交通誘導員は大型機器搬入時及び監督職員が必要と指示した時は、安全確保のため交通誘導員を2名以上配置する。  
カラーコーン、コーンウェイト、コーンバーにて囲いながら掘削する。  
●盤、ボックス等撤去後の壁等の補修は本工事とする。

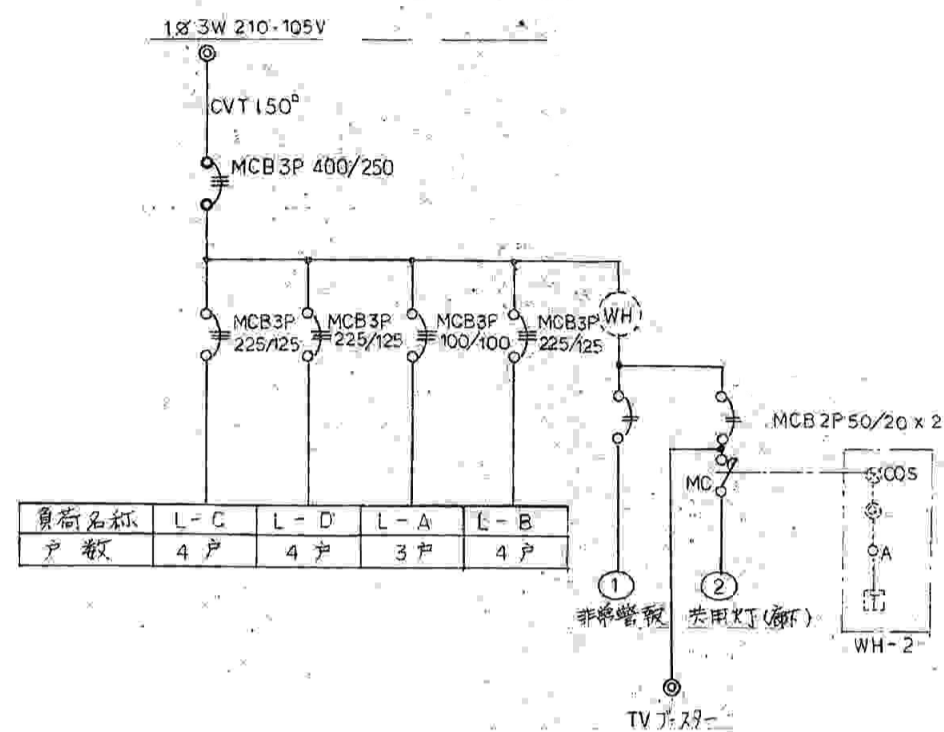
機器取付高さ(参考寸法の為、盤の寸法・取付位置は監督員と協議する。)

名称	測点	取付高(mm)	名称	測点	取付高(mm)		
電力 共通	取引用計器	地上~上端	2,000	電	端子盤	床上~上端	1,900
引込開閉器	〃	1,800	保安器函	天井下~上端	200		
壁掛型制御盤	床上~上端	1,900	壁付位置ボックス	床上~中心	300		
手元開閉器	床上~中心	1,500	〃(和室)	〃	150		
操作スイッチ	〃	1,300	壁掛スピーカー	天井下~上端	200		
分電盤	床上~上端	1,900	アッテネーター	床上~中心	1,300		
スイッチ(一般)	床上~中心	1,300	壁掛型親時計	床上~上端	1,900		
〃(身障者便所)	〃	900	子時計	天井下~上端	200		
コンセント(一般)	〃	300	壁掛インターホン	床上~中心	1,500		
〃(和室)	〃	150	〃(身障者)	〃	1,100		
〃(台上)	台上~中心	300	壁付位置ボックス	〃	300		
〃(土間)	床上~中心	1,300	〃(和室)	〃	150		
ブラケット(一般)	〃	2,100	機器収納函	天井下~上端	200		
〃(踊場)	〃	2,500	直列ユニット	床上~中心	300		
〃(鏡上)	鏡上端~中心	150	〃(和室)	〃	150		

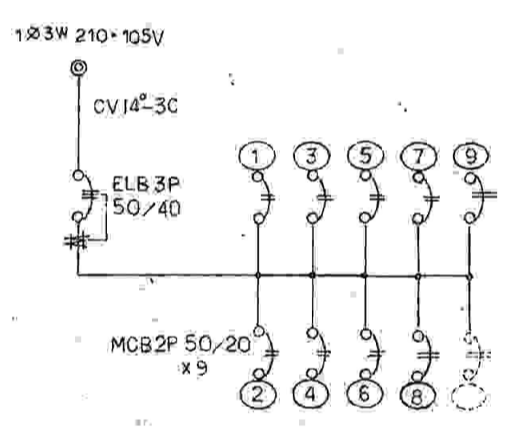




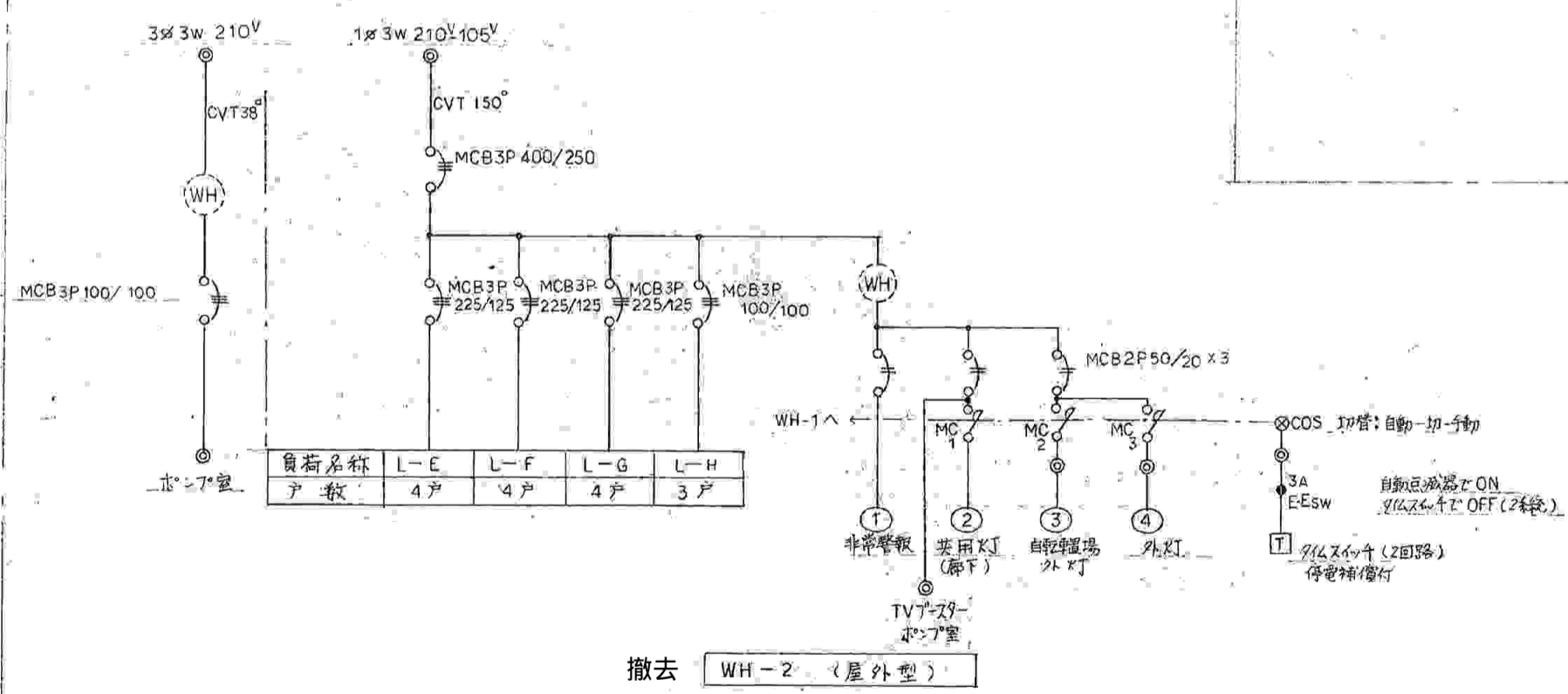
各戸分電盤 (露出型)  
 < ホム分電盤可能 >  
 L-A-1, L-A-3  
 L-H-1, L-H-3



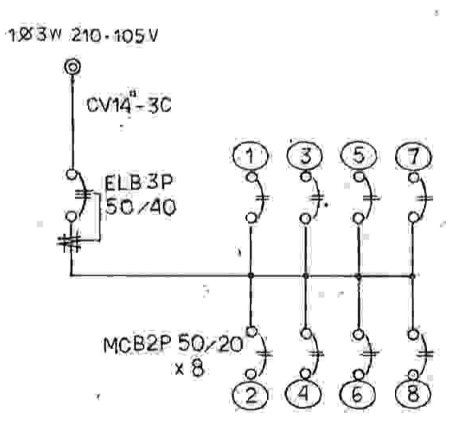
撤去 WH-1 (屋外型)



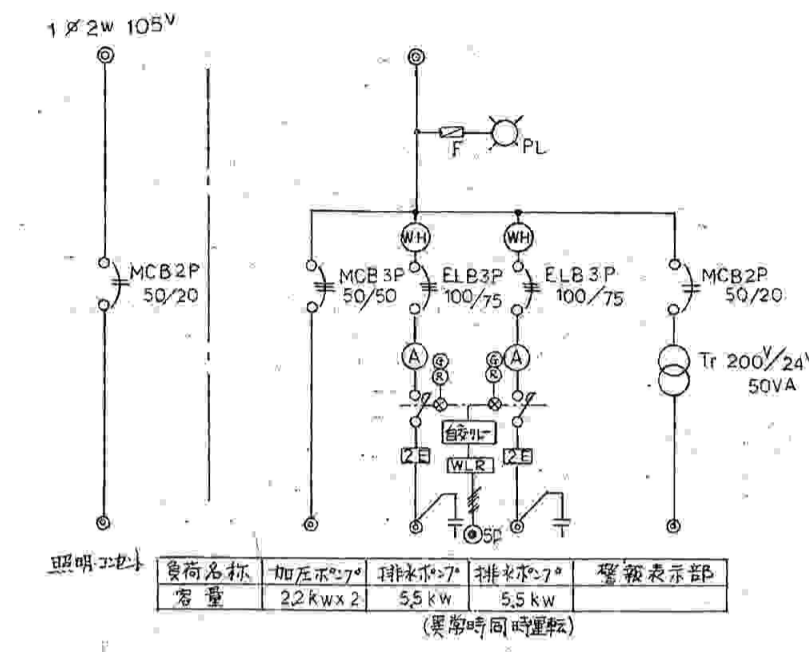
各戸分電盤 (露出型)  
 < ホム分電盤可能 >  
 L-D-1



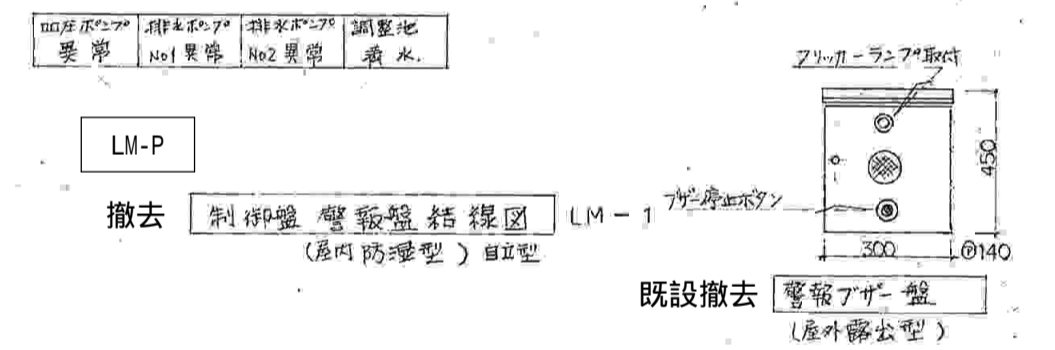
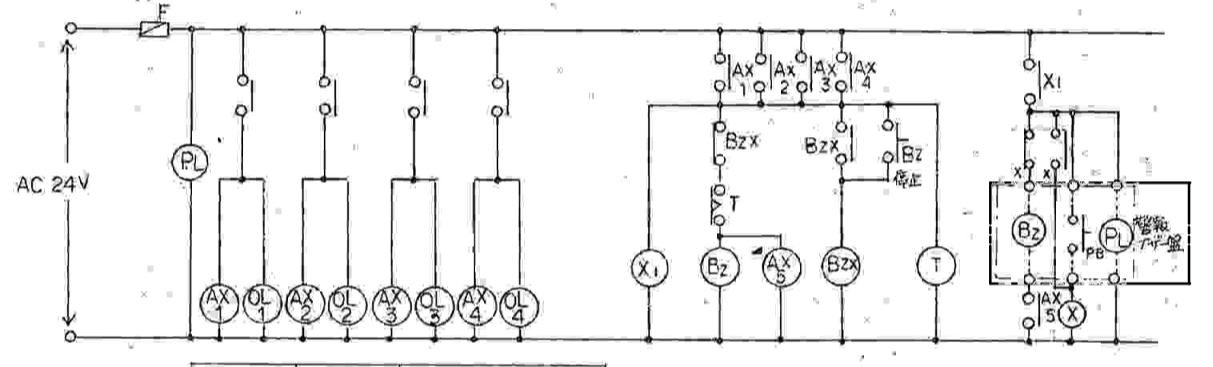
撤去 WH-2 (屋外型)



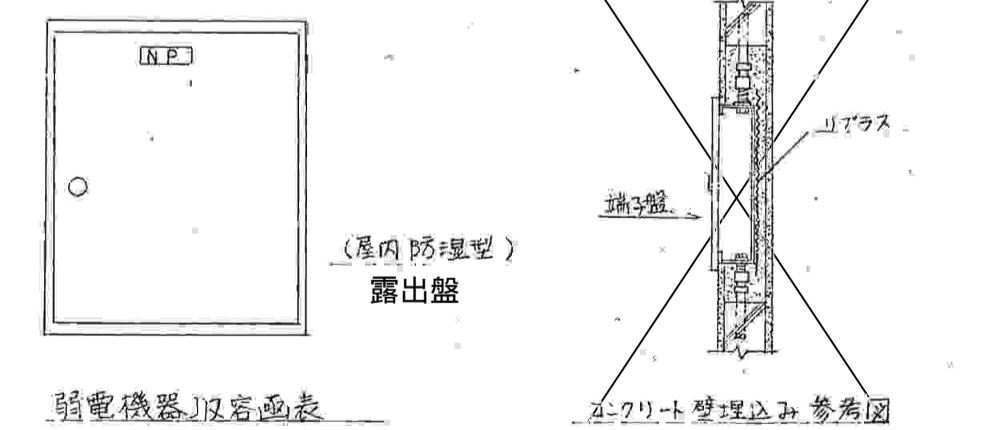
各戸分電盤 (露出型)  
 < ホム分電盤可能 >  
 L-A-1, 2, 3  
 L-D-1, 2, 3, 4  
 L-C-1, 2, 3, 4  
 L-D-2, 3, 4  
 L-E-1, 2, 3, 4  
 L-F-1, 2, 3, 4  
 L-G-1, 2, 3, 4  
 L-H-1, 2, 3



照明回路  
 負荷名称 加圧ボック 排気ボック 排気ボック 警報表示部  
 容量 22kw x 2 5.5kw 5.5kw  
 (異時同時運転)  
 既設  
 新電力ケーブルは既設ケーブルに引き継ぐ



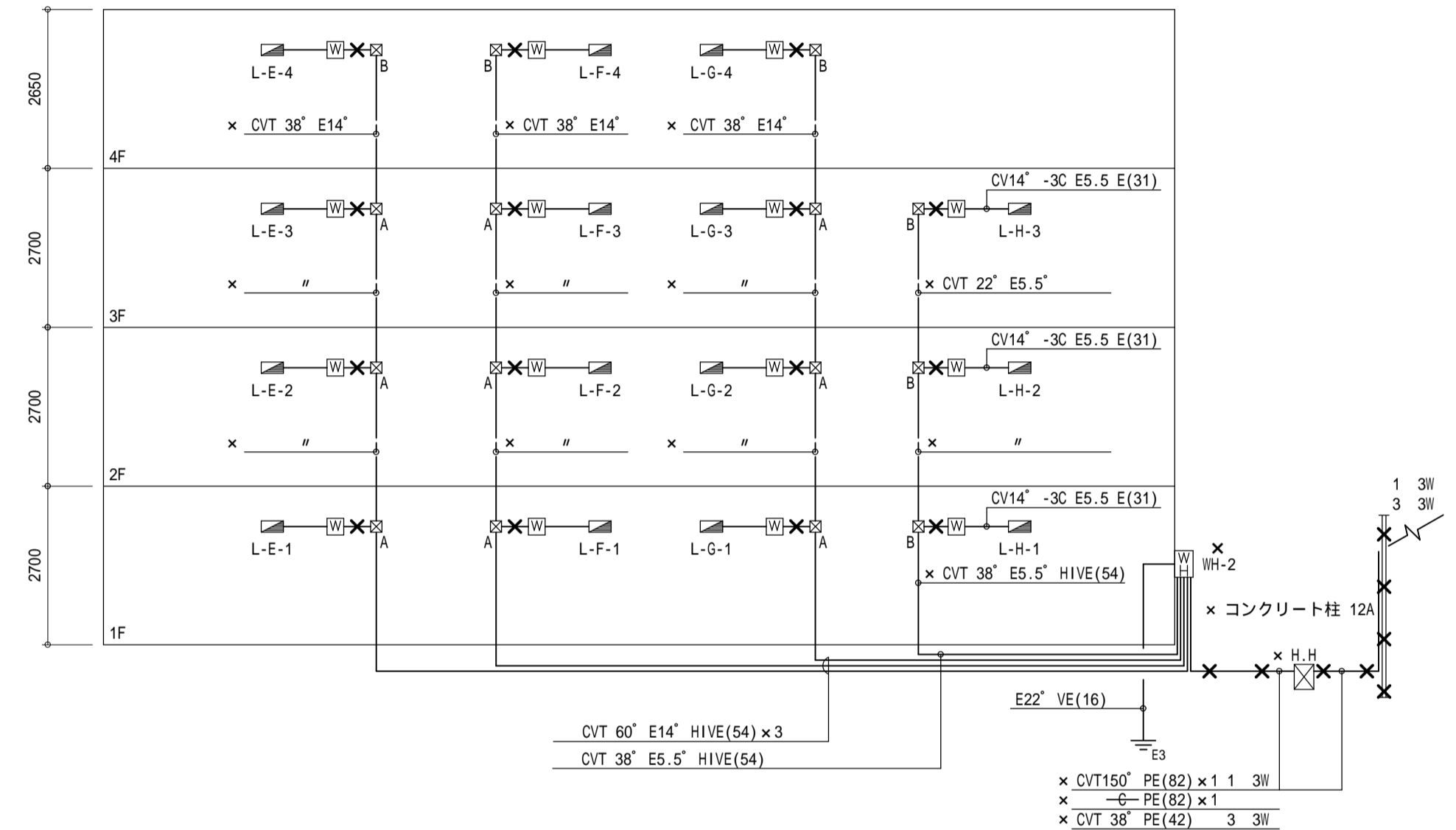
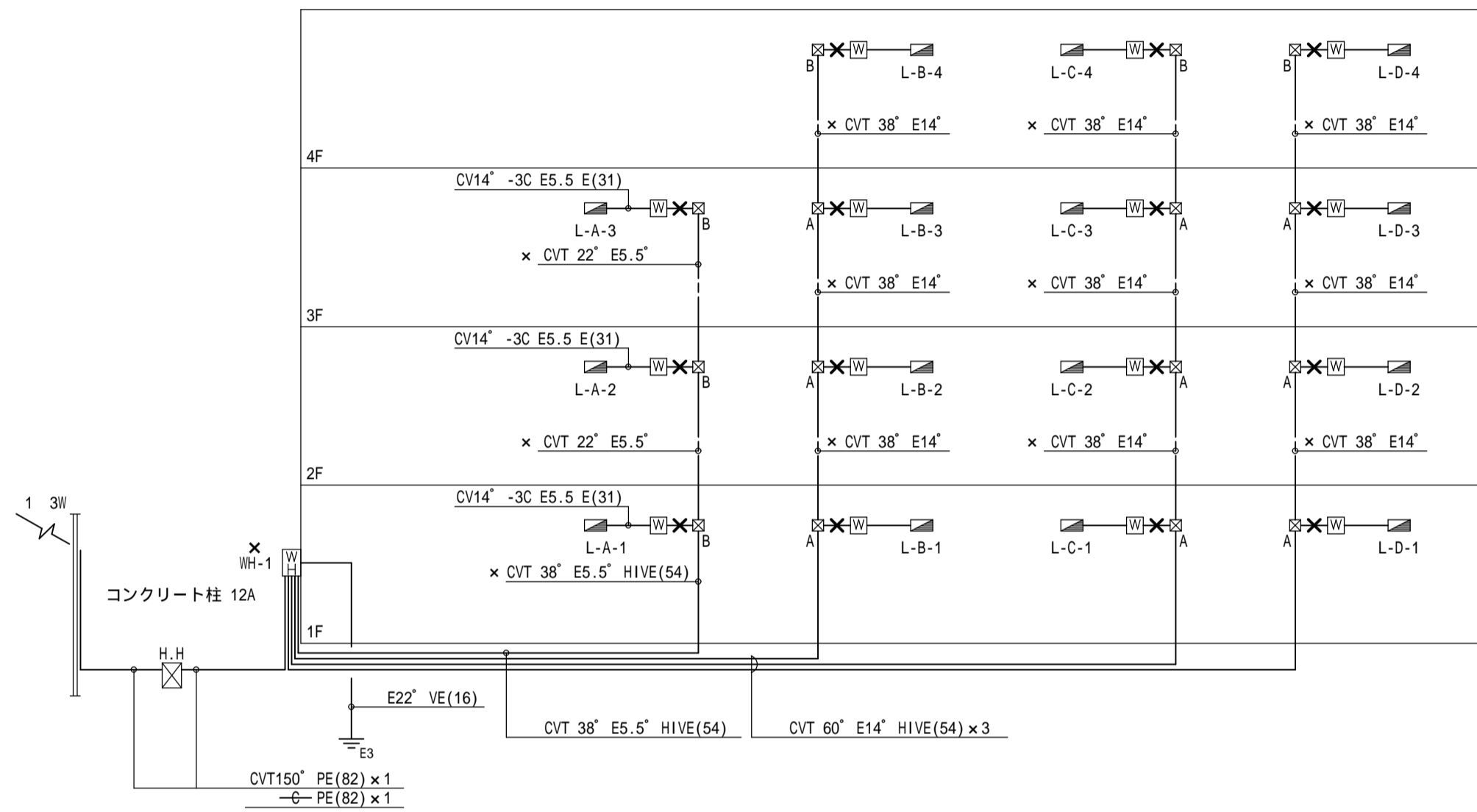
LM-P  
 撤去 制御盤 警報盤 結線図 (屋内防湿型) 自記型  
 既設撤去 警報ブザー盤 (屋外露出型)  
 K-P 警報ブザー盤と同内容仕様盤2面新設



弱電機器収容面表

記号	名称	収容機器	寸法	備考
D-1	テレビ機器収容面	2分電器x1, 増幅器x1 4分電器x2	820x600x150	
D-2	"	2分電器x1, 増幅器x1 4分電器x2, 増幅器x1	1020x600x150	増幅器x1は 既設品x1に引き継ぐ
D-3	"	4分電器x3, 増幅器x1	820x600x150	
T-1~T-4	扇形端子盤	接点器 10P スペース 端子盤 20P	500x450x135	

印取替  
 印再使用  
 x印撤去

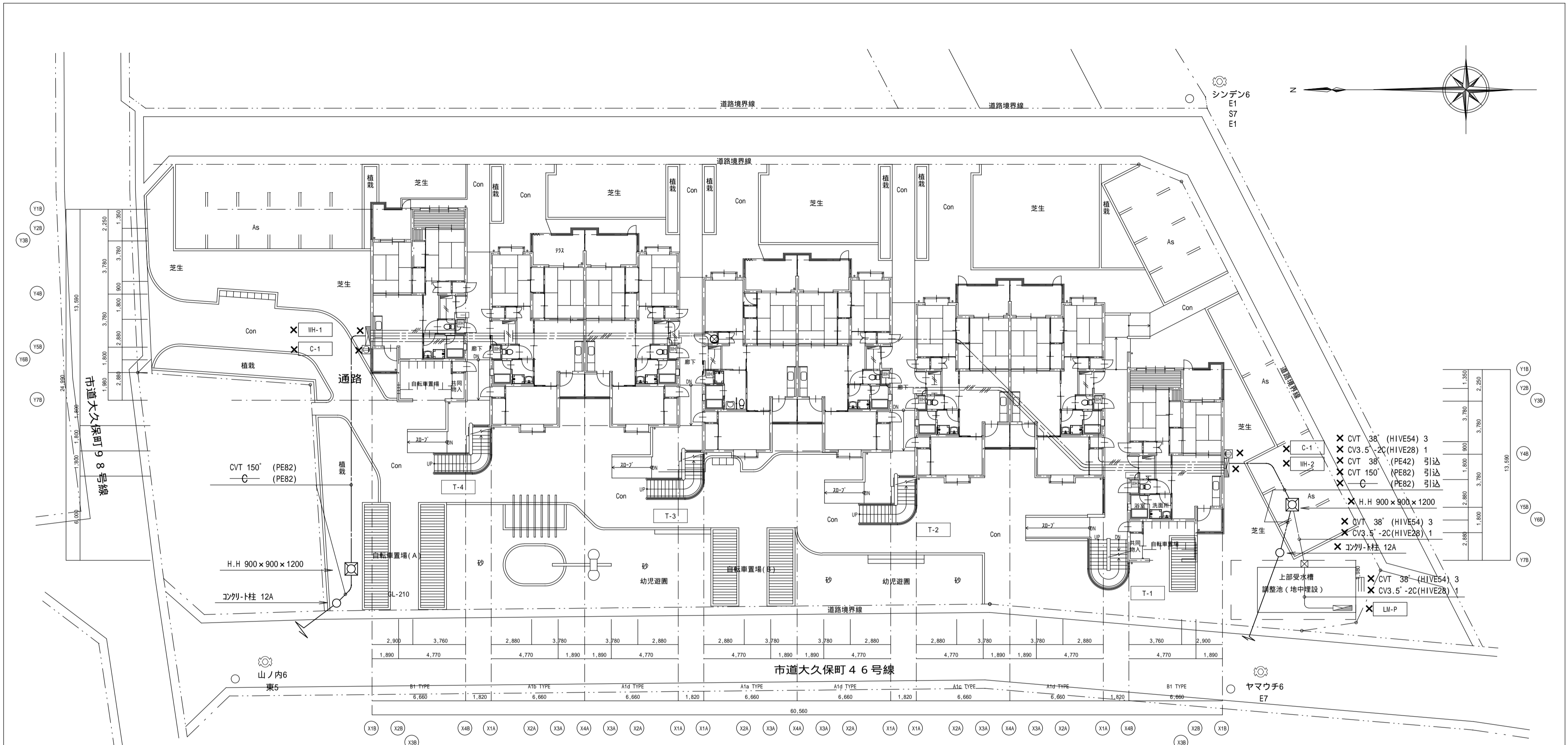


- 注記)
1. 特記なき場合各戸分電盤送りはCV14<sup>°</sup> -3C E5.5 E(31)とする。
  2. プルボックスサイズは下記による。  
 □A 300×300×200    □B 200×200×100
  3. 電線、ケーブルは撤去 打ち込み配管は放棄 地中埋設管は可能な限り撤去。

幹線系統図

- 印 既設撤去取替
- 印 既設機器一時撤去清掃後再取付
- 印 ケーブル撤去 電線管放棄
- 印 ケーブル撤去 電線管再使用
- 印 既存のまま
- ×印 撤去

備考	吉村建築事務所 1級建築士登録第248236号 吉村 薫	工事名	大久保旦椋市営住宅受水槽ほか改修工事	設計年月日	2024. 11 .	図面番号	E - 04
		図面名	幹線系統図 (現況・撤去)	縮尺			



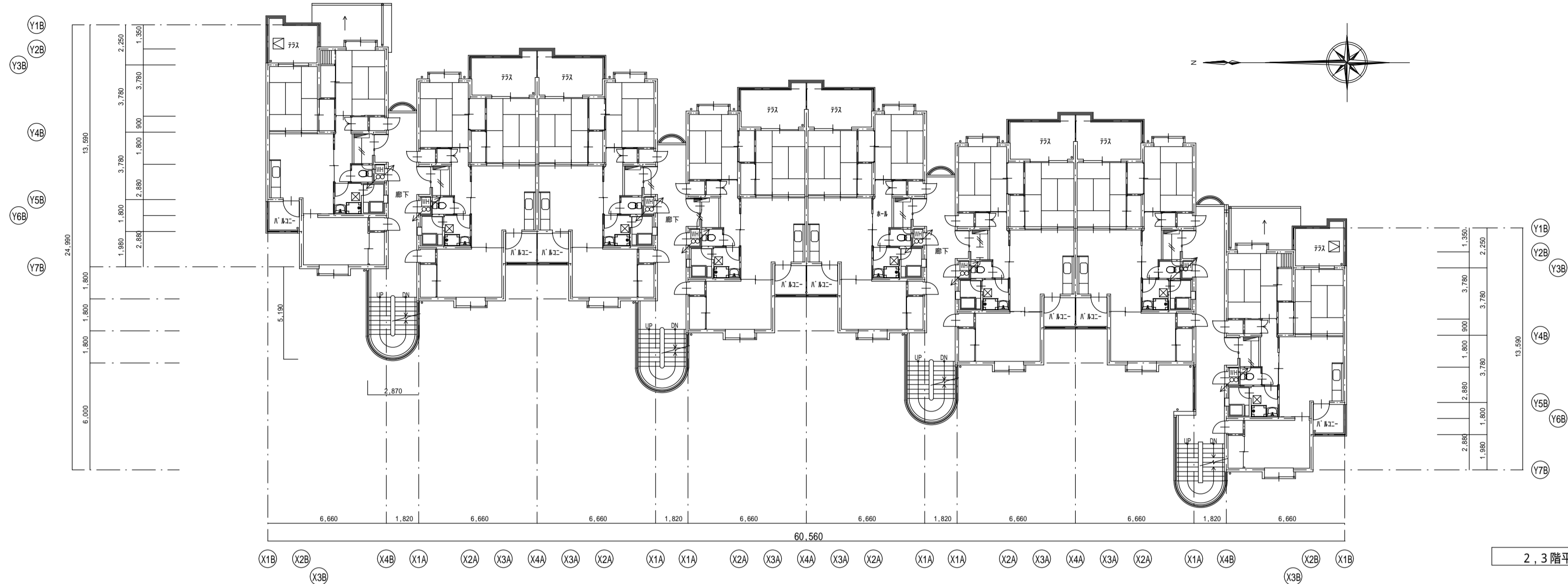
1階平面図 S=1/200

- 印 既設撤去取替
- 印 既設機器一時撤去清掃後再取付
- 印 ケーブル撤去 電線管放棄
- 印 ケーブル撤去 電線管再使用
- 印 既存のまま
- ×印 撤去

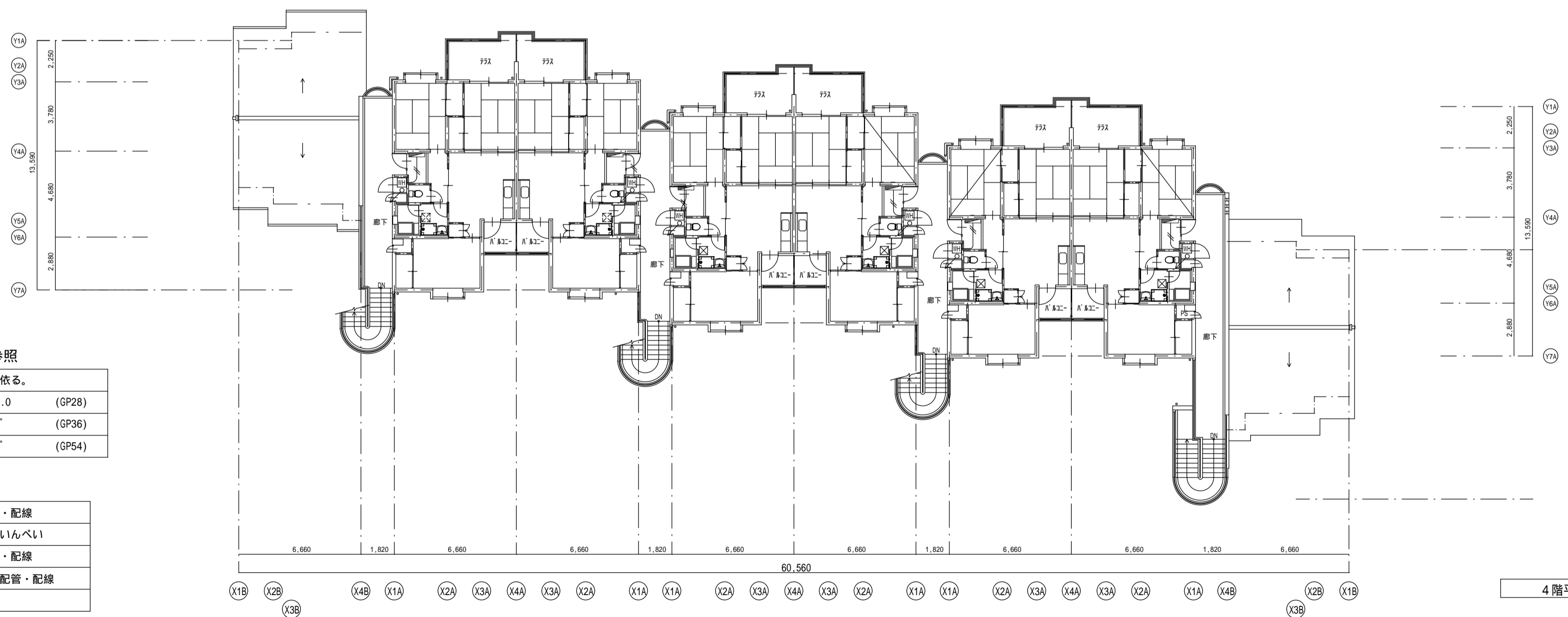
配管・配線

-----	露出配管・配線
-----	天井・壁いんべい
-----	床下配管・配線
-----	地中埋設配管・配線
-----	架空配線

記載なき配管配線は、下記に依る。	
-----	CVV 2' -2C (HIVE22)
-----	CV 14' -3C E5.5' (EP31)
-----	CVT 38' E14' (HIVE54)
-----	CVT 60' E14' (HIVE54)



2, 3階平面図 S=1/300



4階平面図 S=1/300

立上げ立下げは系統参照

記載なき配管配線は、下記に依る。

	CV 5.5" -3C E2.0	(GP28)
	CVT 14" E5.5"	(GP36)
	CVT 38" E5.5"	(GP54)

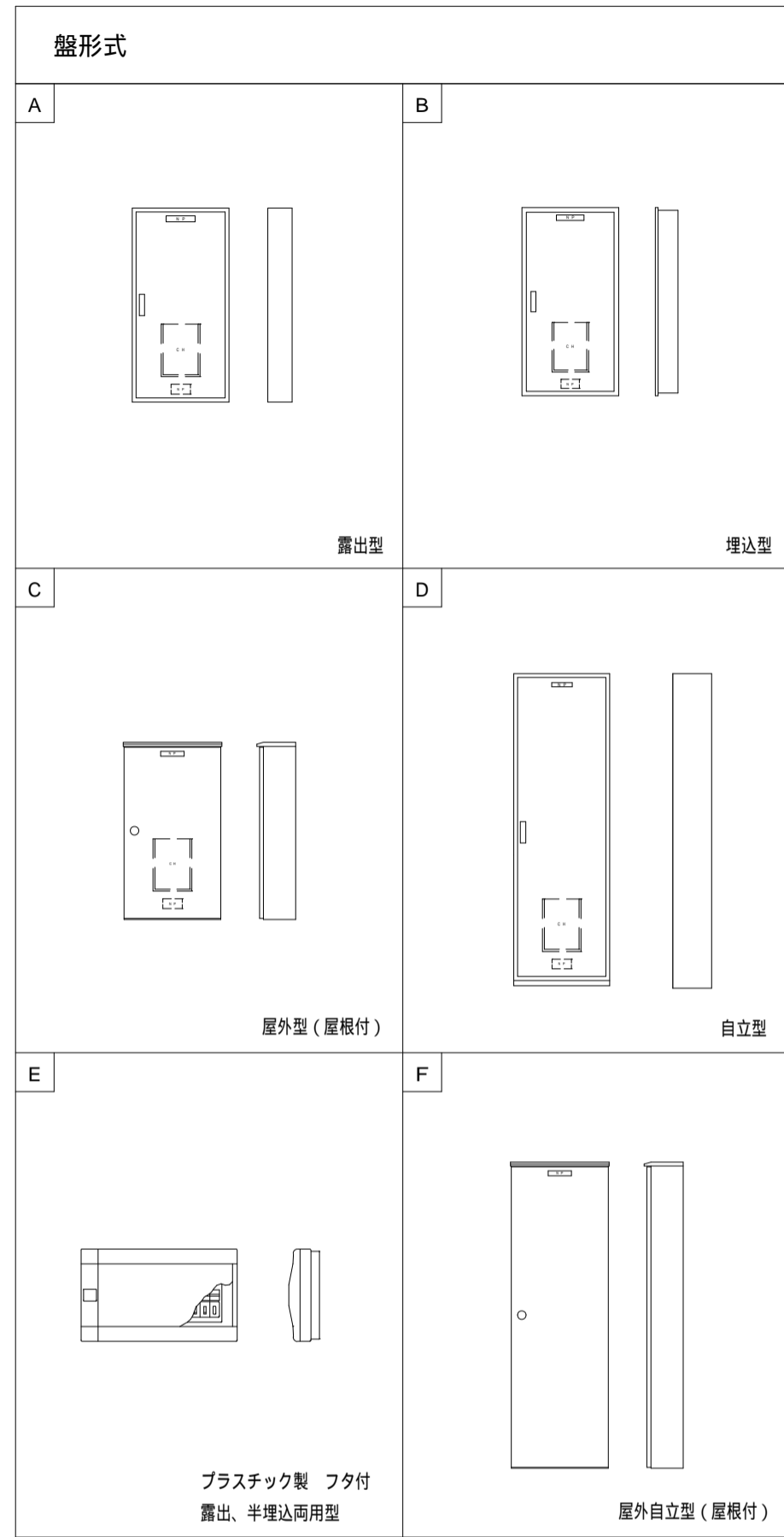
配管・配線

	露出配管・配線
	天井・壁いんべい
	床下配管・配線
	地中埋設配管・配線
	架空配線

備考	

吉村建築事務所  
1級建築士登録第248236号 吉村 薫

工事名	大久保旦椋市営住宅受水槽ほか改修工事	設計年月日	2024. 11 .	図面番号	E - 06
図面名	電気設備 2～4階平面図(現況・撤去)	縮尺	1/200		

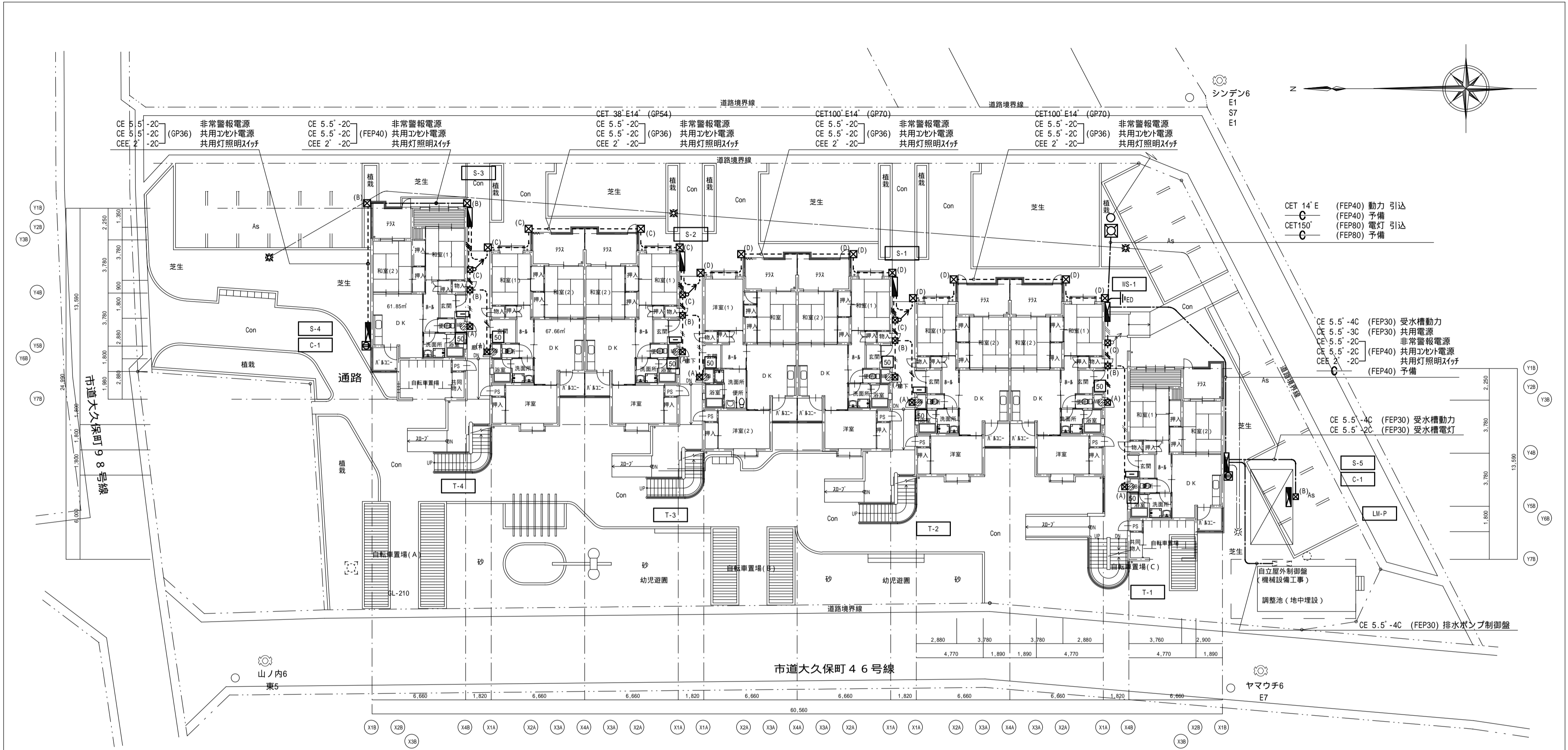


分電盤回路記号

- 分岐開閉器は協約形（コンパクトサイズ）とする。
- （注記）
- 1、中扉は全ての盤に取付の事。
  - 2、点検用コンセント回路のある盤の側面に点検用コンセントを取付とする。  
接地防水コンセント（WK4106 A<sup>+</sup>ソニック）とする。  
取付位置は現場の設置状態により決定の事。
  - 3、盤名称、負荷名称用ネームプレートは亚克力製エッチング文字とする。  
尚取付は $\uparrow$ 止めとする。
  - 4、鍵付とする。（200番）
  - 5、盤鋼板厚は1.6mm以上とする。
  - 6、屋外盤（C・F）は溶融亜鉛メッキ指定色とし他は製造者標準仕様とする。

盤名称 幹線 サイズ	回路 番号	回路名称	分岐開閉器			負荷 容量 (VA)	摘要	
			ELB	MCB	P AF AT			
WS-1 外部露出型 F 溶融亜鉛メッキ 指定色塗装 1 3W CET 14sq CVT150 <sup>+</sup> MCB3P 400AF/300AT WH	L5	S-5	○	3	50 30	1600	CE5.5 <sup>-</sup> -3C	
	5	廊下共用灯	○	2	30 20		S-4	
	6	TV <sup>+</sup> -スタ-コンセント	○	2	30 20		S-4	
	L1	A <sup>+</sup> 17' × 4 B <sup>+</sup> 17' × 3	○	3	100 100	16400	CET 38sq	
	LA	A <sup>+</sup> 17' × 20 B <sup>+</sup> 17' × 3	○	3	225 225	41800	CET100sq	
	M	ポンプ室	○	3	50 50	7.4	CET 14sq	
S-1 外部露出型 C 溶融亜鉛メッキ 指定色塗装 1 3W CET100sq	L2	A <sup>+</sup> 17' × 8	○	3	225 150	23400	CET 60sq	
	LA1	A <sup>+</sup> 17' × 12 B <sup>+</sup> 17' × 3	○	3	225 200	29700	CET100sq	
	S-2 外部露出型 C 溶融亜鉛メッキ 指定色塗装 1 3W CET100sq	L2	A <sup>+</sup> 17' × 8	○	3	225 150	23400	CET 60sq
		LA1	A <sup>+</sup> 17' × 4 B <sup>+</sup> 17' × 3	○	3	100 100	16400	CET 38sq
S-3 外部露出型 C 溶融亜鉛メッキ 指定色塗装 1 3W CET 38sq	L3	A <sup>+</sup> 17' × 4 B <sup>+</sup> 17' × 3	○	3	100 100	16400	CET 38sq	
	S-4 外部露出型 C 溶融亜鉛メッキ 指定色塗装 1 2W 100V CE 5.5 <sup>-</sup> -2C 1 2W 100V CE 5.5 <sup>-</sup> -2C	5	廊下共用灯	○	2	30 20	690	S-5 <sup>へ</sup>
6		TV <sup>+</sup> -スタ-コンセント	○	2	30 20	300		

盤名称 幹線 サイズ	回路 番号	電圧(V)	分岐開閉器			負荷 容量 (VA)	回路名称
			ELB	MCB	P AF AT		
S-5 外部露出型 C 溶融亜鉛メッキ 指定色塗装 1 3W CE5.5 <sup>-</sup> -3C MCB3P 50AF/30AT	1	非常警報設備	○	2	50 20	100	S-4 <sup>へ</sup>
	2	廊下共用灯	○	2	30 20	690	
	3	TV <sup>+</sup> -スタ-ポンプ室				700	
	4	駐輪場	○	2	30 20	100	
LM-P 屋内露出型 C 溶融亜鉛メッキ 1 3W CE5.5 <sup>-</sup> -3C	予備		○	2	30 20	100	
	LM-P		○	3	50 30	3.0	CE5.5 <sup>-</sup> -3C
	排水ポンプ制御盤	○	3	50 30	4.4	CE5.5 <sup>-</sup> -3C	
	予備		○	3	50 30		
自動給水装置	予備		○	3	50 30		
	ポンプ室電源	○	2	30 20	500	EEF 2.0-3C (1E)	
	緊急遮断分制御盤	○	2	30 20	100	EEF 2.0-3C (1E)	
	自動給水装置	○	3	50 30	3.0	CE5.5 <sup>-</sup> -3C	
予備	予備		○	3	50 30		
	予備		○	3	50 30		
警報表示組込 表示灯 盤庫	1	受水槽 満水					
	2	受水槽 減水					
C-1 外部露出型 C 溶融亜鉛メッキ 指定色塗装 1 2W 100V 計 2面	1	受水槽 満水					
	2	受水槽 減水					
T-1 外部露出型 計 4面 W: 450 H: 500 D: 135	1	受水槽 満水					
	2	受水槽 減水					
T-4 外部露出型 C 溶融亜鉛メッキ 指定色塗装 筐体取替え 内部部品再利用	1	受水槽 満水					
	2	受水槽 減水					
盤内コンセント	盤内コンセント						露出 2P15A × 2ET
	盤内コンセント						



1階平面図 S=1/200

RC貫通(ダクト/カッターによる)  
傍記Fは区画貫通処理を行う

50	50 × 200L
75	75 × 200L
100	100 × 200L

配管・配線

----	露出配管・配線
—	天井・壁いんべい
—	床下配管・配線
—	地中埋設配管・配線
—	架空配線

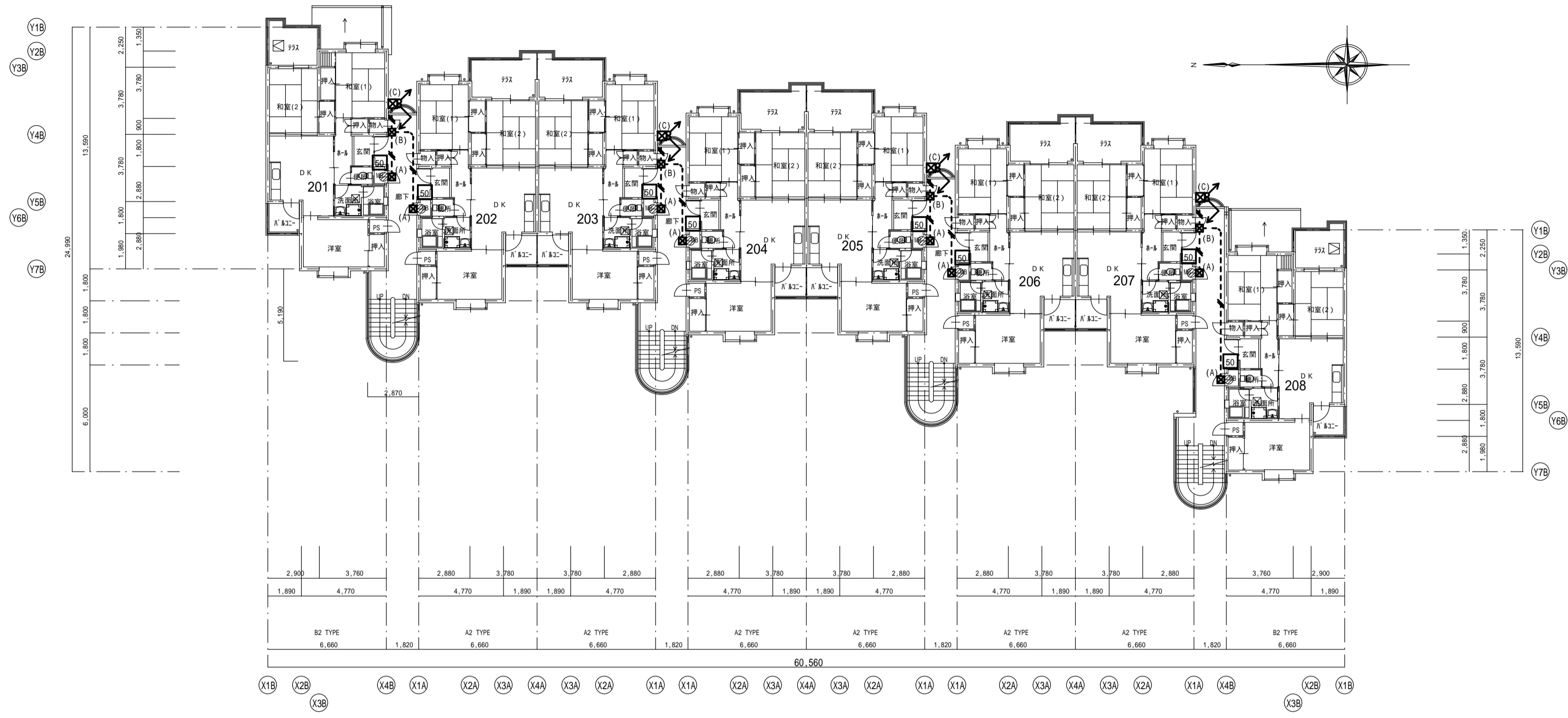
記載なき配管配線は、下記に依る。

—	CE 5.5'-4C (1E)	(GP28)
—	CET 14" E5.5'	(GP36)
—	CET 38" E5.5'	(GP54)

露出部塗装は本工事。

(特記事項)

露出配管塗装は本工事		
凡例	☒ (A)	P, BOX SS 200 × 200 × 200 WP-SUS
	☒ (B)	P, BOX SS 300 × 300 × 200 WP-SUS
	☒ (C)	P, BOX SS 400 × 400 × 300 WP-SUS
	☒ (D)	P, BOX SS 500 × 500 × 300 WP-SUS
	⊙	壁貫通(ダクト/カッター) 貫通処理は国交省大臣認定工法
	☒	EXP. J



2階平面図 S=1/200

RC貫通(ダ イフド カッ)-による)  
傍記 F は区画貫通処理を行う

50	50 × 200L
75	75 × 200L
100	100 × 200L

配管・配線

-----	露出配管・配線
-----	天井・壁いんべい
-----	床下配管・配線
-----	地中埋設配管・配線
-----	架空配線

記載なき配管配線は、下記に依る。

---	CE 5.5" -4C (1E)	(GP28)
---	CET 14" E5.5"	(GP36)
---	CET 38" E5.5"	(GP54)

露出部塗装は本工事。

(特記事項)

露出配管塗装は本工事		
凡例	☒ (A)	P,BOX SS 200×200×200 WP-SUS
	☒ (B)	P,BOX SS 300×300×200 WP-SUS
	☒ (C)	P,BOX SS 400×400×300 WP-SUS
	☒ (D)	P,BOX SS 500×500×300 WP-SUS
	⊗	壁貫通(ダ イフド カッ)- 貫通処理は国交省大臣認定工法
	☒ · · ☒	EXP.J



3階平面図 S=1/200

RC貫通(ダクト/カマによる)  
傍記Fは区画貫通処理を行う

50	50	×200L
75	75	×200L
100	100	×200L

配管・配線

-----	露出配管・配線
-----	天井・壁いんべい
-----	床下配管・配線
-----	地中埋設配管・配線
-----	架空配線

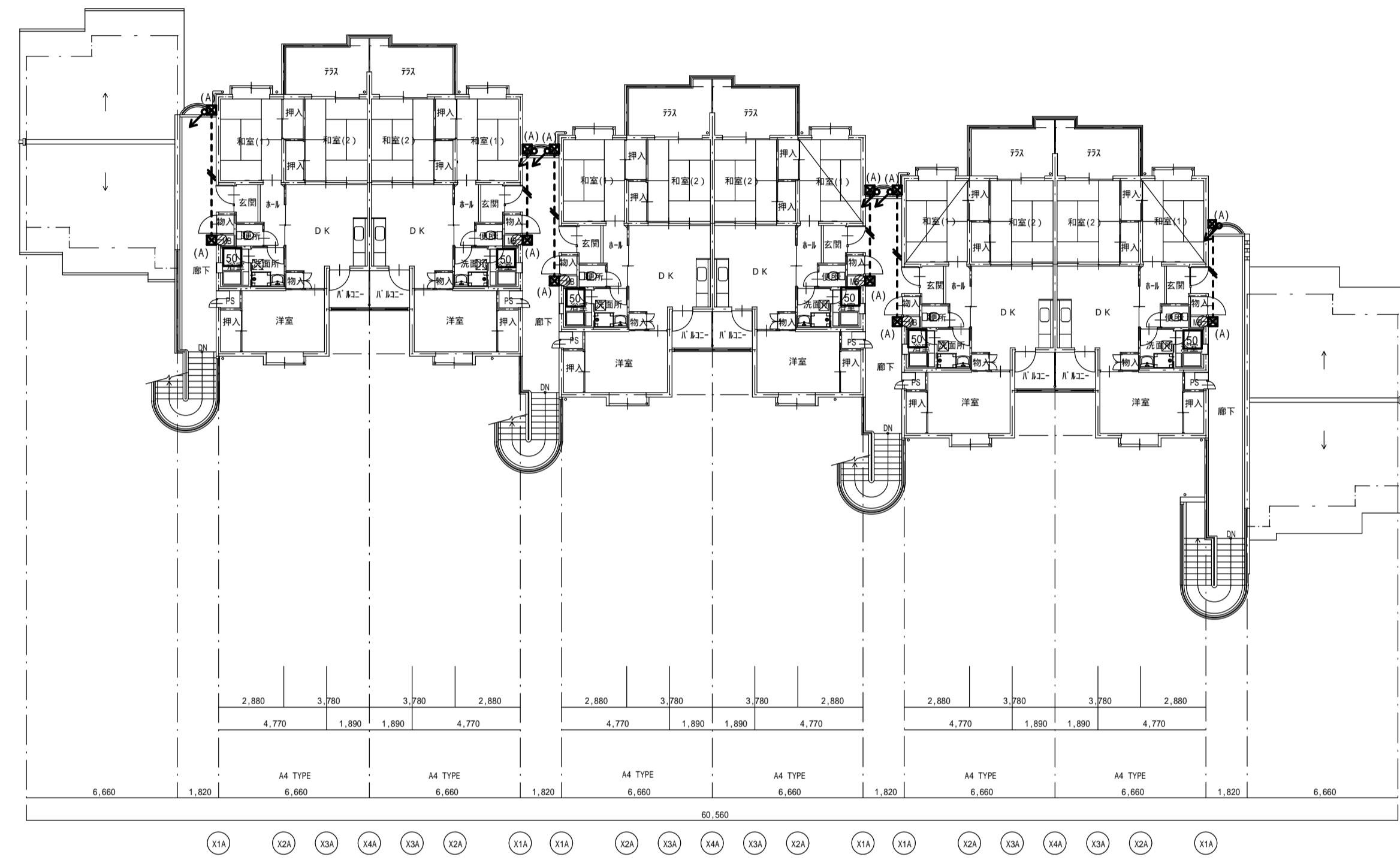
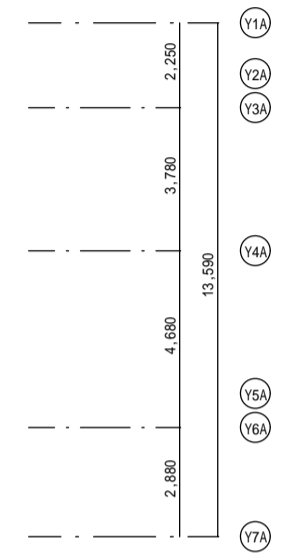
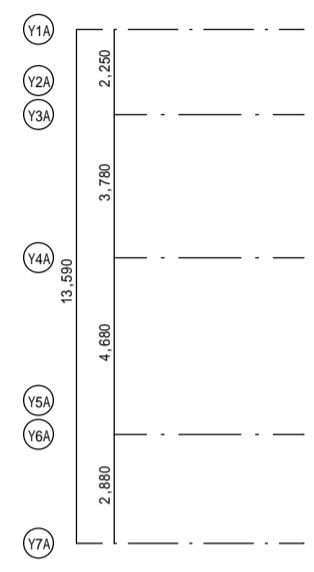
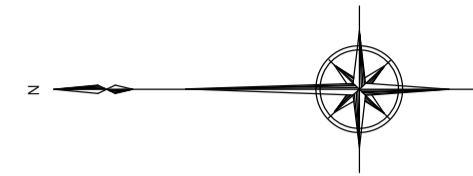
記載なき配管配線は、下記に依る。

---	CE 5.5" -4C (1E)	(GP28)
---	CET 14" E5.5"	(GP36)
---	CET 38" E5.5"	(GP54)
露出部塗装は本工事。		

(特記事項)

露出配管塗装は本工事		
凡例	☒ (A)	P,BOX SS 200×200×200 WP-SUS
	☒ (B)	P,BOX SS 300×300×200 WP-SUS
	☒ (C)	P,BOX SS 400×400×300 WP-SUS
	☒ (D)	P,BOX SS 500×500×300 WP-SUS
	⊗	壁貫通(ダクト/カマ) 貫通処理は国交省大臣認定工法
	☒	EXP.J





4階平面図 S=1/200

RC貫通(ダ イフド カッパ-による)  
傍記Fは区画貫通処理を行う

50	50 × 200L
75	75 × 200L
100	100 × 200L

配管・配線

-----	露出配管・配線
-----	天井・壁いんべい
-----	床下配管・配線
-----	地中埋設配管・配線
-----	架空配線

記載なき配管配線は、下記に依る。

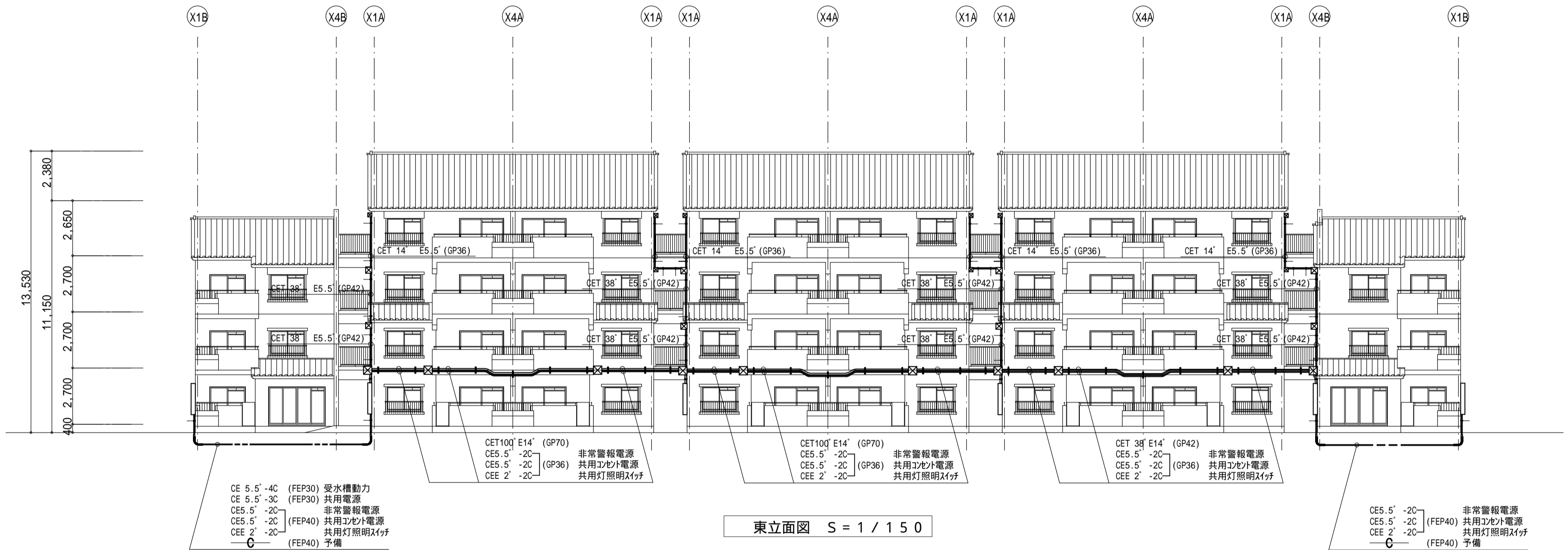
---	CE 5.5" -4C (1E)	(GP28)
---	CET 14" E5.5"	(GP36)
---	CET 38" E5.5"	(GP54)

露出部塗装は本工事。

(特記事項)

露出配管塗装は本工事

凡例	☒(A)	P,BOX SS 200×200×200 WP-SUS
	☒(B)	P,BOX SS 300×300×200 WP-SUS
	☒(C)	P,BOX SS 400×400×300 WP-SUS
	☒(D)	P,BOX SS 500×500×300 WP-SUS
	⊙	壁貫通(ダ イフド カッパ-) 貫通処理は国交省大臣認定工法
	☒ · · ☒	EXP.J



CE 5.5'-4C (FEP30) 受水槽動力  
 CE 5.5'-3C (FEP30) 共用電源  
 CE 5.5'-2C } 非常警報電源  
 CE 5.5'-2C (FEP40) 共用コンセント電源  
 CEE 2'-2C } 共用灯照明スイッチ  
 C (FEP40) 予備

CET100 E14' (GP70)  
 CE 5.5' -2C } 非常警報電源  
 CE 5.5' -2C (GP36) 共用コンセント電源  
 CEE 2' -2C } 共用灯照明スイッチ

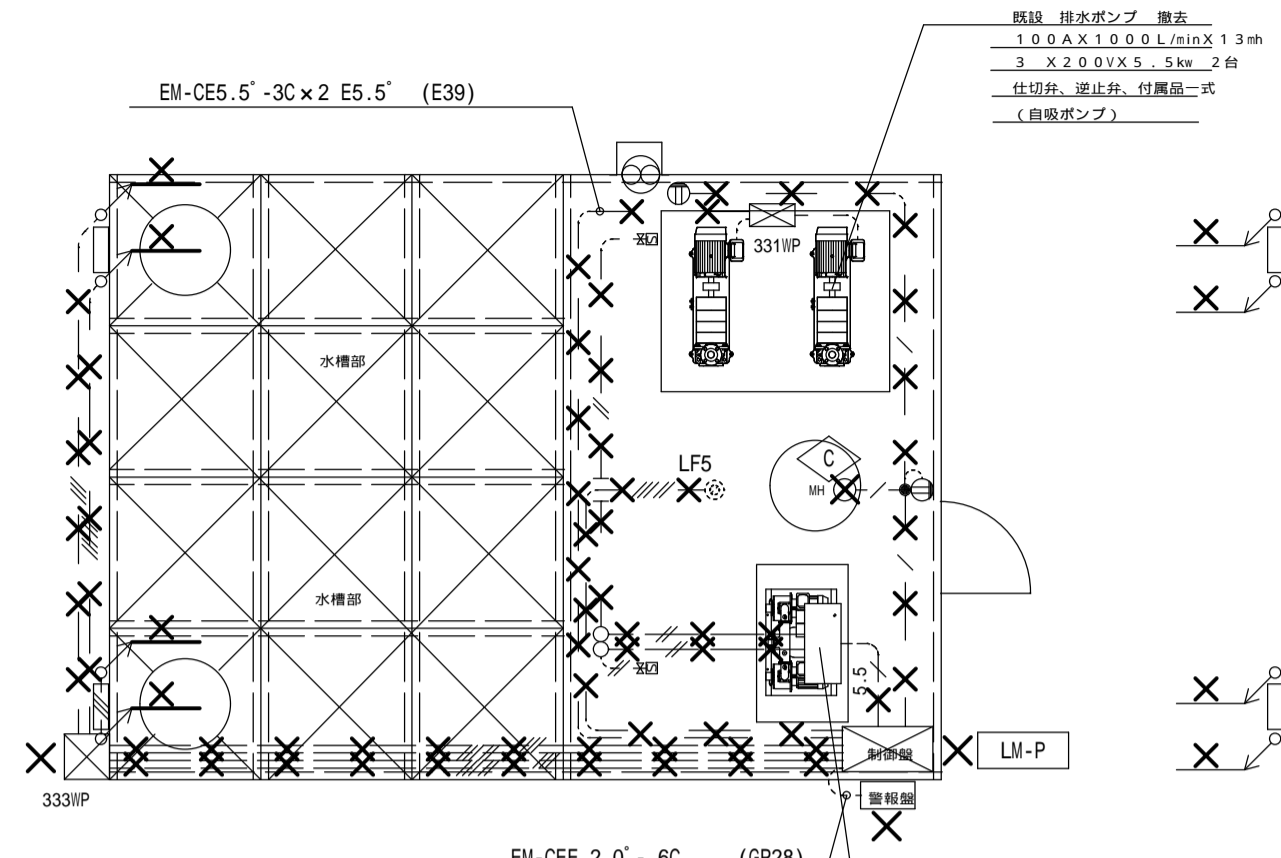
CET100 E14' (GP70)  
 CE 5.5' -2C } 非常警報電源  
 CE 5.5' -2C (GP36) 共用コンセント電源  
 CEE 2' -2C } 共用灯照明スイッチ

CET 38 E14' (GP42)  
 CE 5.5' -2C } 非常警報電源  
 CE 5.5' -2C (GP36) 共用コンセント電源  
 CEE 2' -2C } 共用灯照明スイッチ

CE 5.5' -2C } 非常警報電源  
 CE 5.5' -2C (FEP40) 共用コンセント電源  
 CEE 2' -2C } 共用灯照明スイッチ  
 C (FEP40) 予備

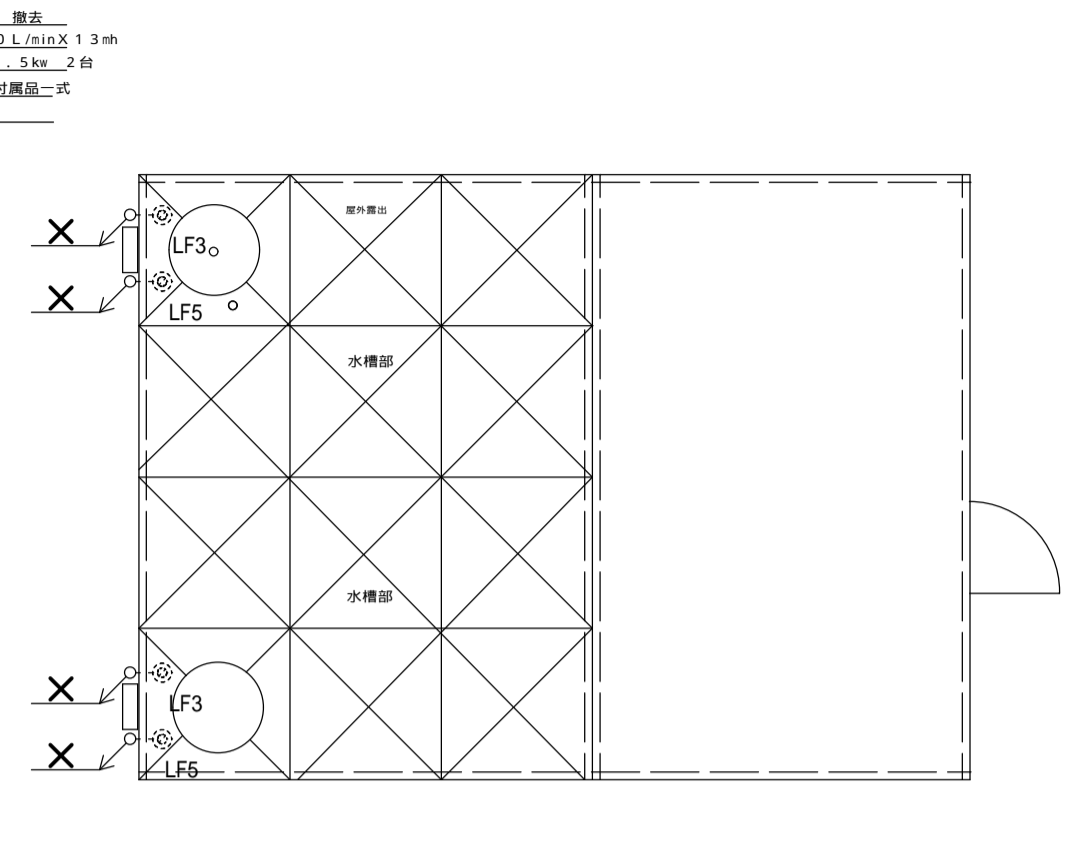
東立面図 S = 1 / 150

記載なき配管配線は、下記に依る。		
	CE 5.5' -4C (1E)	(GP28)
	CET 14' E5.5'	(GP36)
	CET 38' E5.5'	(GP54)
露出部塗装は本工事。		

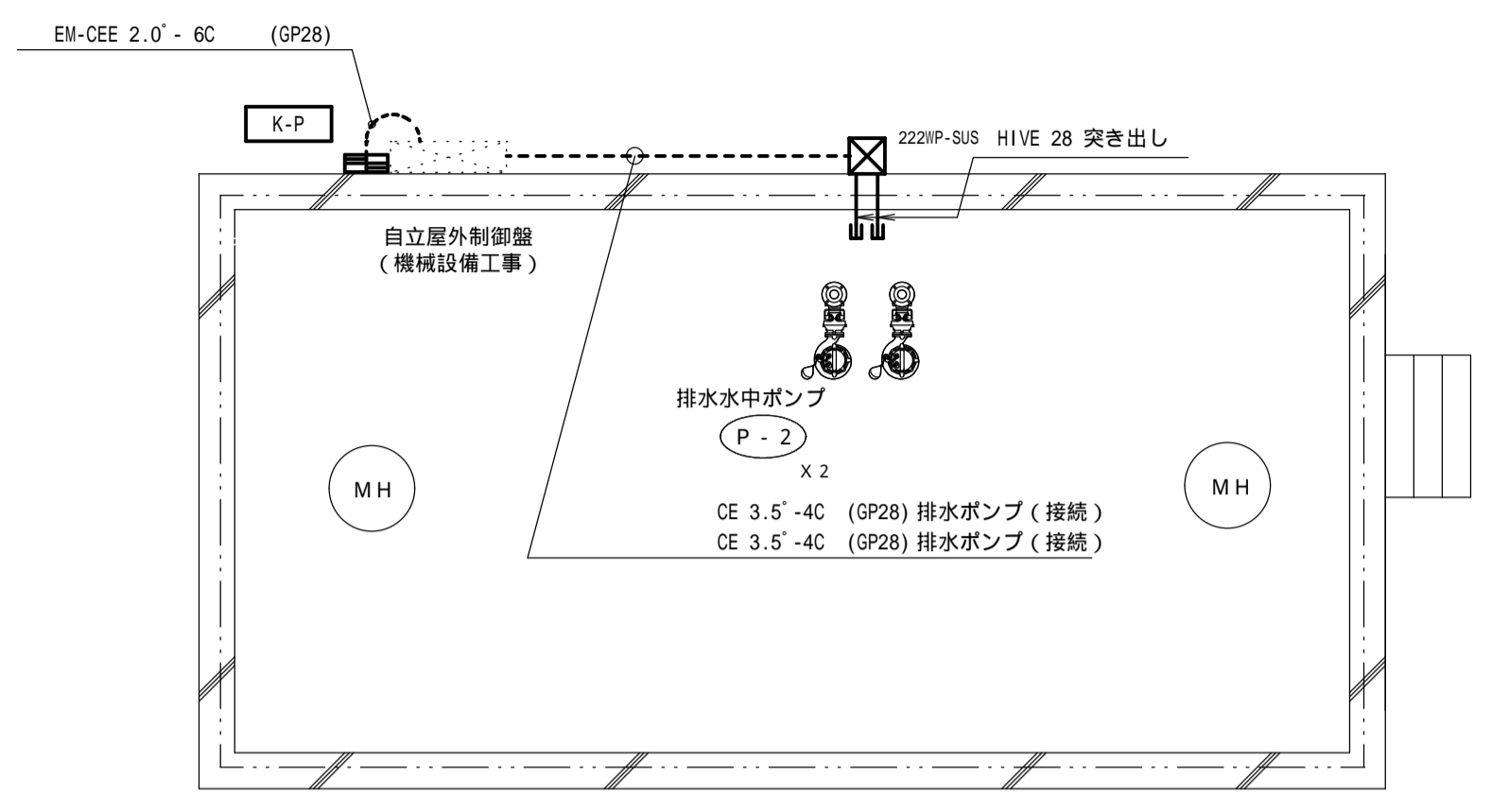


全ての配線配管を撤去（打ち込み管は放棄）  
盤、ボックス等撤去後の穴補修工事

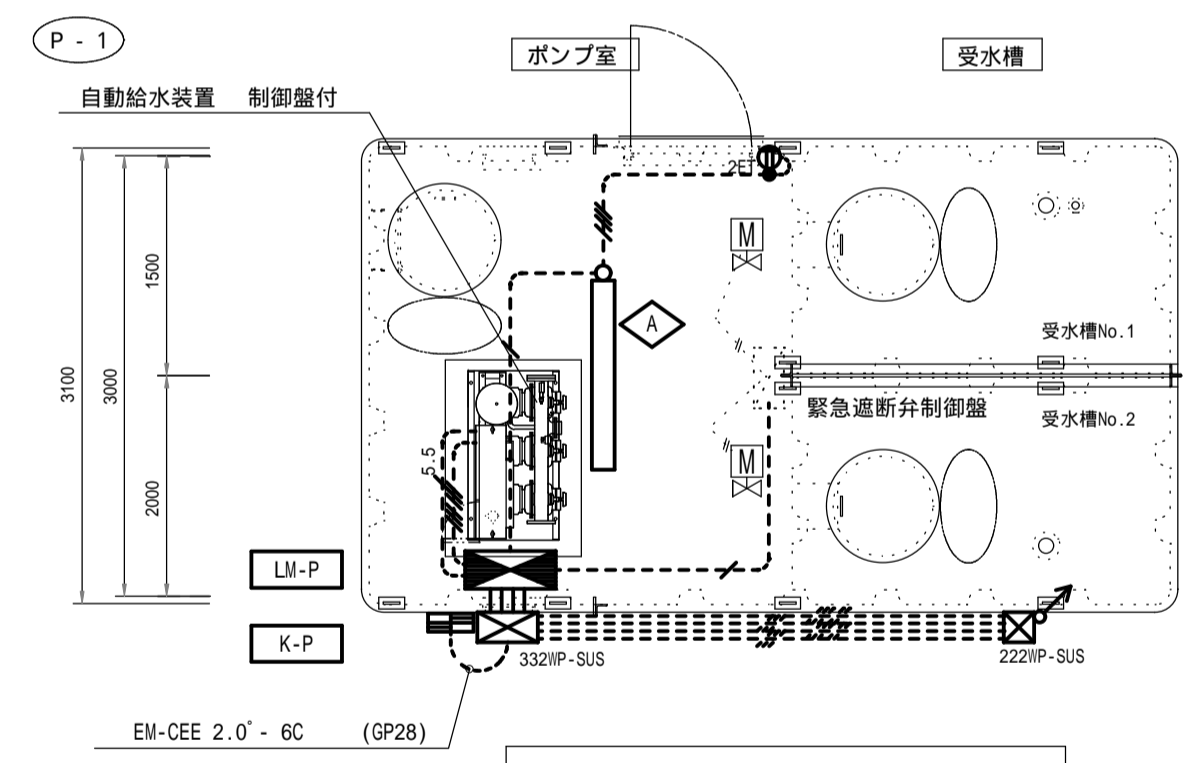
既設受水槽 平面詳細図 1/50 撤去図



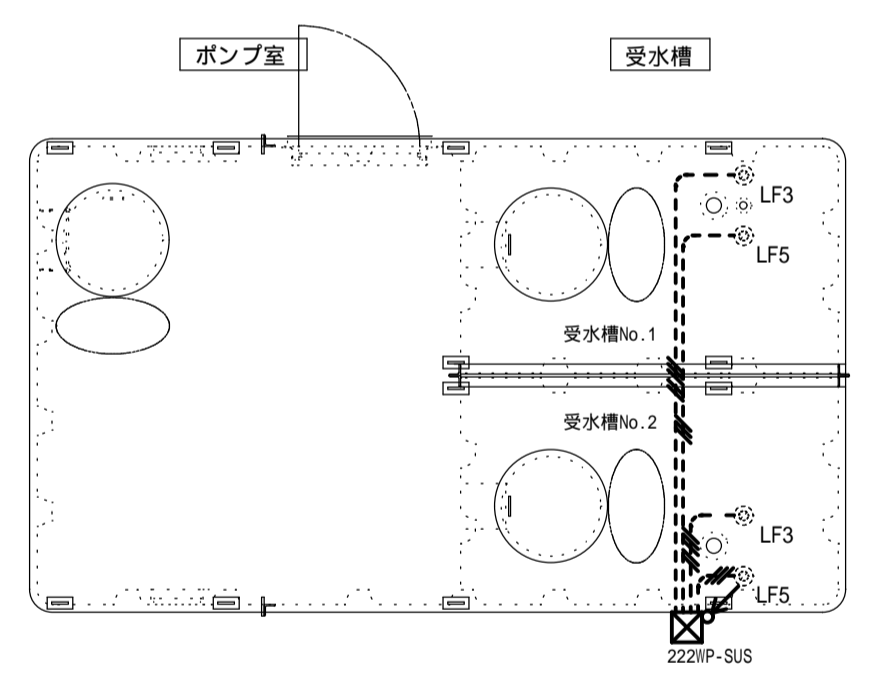
既設受水槽 上部平面図 1/50 撤去図



新設排水槽 平面詳細図 1/50 改修図

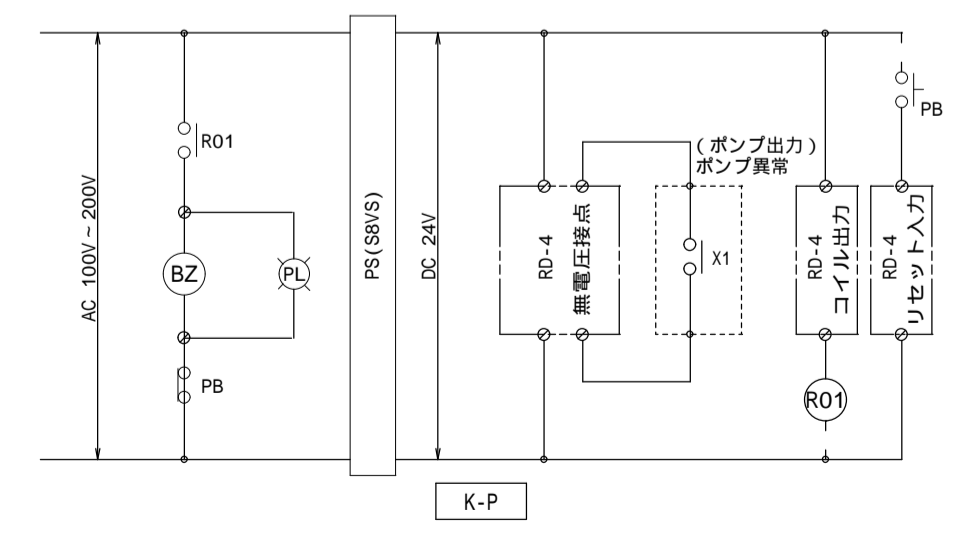


新設受水槽 平面詳細図 1/50



新設受水槽 上部平面図 1/50

A	LSS1MP/RP-4-30	LED 20.6W	C	直付	IL 60W
撤去			撤去		
ガ - ド付 防湿・防雨型			撤去		



配管・配線

----	天井インベイ
----	床インベイ
----	露出
----	地中埋設
.....	機械設備工事

✕ 撤去を表す

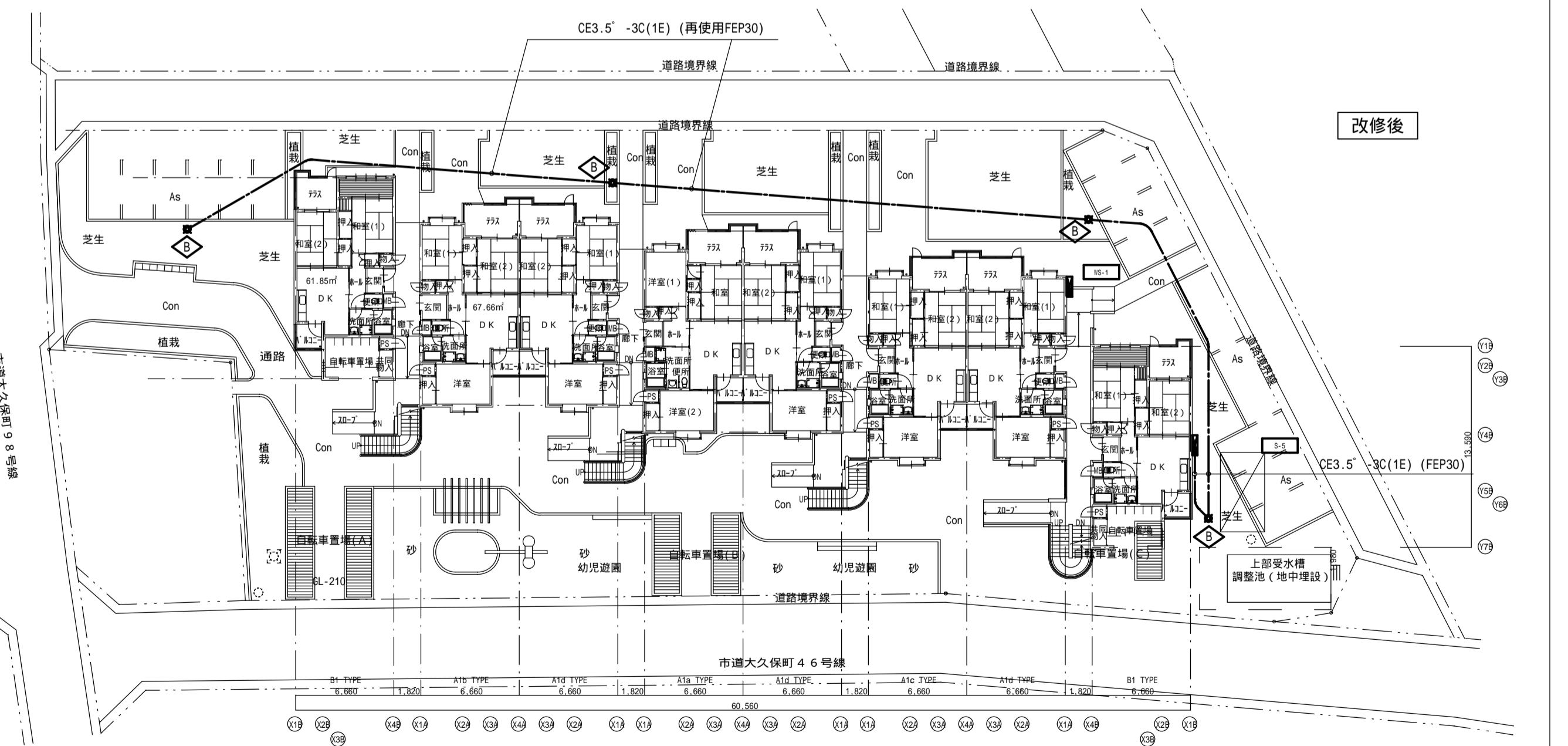
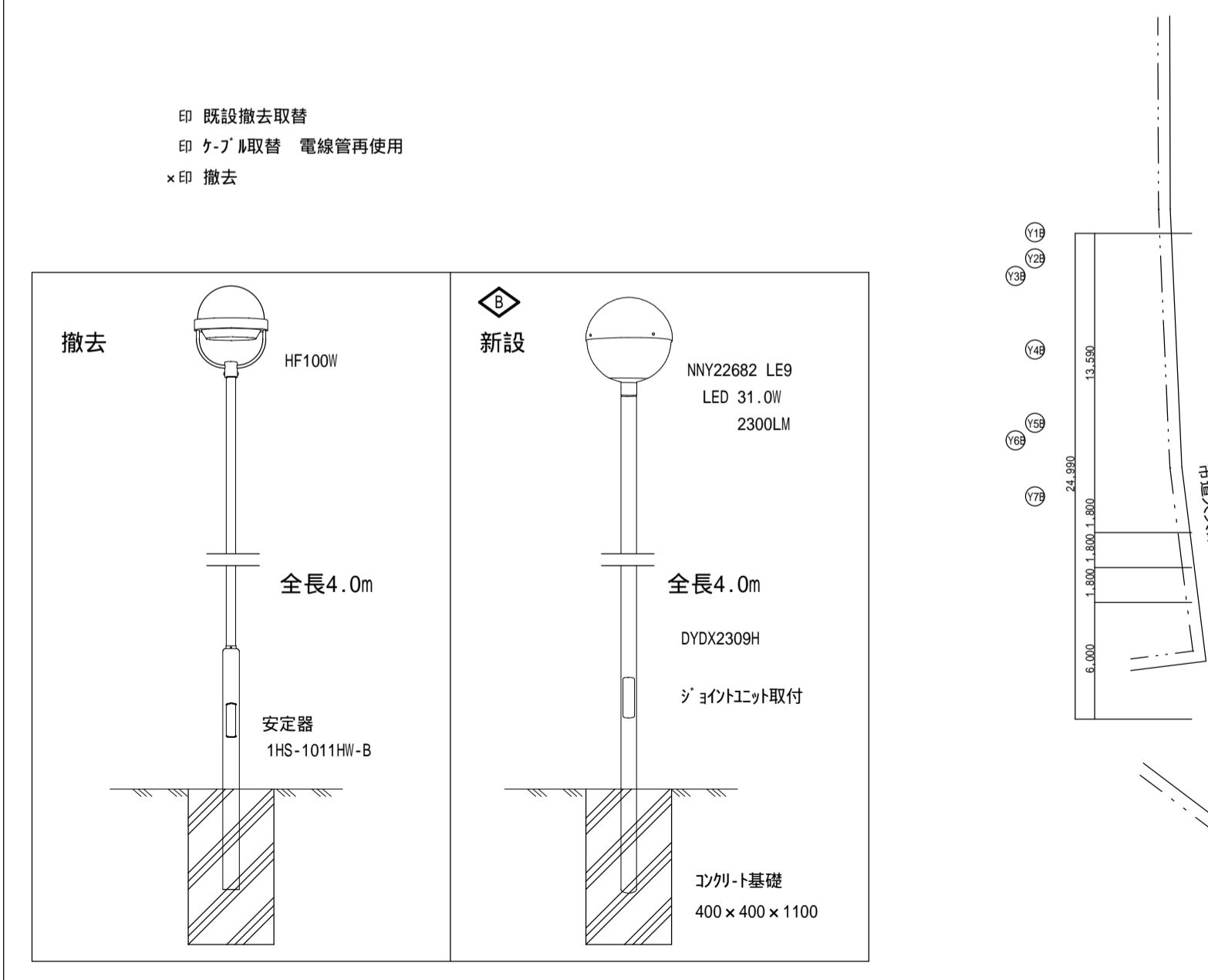
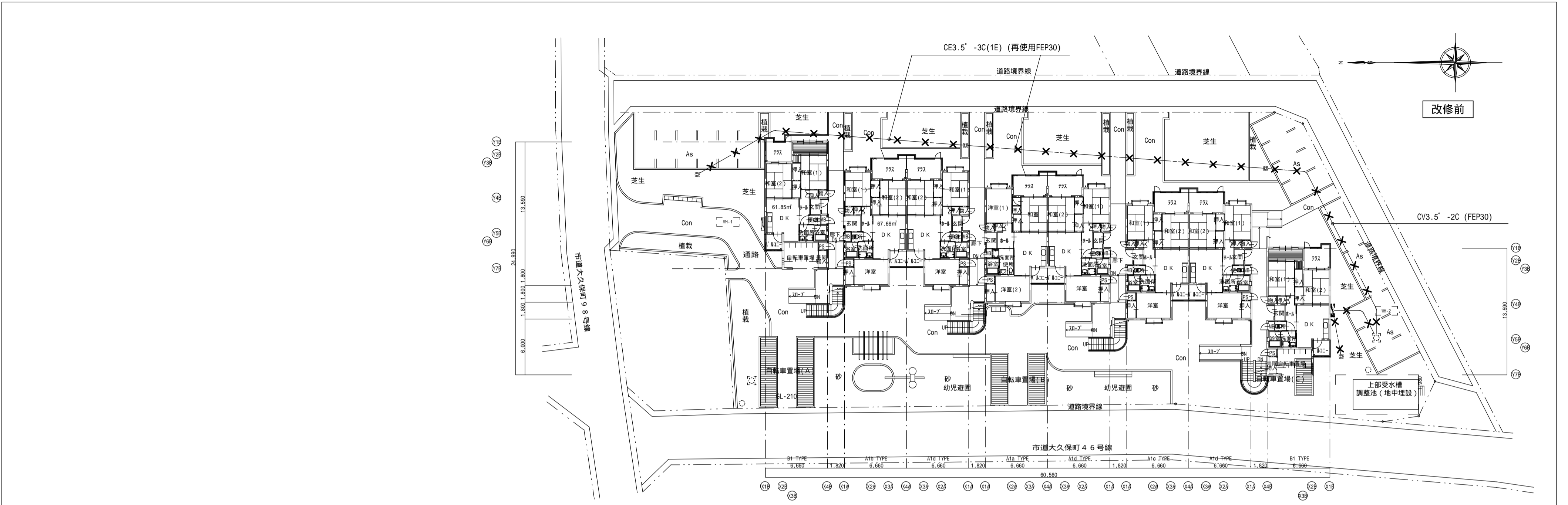
特記事項 記載なき配線は下記とする。

	内部	外部
----	EM-EEF2.0-3C(1E)	(E25)
----	EM-EEF2.0-2C x 2	(E25)
5.5	EM-CE5.5'-3C E5.5'	(E31)
----	EM-CEE 2.0' - 2C	(E19) (G22)
----	EM-CEE 2.0' - 3C	(E25) (G28)
----	EM-CEE 2.0' - 5C	(E25) (G28)
----	EM-CEE 2.0' - 6C	(E25) (G28)

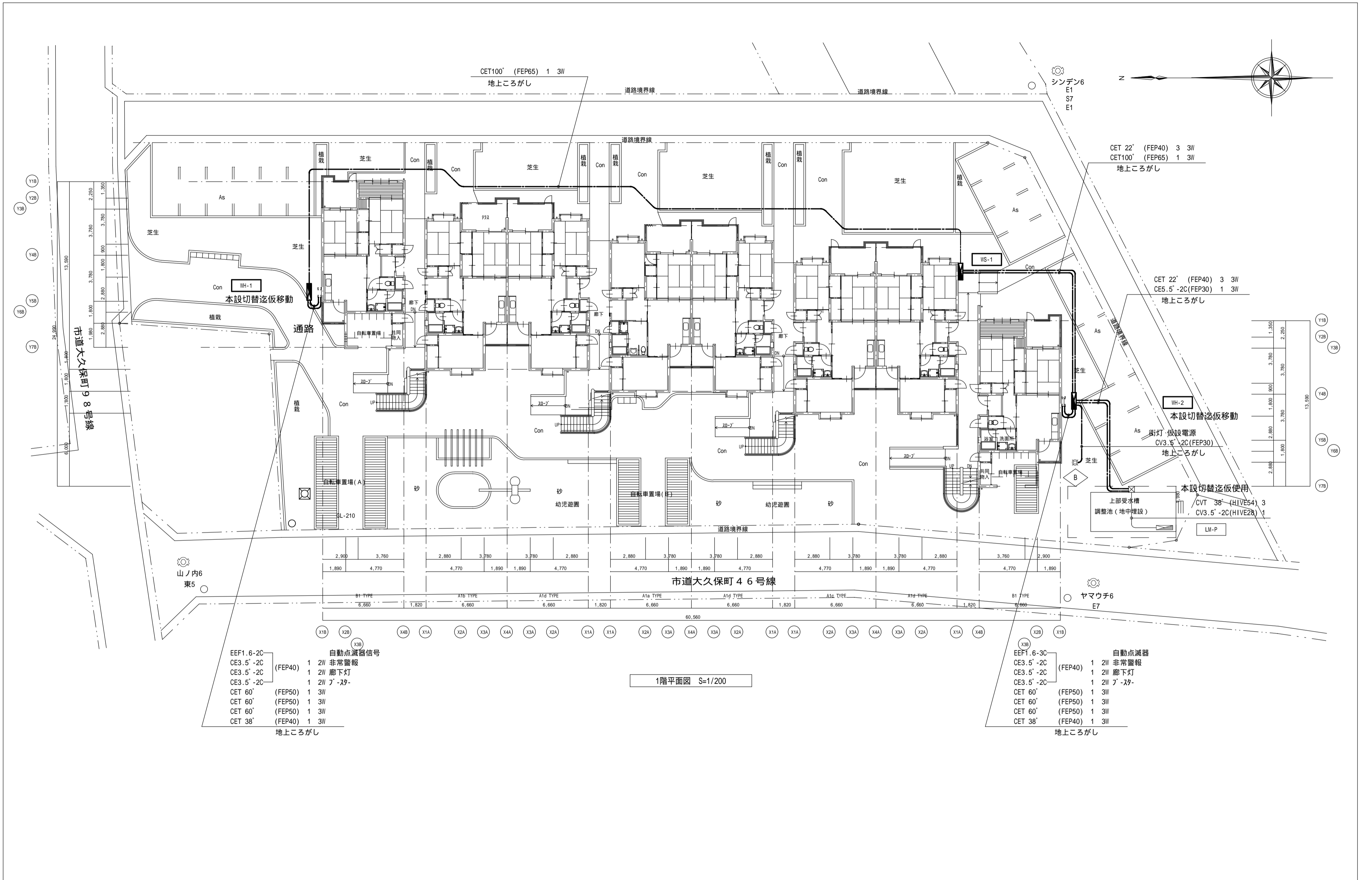
露出配管塗装は本工事

凡例

LM-P	動力制御盤	LM-P
2ET	壁付コネクタ	2P15A x 2 接地端子付
●	壁付スイッチ	1P15A x 1
☒	P, BOX SS SUS	WPは防水仕様
☒ 221	221 : 200 x 200 x 100 SUS	
☒ 332WP	332WP : 300 x 300 x 200 SUSWP	
○	丸型露出BOX	



備考	吉村建築事務所 1級建築士登録第248236号 吉村 薫	工事名 大久保町棕竹市営住宅水槽ほか改修工事 図面名 電灯設備 配置図 (現況・改修)	設計年月日 R06.11 縮尺 1/300	図面番号 E-14
----	---------------------------------	--	--------------------------------	--------------



- 自動点滅器信号
- EEF1.6-2C
  - CE3.5'-2C (FEP40) 1 2W 非常警報
  - CE3.5'-2C 1 2W 廊下灯
  - CE3.5'-2C 1 2W 7'-スタ-
  - CET 60' (FEP50) 1 3W
  - CET 60' (FEP50) 1 3W
  - CET 60' (FEP50) 1 3W
  - CET 38' (FEP40) 1 3W
- 地上こがし

1階平面図 S=1/200

- 自動点滅器
- EEF1.6-3C
  - CE3.5'-2C (FEP40) 1 2W 非常警報
  - CE3.5'-2C 1 2W 廊下灯
  - CE3.5'-2C 1 2W 7'-スタ-
  - CET 60' (FEP50) 1 3W
  - CET 60' (FEP50) 1 3W
  - CET 60' (FEP50) 1 3W
  - CET 38' (FEP40) 1 3W
- 地上こがし

備考	<p>吉村建築事務所</p> <p>1級建築士登録第248236号 吉村 薫</p>	<p>工事名 大久保旦椋市営住宅受水槽ほか改修工事</p>	<p>設計年月日 2024. 11</p>	<p>図面番号 E 15</p>
		<p>図面名 電気設備 1階平面図 (仮設)</p>	<p>縮尺 1/200</p>	